小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

⑤ 貴族のさかえ ●平安時代中期・後期

決定版

●まんが

あおむら　純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

5巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
西原和海

●考証
石井謙治（日本海事史学会名誉会長）
小泉和子（生活史研究所代表）
鈴木友也（日本美術刀剣保存協会専務理事）
高田倭男（高田装束研究所所長）
玉井哲雄（千葉大学名誉教授）

●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

●指導・執筆・協力
岡田威夫（共立女子高校）
朧谷　壽（同志社女子大学名誉教授）
高橋千劔破
谷脇理史（元早稲田大学文学学術院教授）
平井　聖（東京工業大学名誉教授）

●取材協力
石山寺　和泉市久保惣記念美術館　石清水八幡宮　えさし藤原の郷　大阪城天守閣　春日大社　京都文化博物館　宮内庁京都事務所　宮内庁侍従職　宮内庁書陵部　(財)高野山文化財保存会　高野山霊宝館　國王神社　国立歴史民俗博物館　金剛峯寺　神護寺　関ヶ原町歴史民俗資料館　高田倭男　武生市　田中春子　東京芸術大学　東京国立博物館　(財)徳川黎明会・徳川美術館　鞆淵八幡神社　長谷寺　平等院　(財)前田育徳会　尊経閣文庫　(財)陽明文庫　廬山寺

●イラスト・作画協力
池尻克美　大岡龍二　小井土繁　小山春夫
芝知照　制野秀一　深山のぼる
●装丁・レイアウト
功野真矢　佐野恒雄(CSJ)　成澤哲夫(NED)

●版下
大山デザイン　昭和ブライト　タナカデザイン
●編集協力
エディトリアル・プランニング　真英社
風人社　銀杏社　山本美峰
●編集担当
柏原順太　宮部良雄　八巻孝夫

（五十音順・敬称略）

小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

5

貴族(きぞく)のさかえ

●平安時代中期・後期

監修/児玉幸多　まんが/あおむら純

この巻の歴史年表

巻数	時代	年代
1	旧石器（岩宿）	前3万
	縄文（紋）	前1万
	弥生	前1000
2	古墳	紀元1
	飛鳥	100
3	奈良	200
4	平安	300
5		400
6		500
7	鎌倉	600
8	南北朝	700
9	室町	800
10	戦国	900
11	安土桃山	1000
12	江戸	1100
13		1200
14		1300
15		1400
16		1500
17		1600
18	明治	1700
19	大正	1800
20	昭和・前期	1900
21	昭和・後期～平成	

●この巻には、青色の部分の時代・年代が、かかれています。

時代・文化

代

西暦

●1017 ●1016 ●988 ●985 ●969 ●939 ●935

日本のおもなできごと

平将門の乱がおこる。（～940）

このころ、紀貫之が「土佐日記」をあらわす。

このころ、**荘園がさらにふえる。**空也の活動がはじまる。

藤原純友の乱がおこる。（～941）

左大臣源高明が大宰府にながされる。（安和の変）

源信が「往生要集」をあらわす。

尾張国の郡司・農民らが、国司藤原元命の悪政をうったえる。

このころ、藤原氏が全盛期をむかえる。（摂関政治の全盛期）

このころ、清少納言が「枕草子」を、紫式部が「源氏物語」をあらわす。

藤原道長が**摂政**となる。

摂政を頼通にゆずり、太政大臣となる。

西暦

●1010 ●979 ●962 ●960 ●936 ●935

世界のおもなできごと

新羅がほろぶ。

高麗が朝鮮半島を統一する。

宋がおこる。

オットー一世が神聖ローマ皇帝となる。

宋が中国を統一する。

ベトナムに李朝大越国が成立する。

平安時

国風文化

●1019

刀伊の賊（女真族）が北九州をおそい、撃退される。

●1028

このころ、武士が力をのばしはじめる。

●1051

平　忠常の乱がおこる。

●1052

前九年の役がおこる。（〜62）

●1053

末法の世に入るといわれ、浄土教がさらにさかんとなる。

●1069

平等院鳳凰堂が完成する。

●1083

後三条天皇が荘園を整理する。

●1086

後三年の役がおこる。（〜87）

●1091

院政がはじまり、藤原氏がおとろえる。

●1095

白河上皇が院政をはじめる。

●1098

源　義家への荘園寄進を禁止する。

●1108

院に北面の武士をおく。

●1124

源　義家が院昇殿をゆるされる。

●1129

このころ、僧兵の横暴がはげしく、朝廷への強訴がさかんとなる。

●1132

平　正盛が源　義家の子義親をうつ。

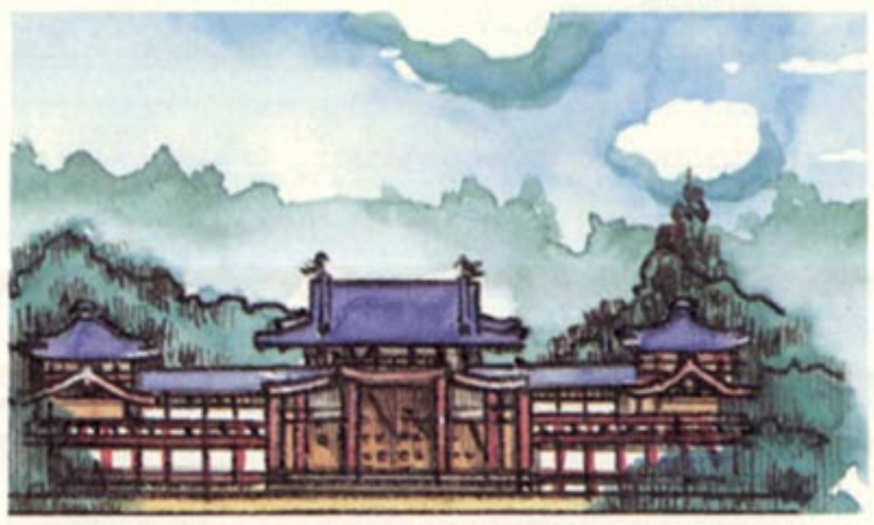
●1141

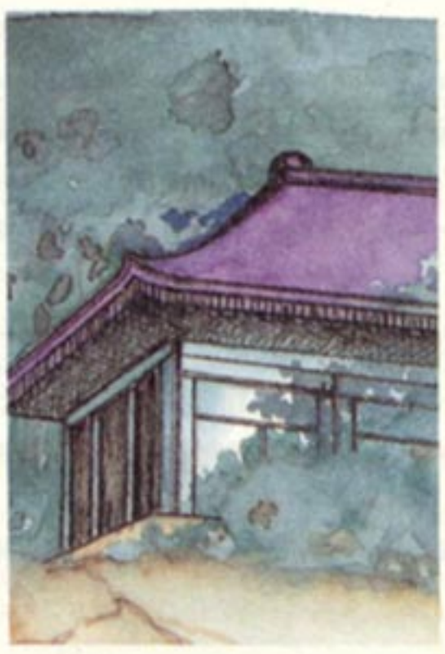
奥州藤原氏が**中尊寺金色堂**をたてる。

平　忠盛が山陽・南海の海賊をうつ。

平　忠盛が内昇殿をゆるされる。

鳥羽法皇の命で、崇徳天皇が退位し、近衛天皇即位。





●1037

セルジューク＝トルコがおこる。

●1066

ノルマン人がイングランドを征服する。

●1069

宋で王安石が新しい政治をする。

●1077

ドイツ皇帝がローマ教皇とあらそい、屈服する。

●1096

第一回十字軍が出発する。（〜99）

●1115

女真族が金を建国する。

●1127

金にせめられ、宋が南にうつる。（南宋）

はじめに

貴族のさかえと武士のおこり

◆『源氏物語』の時代

紫式部といえば、そう、『源氏物語』の作者ですね。11世紀の初めに書かれたこの物語は、今も多くの人にしたしまれ、外国でもたいへんよく知られています。

平安時代は、紫式部をはじめ、さまざまな女性が、たくさん活やくしました。これらの女性は宮廷につかえ、たがいに教養を高めあいました。そうした中から、すぐれた文学作品も生まれてきたのです。

文学作品だけではなく、この時代には、日本独特の文化が、美術・建築・衣服など、いろいろな面で発達しました。これを「国風文化」といいます。

わたしたちが現在使っている「ひらがな」も、平安時代の初めにつくられたものです。

◆さかえる藤原氏

これまでの巻で、みなさんは、貴族たちがいつも争いをくり返しているのを見てきましたね。そうしたなか、藤原氏が力をのばしてきました。平安時代の中期、藤原道長は、ついに最高の地位にのぼりつめます。

道長は、むすめを天皇のきさきとし、生まれた子が天皇の位につくと、その後見人（うしろだて）として、大きな力をふるうことができたのです。

道長を中心に、貴族たちは、はなやかな生活をたのしみました。紫式部も、このころの人なのです。

しかし、そうしたはなやかさが、いつまで続くことでしょうか。都の外では、新しい勢力がそだってきていたのです。

◆武士の登場

10世紀のなかば、関東で平将門が反乱をおこし、朝廷をふるえあがらせました。将門の祖先は皇族の出身でしたが、関東にすみつき、豪族として武力をたくわえていったのです。

瀬戸内海では、藤原純友の乱もありました。

このころから地方では、こうした豪族の動きが目だってきます。「武士」のおこりです。やがて、朝廷では、これら武士たちの力を利用することを考えました。

東北での戦争や、朝廷の争いに武士がかかわり、政治のゆくえを大きく左右するようになるのです。なかでも、源氏と平氏が、武士の二大勢力として、きそいあいました。

山野をかけめぐる武士たちの、兵器と馬のとどろき。歴史は、はげしく移り変わろうとしています。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物

第1章 平将門の乱

- 将門と国香の争い
- 大画面・国府をおそう将門軍
- 将門の最期
- 藤原純友の乱

第2章 藤原氏の摂関政治

- 安和の変
- 花山天皇の出家
- 藤原道長の全盛
- 地方の国司と荘園
- 大画面・藤原道長の祝宴

第3章 宮廷の女性たち

- 大画面・加茂祭の行列
- 宮中の年中行事
- 大画面・中宮定子と女房たち
- 中宮彰子と紫式部

第4章

武士のおこりと院政

- 女房たちのよそおい
- 安倍氏の反乱（前九年の役）
- 源義家の活やく（後三年の役）
- 白河上皇と院政
- 大画面・僧兵の強訴
- 力をつける平氏

おもな登場人物

※この巻に登場するおもな人物を紹介します。登場人物をくわしく知るための事典として、役立たせてください。

第1章

平将門（？～九四〇年）

おじ平国香らの一族をやぶり、関東に独立国をつくる。みずから新皇と名のる。

平国香（？～九三五年）

高望王の子で平将門のおじ。のち鎮守府将軍になったが、将門にころされる。

藤原純友（？～九四一年）

日振島を根拠地に、海賊の首領として、瀬戸内海沿岸を中心にあばれまわる。

紀貫之（八六八？～九四五年？）

『古今和歌集』の編さん者の一人。かな書きの紀行文『土佐日記』をあらわす。

第2章

藤原兼家（九二九～九九〇年）

藤原道長の父。一条天皇の外祖父（母の父）として、摂政・関白となる。

花山天皇（九六八～一〇〇八年）

藤原兼家の謀略にかかり、天皇を退位する。和歌に親しんだ。

藤原道長（九六六～一〇二七年）

娘を何人も天皇の妃にし、藤原氏の全盛時代をきずく。『御堂関白記』をのこす。

一条天皇（九八〇～一〇一一年）

母は藤原兼家の娘詮子。藤原道長を中心とした藤原家に実権をにぎられていた。

⑤ 貴族のさかえ

●平安時代中期・後期

第3章

清少納言（？〜？年）

一条天皇の中宮定子につかえ、随筆家・歌人として活やくし『枕草子』をあらわす。

中宮定子（九七七〜一〇〇〇年）

藤原道隆の娘で、一条天皇の皇后。清少納言がつかえた。父の死後、不幸になる。

中宮彰子（九八八〜一〇七四年）

道長の娘。一条天皇の中宮。紫式部、和泉式部などの才媛がつかえた。

紫式部（？〜？年）

中宮彰子につかえ、世界にほこる文学『源氏物語』を書く。『紫式部日記』もあらわす。

第4章

白河天皇（一〇五三〜一一二九年）

上皇となり、はじめて院政をはじめる。院を警固するために、武士の力を利用する。

源頼義（九八八〜一〇七五年）

武名のほまれ高い源氏の棟梁。前九年の役で活やくし、東国源氏の勢いを強めた。

源義家（一〇三九〜一一〇六年）

源頼義の長男。八幡太郎ともいう。前九年・後三年の役で活やくし、名声を高める。

崇徳天皇（一一一九〜一一六四年）

鳥羽天皇の皇子。のちに藤原頼長らと保元の乱をおこすが、やぶれて讃岐に流される。

小学館 eBooks

第一章

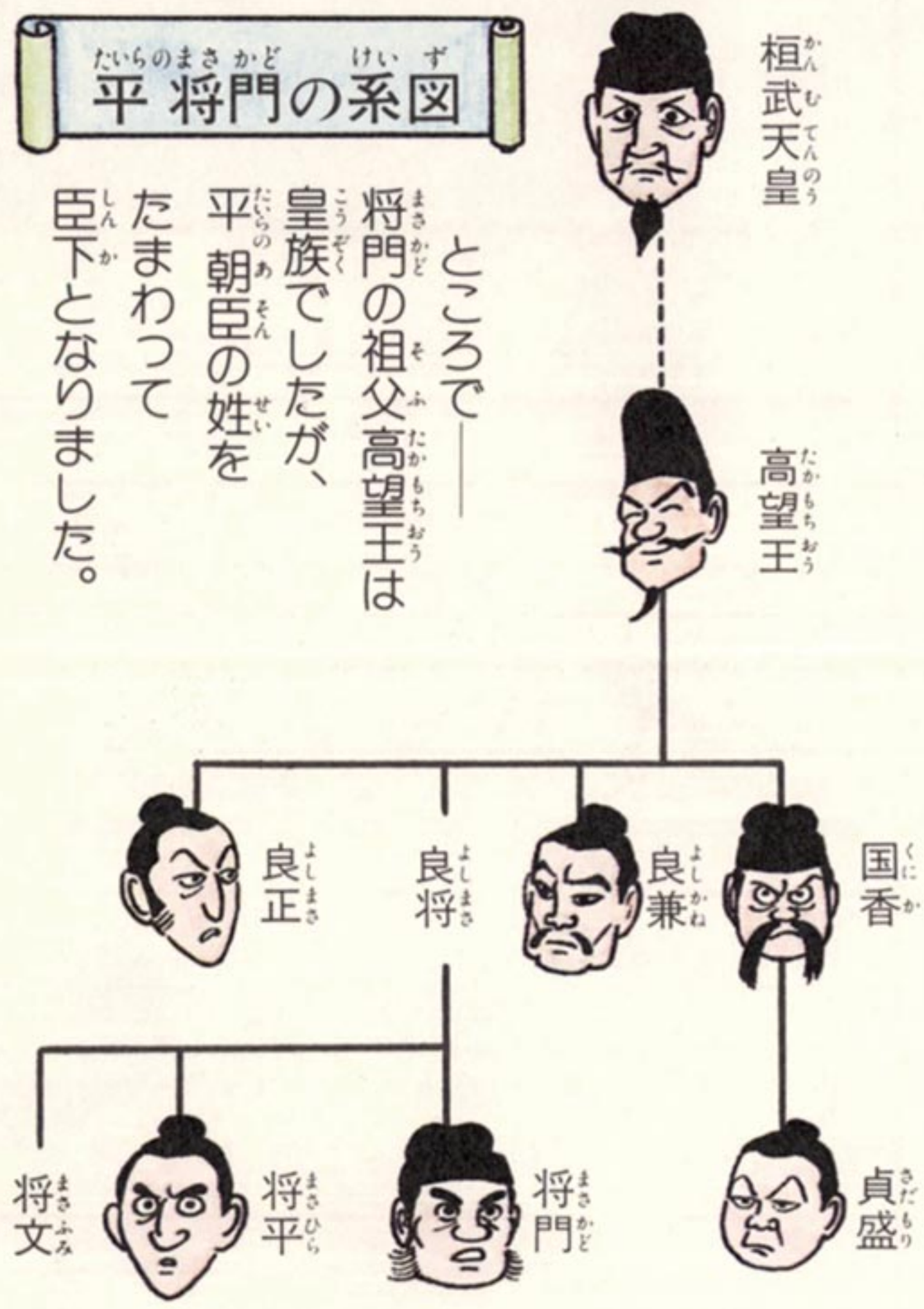
平将門の乱

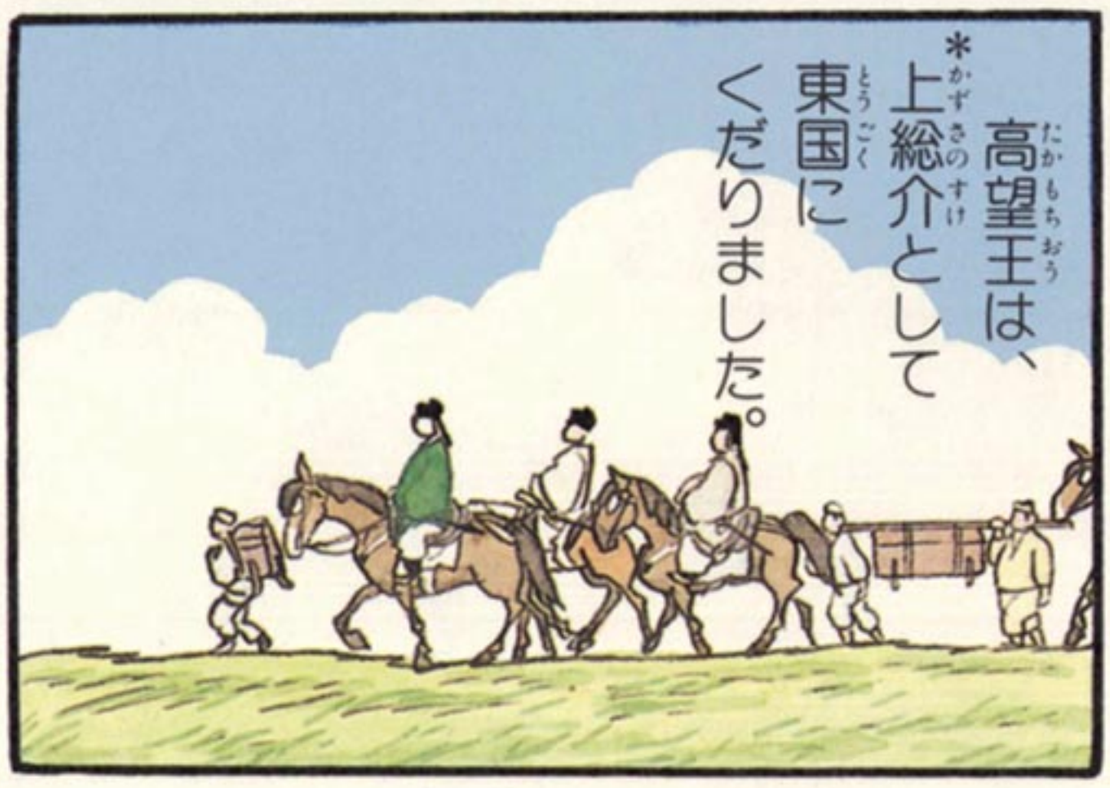
——平安時代中期——

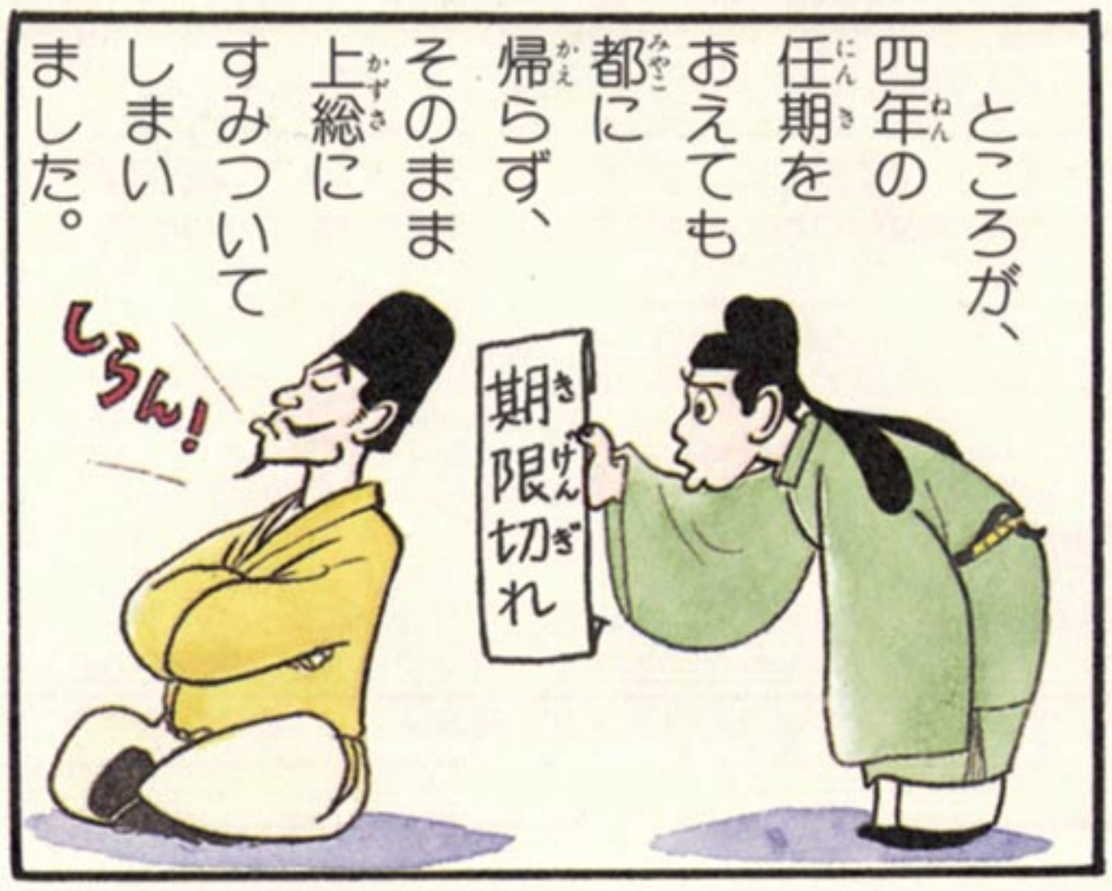
*下総…千葉県の一部・茨城県の一部　*坂東…関東地方

平将門の系図

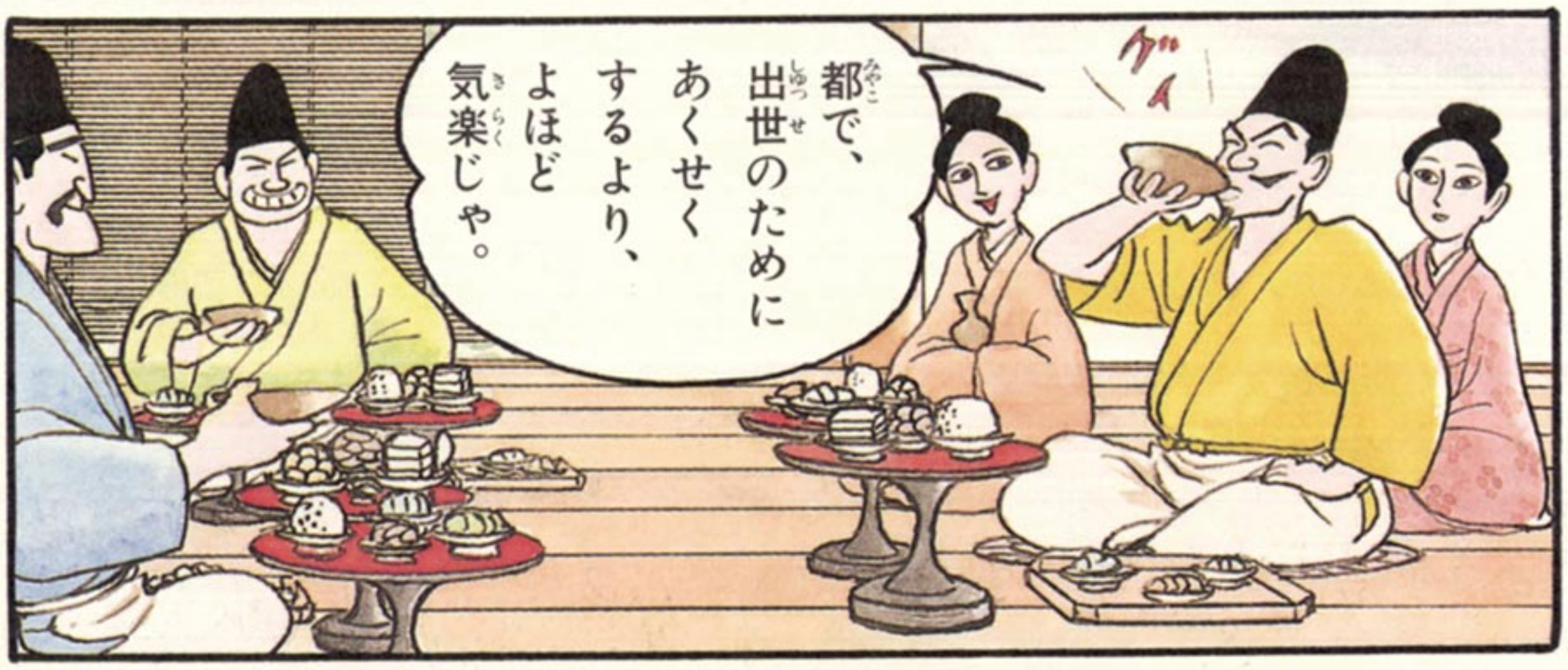
ところで——
将門の祖父高望王は
皇族でしたが、
平朝臣の姓を
たまわって
臣下となりました。



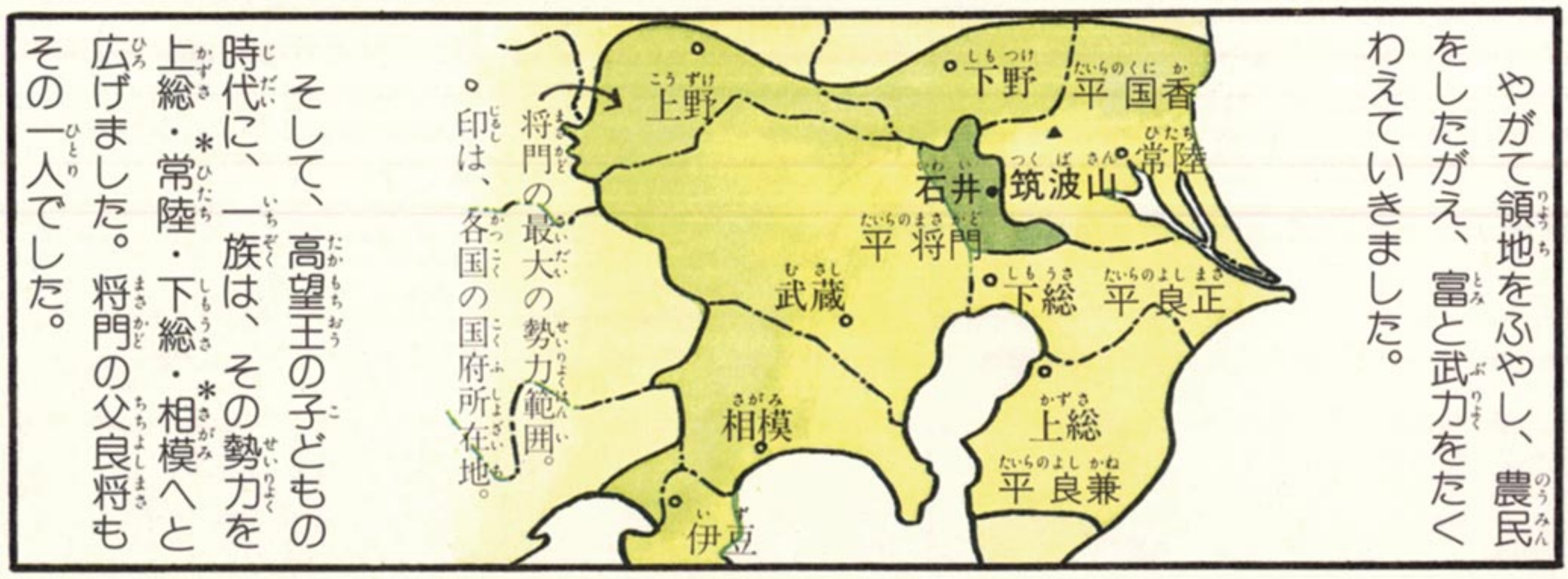




この時代の国司には、このように、地方にすみつく者が少なくありませんでした。



やがて領地をふやし、農民をしたがえ、富と武力をたくわえていきました。



そして、高望王の子どもの時代に、一族は、その勢力を上総・*常陸・下総・*相模へと広げました。将門の父良将もその一人でした。

*上総介…上総国(千葉県の一部)の国司(国府の役人)で守につぐ官職。上総は皇族の親王が守となり、都にいて任地へ行かず、事実上は介が守の仕事をした。

*常陸…茨城県　*相模…神奈川県

将門が、都から下総にもどって数年後――

今年は川のはんらんもなく、すばらしい収かくです。

うむ、来年もどんどん新しい田を広げよう。

ここは、平国香の館――

平国香

おいの将門の勢力は、大きくなるいっぽう…。

源護

わしらの土地からにげだし、将門のところへ行く農民どもがふえているし…。

田をたがやす者が、いなくなるぞ！

今のうちに、かたづけましょう。

九三五年、平国香と源護は将門をせめました。しかし、将門の軍は優勢に戦いをすすめて、国香の館にまでせまりました。

ウォー！ ウォー！ ウォー！ ドドドドド

くそっ、もはやこれまでか。

国香は自殺し、源護の子どもたちは戦死しました。この後、将門はさらに、おじ良正もやぶりました。

翌九三六年七月、良正の陣営――

兄上、なんとしてでも将門をうたなくては！

平良正

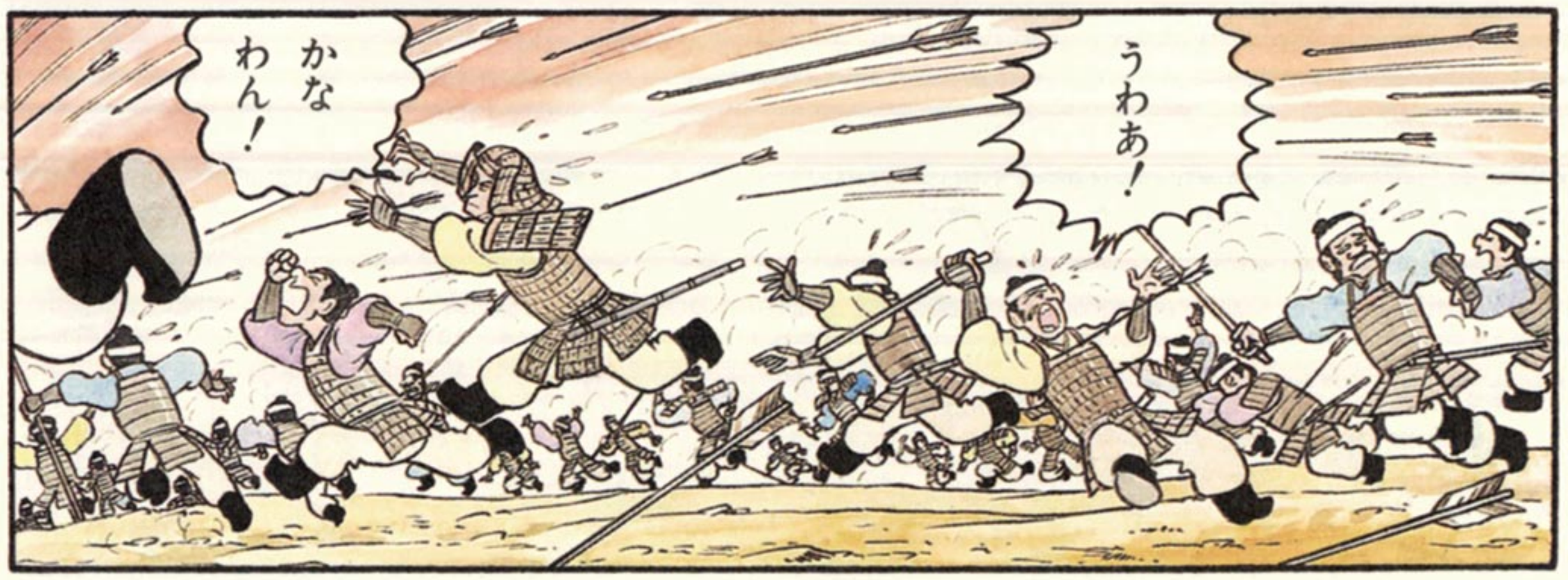
うむ、わかった。

平良兼

貞盛、そちも将門討ばつにくわわれ。

平貞盛

はい、父、国香のかたきをとります。



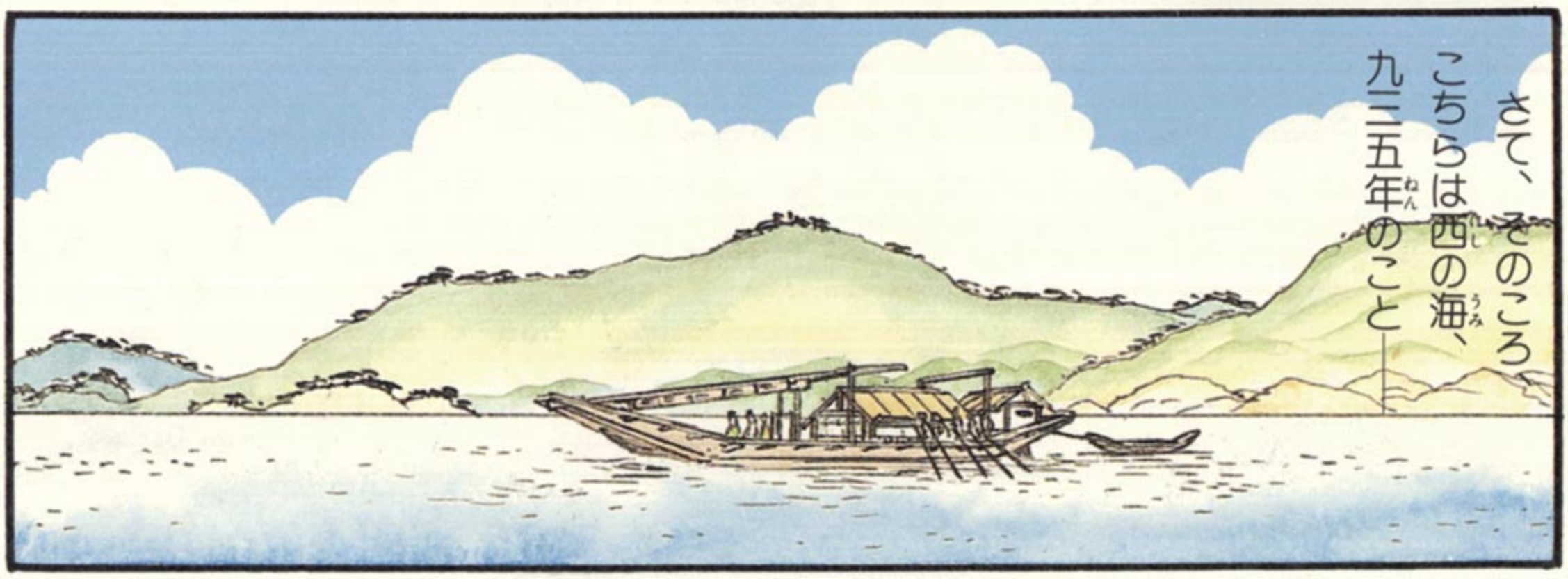
良兼らは国府の中にげこみました。

そうか…、敵といえども良兼は身内…。

よしっ、西側の囲みをとけ！

ええっ、ではにがすので。

良兼たちは、やっとのがれました。そして、朝廷に将門をうったえたので、将門は京の都によび出されることになりました。



*土佐守…土佐国（高知県）の国府の長官。

で、出でたっ!!

か、海賊じゃ！

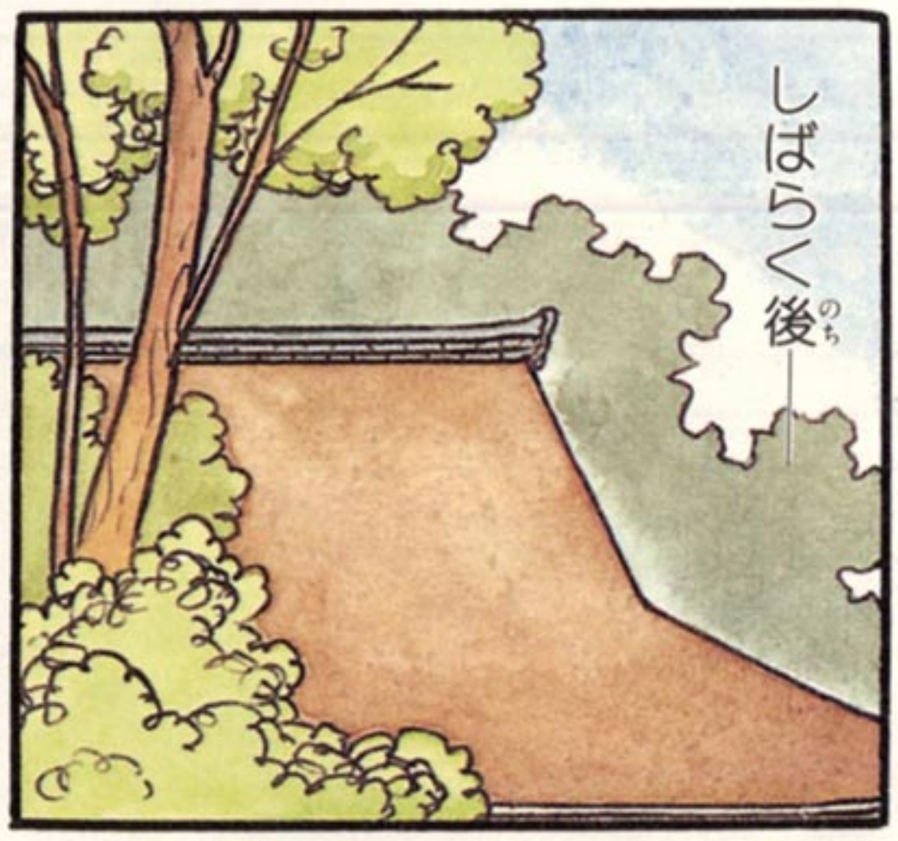
むむっ！

ああ、ご安心ください。漁師たちのようです。

近ごろは、海賊がふえて旅もこわくなりました。

山では山賊、都でも盗賊がしばしば出るという話じゃ。

ぶっそうな世の中に、なったものですわ。



歌人として名高い紀貫之は、十世紀はじめにつくられた「古今和歌集」の*撰者です。また、かな文字で書かれた日本最初の日記「土佐日記」をあらわしました。

*撰者…詩や文をえらんで書物にまとめる人。

*屏風歌…屏風にえがかれた絵の内容に合わせてつくられた和歌。

仕官のことなら、父の忠平にたのんでおきましょう。

よろしく、おねがいします。

今の世では、藤原氏の力にたよるよりほかない…。

ときに、あなたは平将門という男をごぞんじですかな。

はあ…、たしか坂東で争いをおこしたとか。

そう。それで今、都によび出されておりましてな。

将門の武芸の腕は、坂東でも右に出る者はいないという評判です。

ほう、それはすごい。

将門は、以前、父につかえていたそうです。

そうでしたか。

藤原忠平邸——

そなた、国で事をおこしたそうだな。

めんぼくありませぬ。じつは…。

*摂政…おさない天皇にかわって政治を行う役職。

それいっ！良兼たちをけちらせ!!
ドドド

*武蔵…埼玉県・東京都・神奈川県

*郡司…国府の下にある地方役所の役人。

*権守…国司で守にじゅんずる仮の官職。

*介…国司で守につぐ官職。

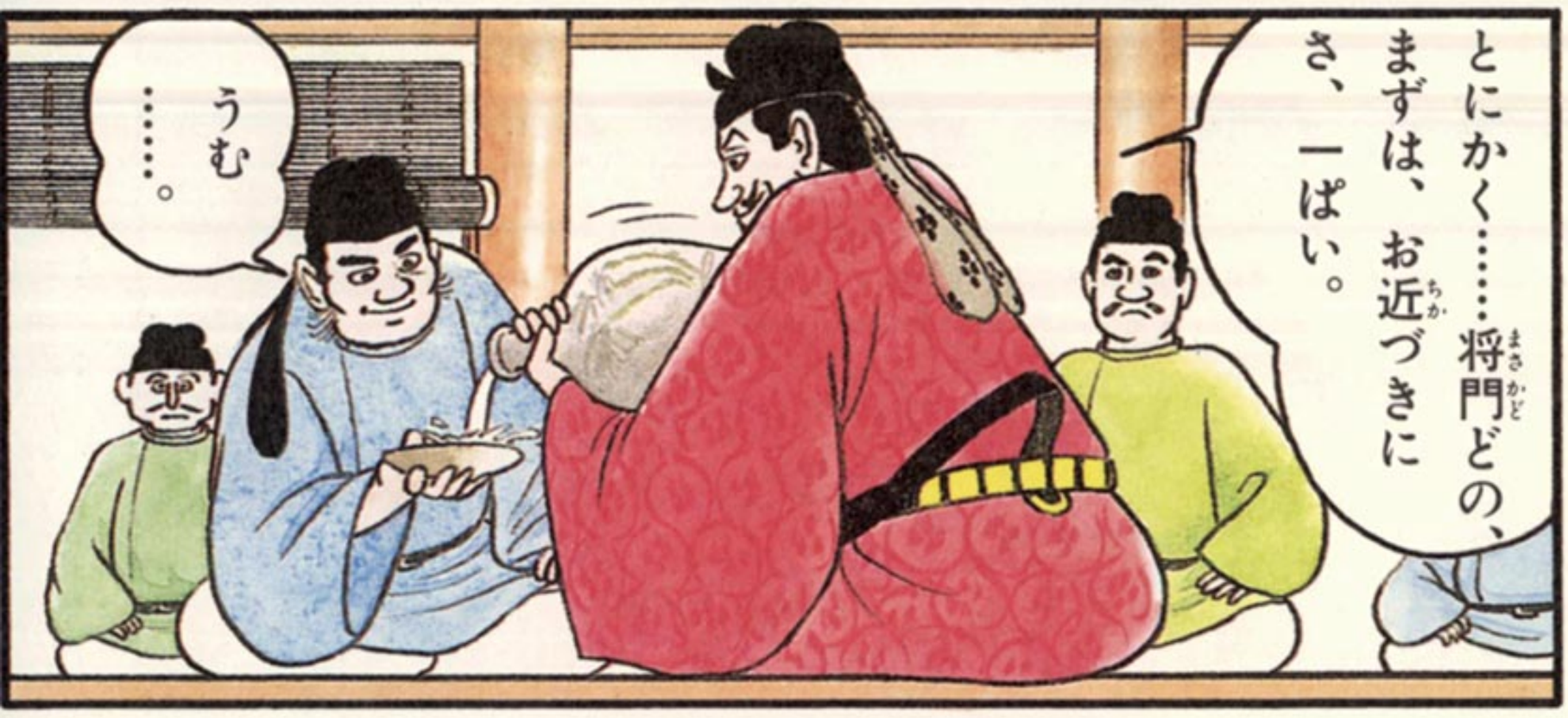
わたしの役職をじゃまし、兵を出して、農民の家をおそうしまつ。
よし、わかった。すぐに国府へ行こう。

……ということで、いかがじゃ、興世王どの。
よくわかりました。仲裁をおうけしましょう。
興世王

うむ、それでまるくおさまる。

ところで、源経基どのが見えぬが……。
まわりの状況が不利と思ってか、にげてしまったようです。
都へ行って、われわれをうったえでもするのでしょう。

ううむ…、それはまずいが…、わしは、まちがっておらん。


とにかく……将門どの、まずは、お近づきにさ、一ぱい。
うむ……。

武芝どの、わたしが悪かった。ゆるしてくだされい。
いや、わかっていただければよいのです。
ところが、しばらくして、興世王は、新任の国司とうまくいかず、将門のところへやってきました。
しばらく、わたしのところにいたらどうです。
同じころ、常陸国の藤原玄明という男が国司に追われているのをかくまってやり、将門は、常陸国府からにらまれるようになりました。
よろしく、おたのみします。
わたしにまかせておきなさい。
藤原玄明
来る者はこばめない。
興世王と玄明、国府に反抗する男を二人もかかえてしまったな……。
九三九年十一月
ふむ、国府側三千に将門軍一千か。
おっ、使者がもどってきましたぞ。
玄明さまの罪はゆるせないと、国司はいっております。
背後では貞盛が何かたくらんでいるようです。
なにい、貞盛が……。
ううぬっ、攻撃だ!!

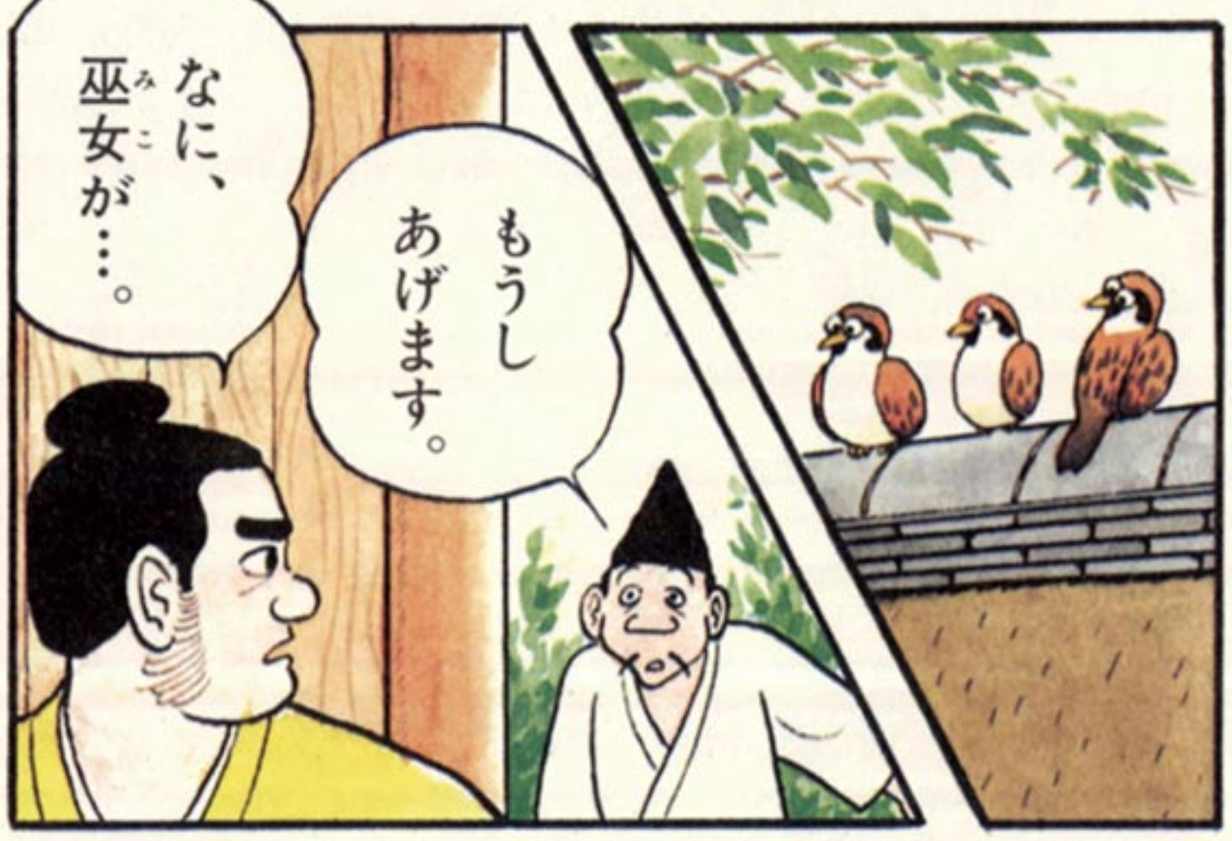
＊国印…国府の文書におす印で、国司の権力をあらわす。

こうして、将門は常陸国府と同じように、*下野と*上野の国府をつぎつぎと占領しました。

*坂東八か国…上総、下総、常陸、上野、下野、相模、武蔵、安房の八国。

*下野…栃木県

*上野…群馬県



*八幡大菩薩…日本の古くからの神であるつけたもの。とくに武士や一般の人に信る八幡の神に仏教の菩薩の称号を仰された。

王城は石井につくるものとする。

「将門反乱す」の知らせは、ただちに都へつたえられました。

平安京 *大内裏

*大内裏…天皇の住まいのある内裏とまわりの役所の建物群のある地域。

将門が反逆!!

おそろしいことじゃ。

西海では、藤原純友があばれているというし…。

将門と純友は通じていて、まもなく京へせめのぼってくるとかいうウわさも…。

ひえっ!

*清涼殿

みかども、さぞご心労のこと…。

摂政の忠平さまは、対策をおもちなのか……。

*清涼殿…天皇の日常の住まい。

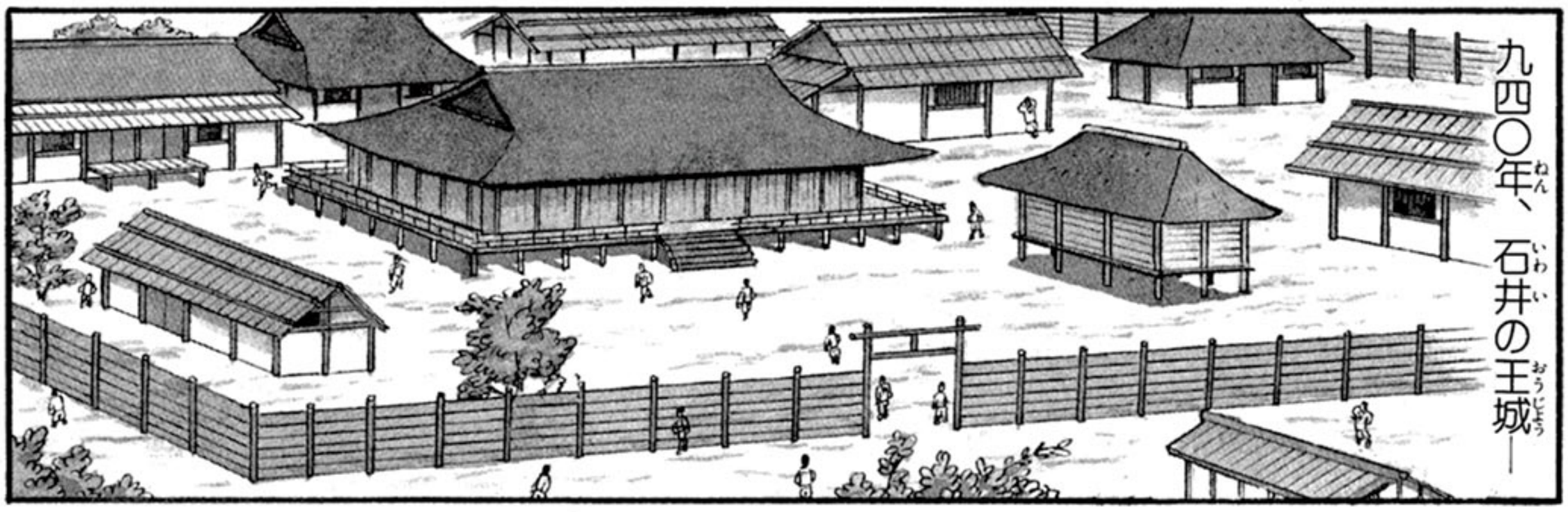
*追捕使…治安をみだす者をとりしまる役人。

*空也(903～972年)…平安時代中期の僧。「こうや」ともいう。

*五位…役人の位。地方官などの中級職につく。

＊行基…第3巻第2章参照。

空也は、奈良時代の＊行基と同じように、各国をめぐり、道をなおし、橋をかけて人びとのためにつくしました。つねに市に立って阿弥陀仏の名をとなえ、教えを広めたので、市聖とか阿弥陀聖とよばれました。



＊宣旨…天皇の命令をつたえる文書。

＊押領使…地方の乱や盗賊などをとりしまる役人。

このとき、将門のところには千人くらいの兵しかいませんでした。あとは、それぞれの土地へ帰していたのです。

うわあっ！

兵が少ないし、不利だ。よし、ひとまず退きゃく。

将門め、にげおったか。こちらには、天が味方しておるぞ。

平貞盛

数日後

弟たちや興世王はまだか。

はっ、いまだに。

むむっ、敵があらわれました。

こちらの兵は、わずか四百あまり。ううむ、かくなるうえは…。

ひるむな、かかれ、かかれ！

しめたっ、風向きがかわったぞ。こうげきだ！

ピュー

ワーワーワー

オー

う…。

シュ

こうして、坂東におこった反乱は、将門が新皇を名のってからわずか二か月足らずのうちにおさえられ、興世王たちおもな部下もころされました。

乱をしずめた平貞盛と藤原秀郷は、その活やくにより朝廷にとりたてられました。

ビュー

ビュー

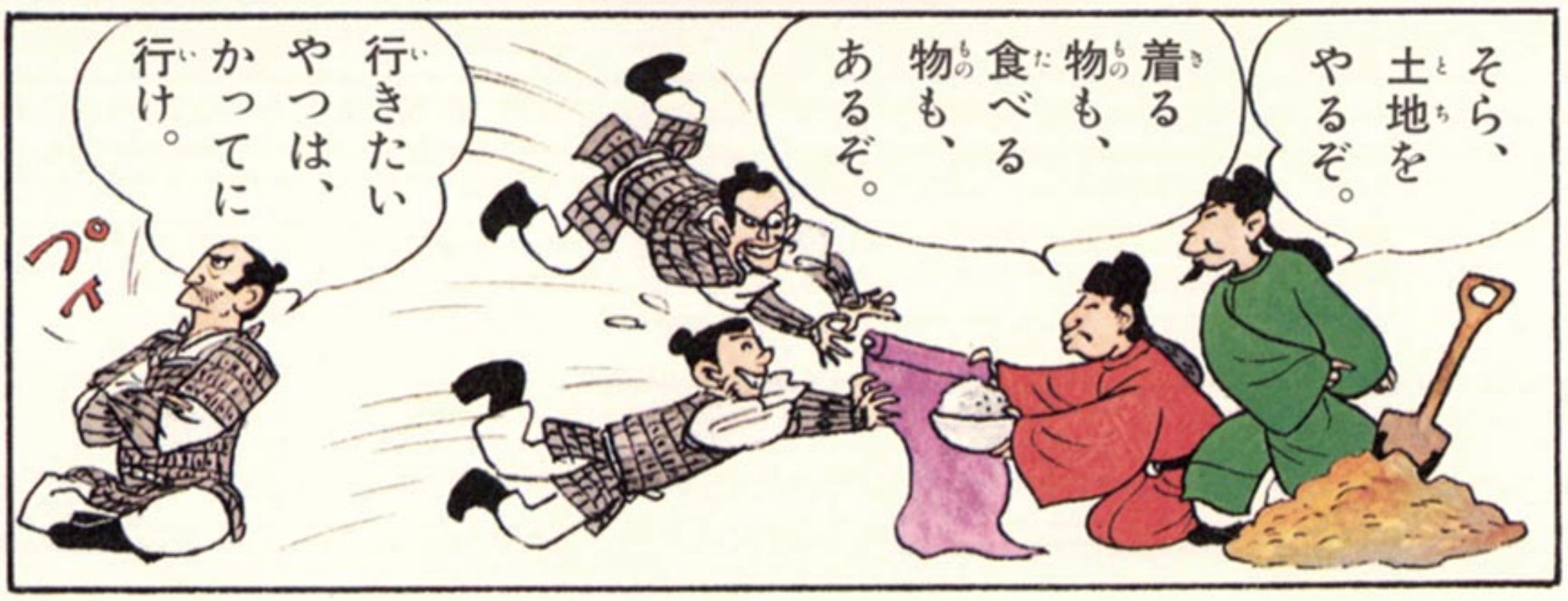
さて、ここで、瀬戸内海一帯の海賊をひきいて、平将門と同じように、都の人びとにおそれられていた、藤原純友の動きを見てみましょう。

*従五位下…五位の位で、正五位上、正五位下、従五位上につぐ位。

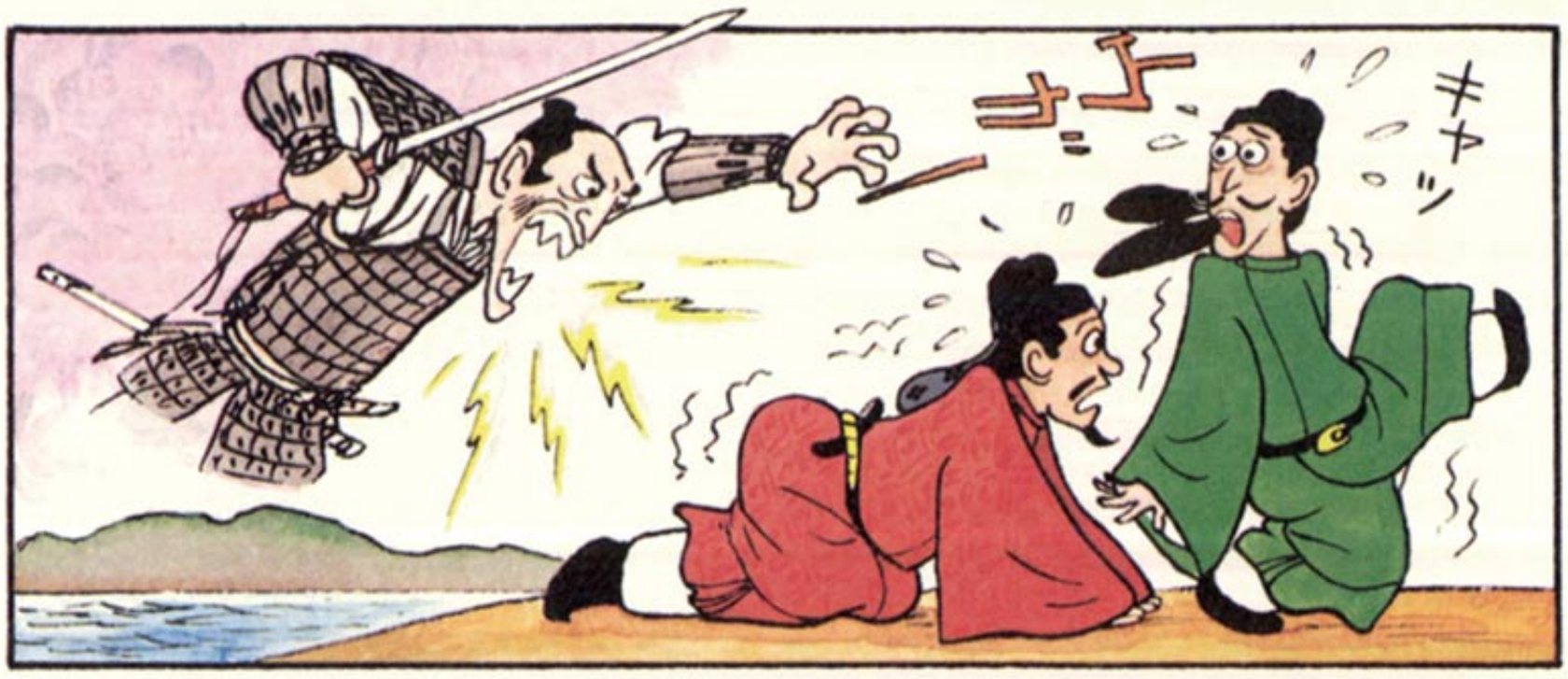
藤原純友は、もと伊予掾*でしたが、十世紀のはじめころ地元に勢力をのばしました。

つとめをおえた後も、都に帰らず、反対に付近の海賊と手をむすび、日振島を根拠地にして活動しはじめたのでした。

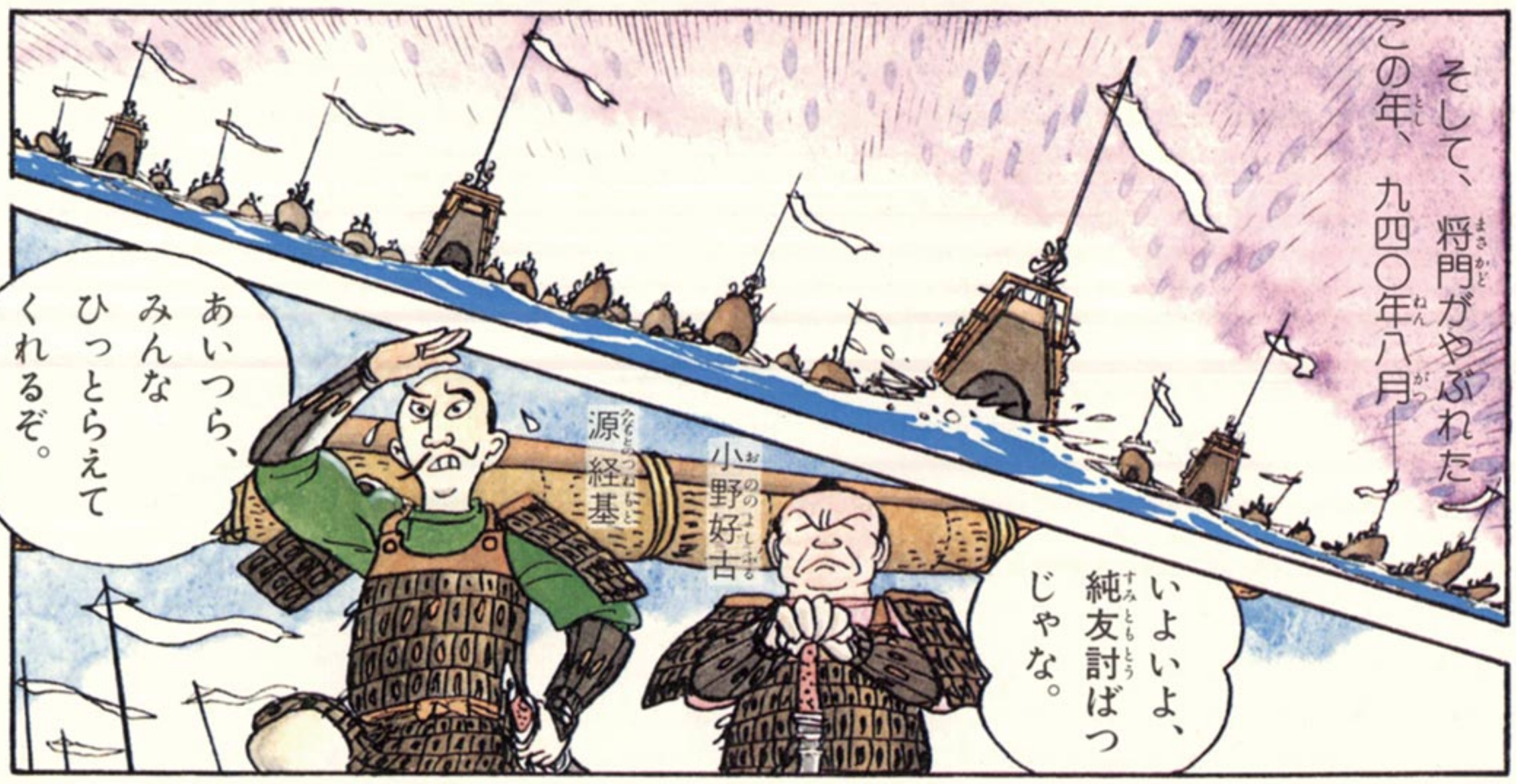
九世紀後半、瀬戸内海には、海賊の集団がいくつも生まれていましたが、純友は、やがて、そうした集団を支配するようになりました。



九三六年、朝廷は、海賊をなだめようとしましたが、純友はそのさそいにのりません。



純友は、九三九年には、*摂津国、九四〇年には*淡路国をおそい、今にも都にまでせめてくるのではないかと、朝廷をあわてさせました。



*摂津…大阪府・兵庫県　*淡路…兵庫県淡路島

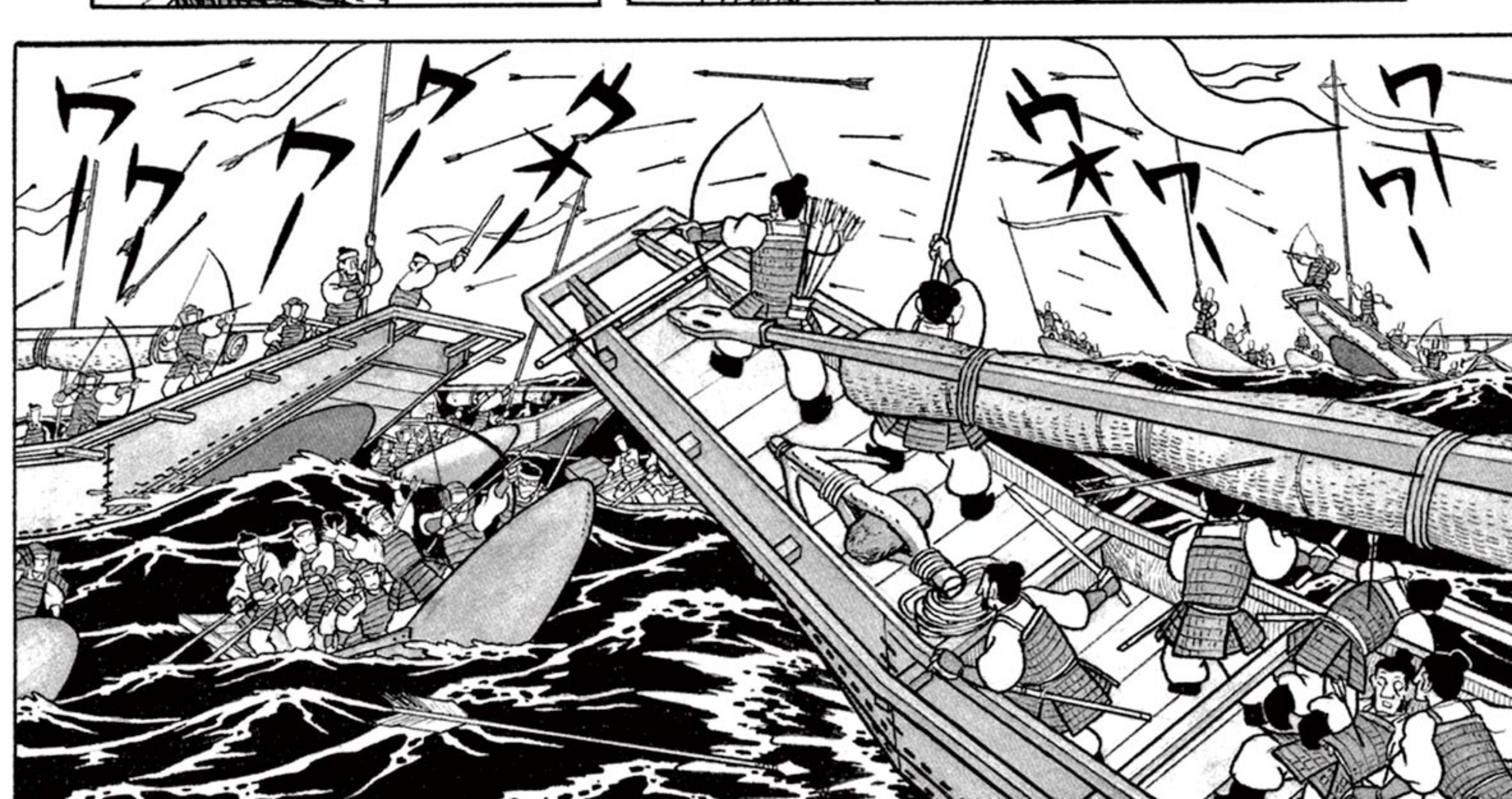
こうして瀬戸内海のあちこちで、朝廷軍と海賊たちの戦いがくり広げられました。

ワ
ワ
ワ

大宰府
九州、大宰府――

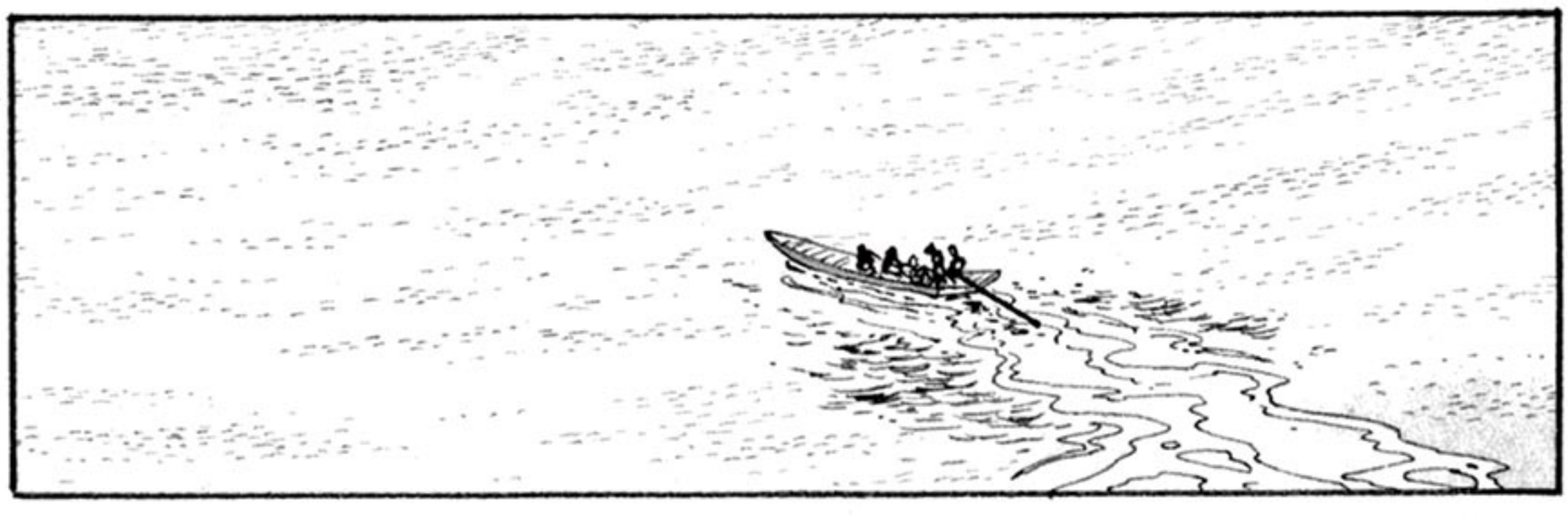
なにっ、陸と、海から朝廷軍が！

よしっ、決戦だっ!!



くそっ、もはやだめか。

伊予にもどり、再起をはかろう。



純友は、つかまってころされたとも、自殺したとも、つたえられています。

＊比叡山の山頂付近に、将門岩とよばれている岩があります。ここで将門と純友が天下をとる話をしたという伝説がのこっています。

「承平・天慶の乱」と年号でよばれている東と西の乱が人びとにあたえたえいきょうは大きく、後に数多くの伝説が生じました。

将門はやぶれましたが、やがて東国では、力をたくわえた武士たちが登場し、日本の歴史に大きな役割をはたしてゆくのです。

＊比叡山…京都市の北東、滋賀県との境にある山。

小学館 eBooks

第二章

藤原氏の摂関政治

——平安時代中期——

九六九年、冷泉天皇のとき

このたくらみ、ぜひやりとげたい。

はっ、おまかせください。

源満仲

源満仲よりの密告状です。

うむっ、なっ、なんと!!

藤原実頼

むほん人どもをひっとらえろ!

源高明邸

みかどをしりぞけんとした罪により、*大宰権帥に*左遷する!

源高明

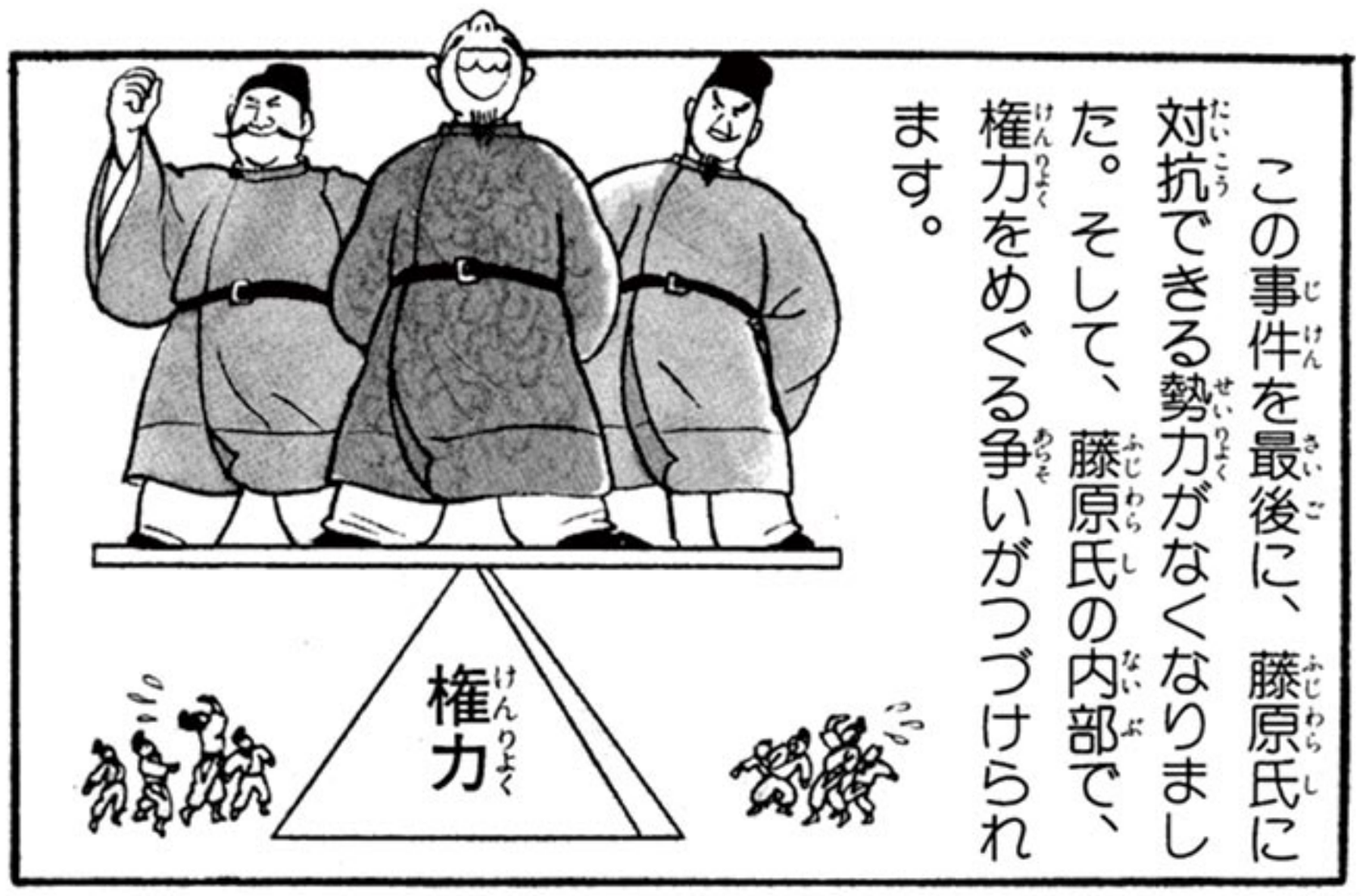
なぜだ! わしは、知らんぞ。

めざわりな左大臣の高明を、うまく追いおとせたわい。

わたくしの出世も、お約束ください。

*大宰権帥…大宰府の仮の長官。

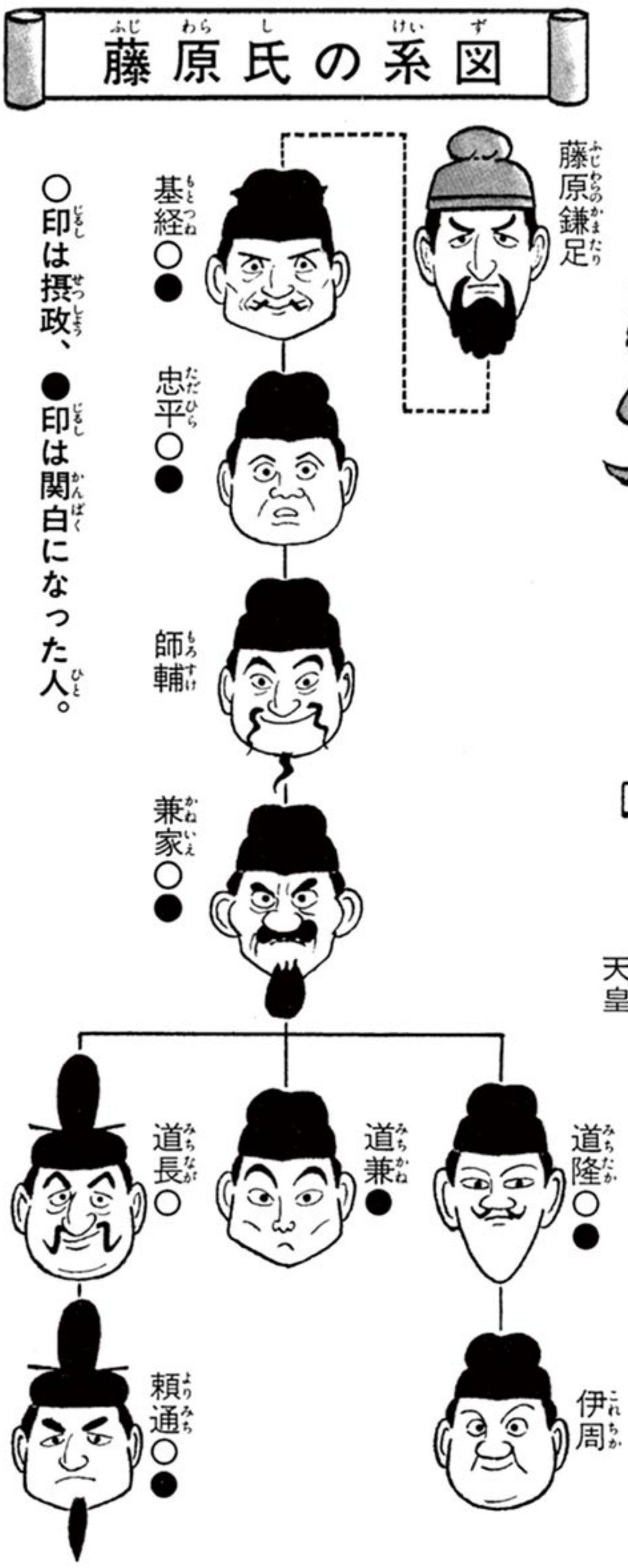
*左遷…官位や地位を下げること。



さて、この時代には、おさない天皇にかわって政治をみる「摂政」や、天皇が成人した後に、天皇を補佐する「関白」という官職が政治の上で重要でした。

こうして行われるのを「摂関政治」といいますが、藤原氏は摂政・関白を独占して政治の実権をにぎります。

藤原氏の系図



九七二年、円融天皇のとき――

プリ
プリ

あなた、ごきげんが悪そうですね。

残念だっ！わしが引きつぐはずの関白の職を、兄の兼通にうばわれたんじゃ！

ドン

えっ？兼通さまはあなたより低い*中納言なのに……。

兼通め、天皇の母ぎみの書きつけなどをもっておったのじゃ。

摂政、関白の位は、兄弟順にえらびなさい。

*大納言 藤原兼家

これで、わしは出世がおくれる。

あまり、気落ちなさらずに……。

さあ、おいで。

将来は、みかどのきさきになって、男の子をうんでくれるのじゃぞ。

はい、お父さま。

藤原道長

藤原詮子（道長の姉）

*中納言…大臣、大納言につぐ官職。

*大納言…大臣につぐ官職。

九七七年、兼通と兼家の争いはつづきます。

あら、あなた。

ズカ

ズガ

兼通のやつめ、死ぬまぎわに*除目を行って、いとこの頼忠に関白をゆずりおった！

ワナ

ワナ

ワナ

ワナ

それは、こまりました。

これで、二度兄の兼通にじゃまされた。

そっそっ

れれれ

ドー

それば かりか、わしは、右大臣の位にもつけなかったわい。

*除目…大臣以外の官職を任命する儀式。

兼家は、九八六年、花山天皇のときになって、やっと機会をつかむことができました。

みかどは、昨年、おきさきをなくされた悲しみで、出家なさることを考えておられる…。わかるな。

この機会をのがす手は、ありますまい。

藤原道兼

藤原道長

藤原道隆

藤原道綱

*外祖父…母方の祖父。母の父。

もし、みかどが出家し、退位なされると……、

次のみかどは、むすめの詮子がうんだ懐仁親王に回ってくる。

そうすれば、父上はみかどの*外祖父。

うむ。

摂政になるわけだ。

みかどの出家のことは、わたしにおまかせください。

藤原道兼

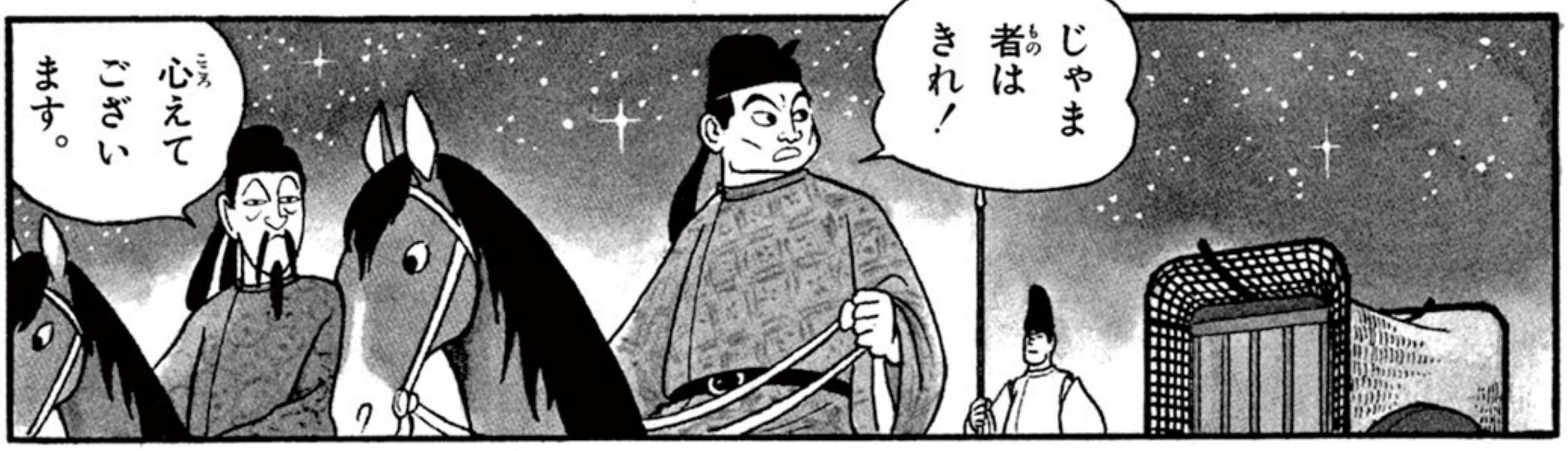
わたしが、ごいっしょいたします。

ご出家に反対の者もおります。

さ、気づかれぬうちに…。

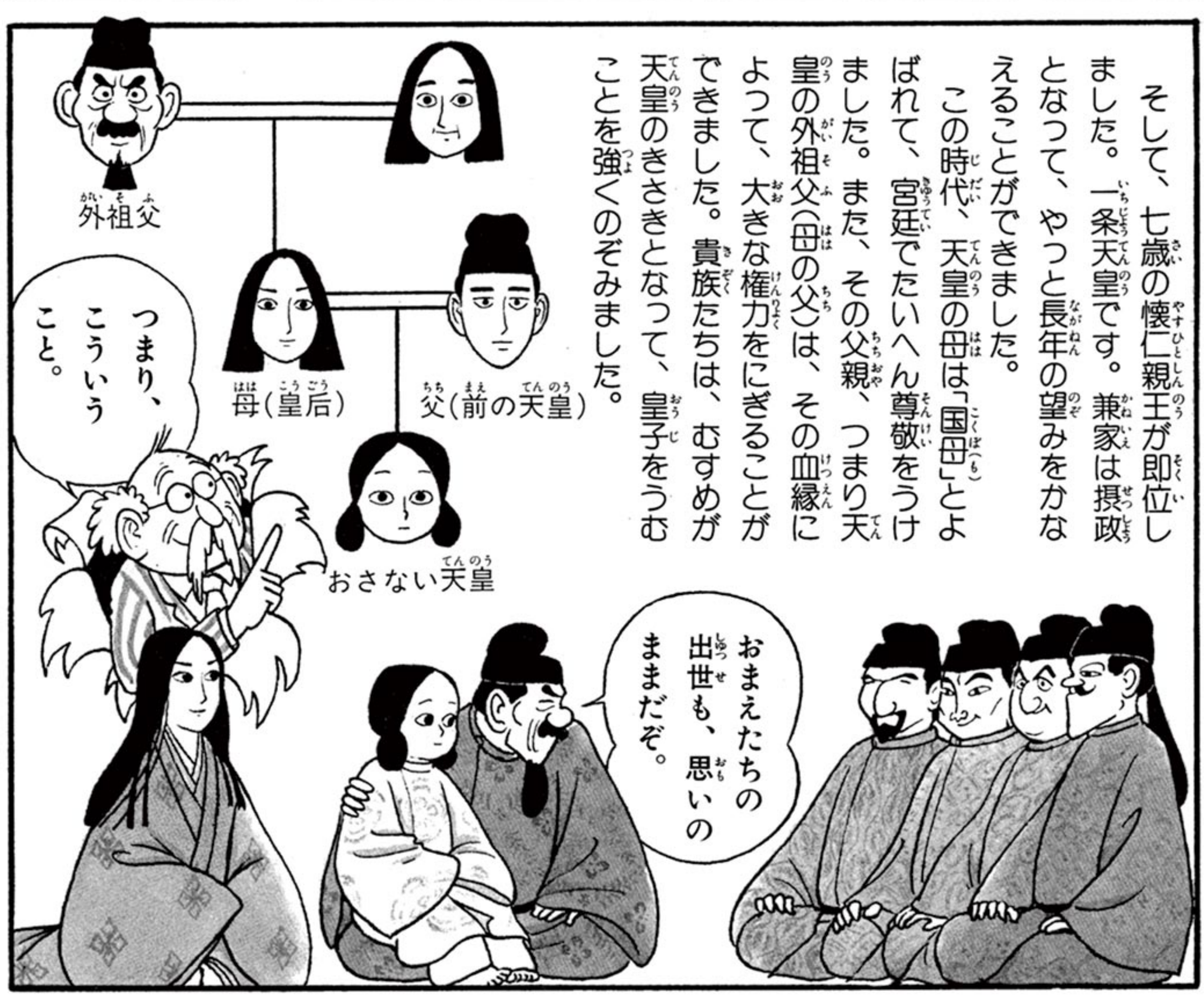
……

花山天皇



そして、七歳の懐仁親王が即位しました。一条天皇です。兼家は摂政となって、やっと長年の望みをかなえることができました。

この時代、天皇の母は「国母」とよばれて、宮廷でたいへん尊敬をうけました。また、その父親、つまり天皇の外祖父(母の父)は、その血縁によって、大きな権力をにぎることができました。貴族たちは、むすめが天皇のきさきとなって、皇子をうむことを強くのぞみました。



*左京大夫…都の政治を行う役所の長官。
*公卿…大臣、大納言、中納言、参議、三位以上の貴族。

九九〇年、藤原兼家がなくなり――

長男の道隆が、摂政となりました。

藤原伊周

ようし、おまえの位も、どんどん上げてやるぞ！

藤原道隆

はい、父上。

ウォッホン

エヘン

まもなく、道隆のむすめ定子は、一条天皇の*中宮にたてられました。

定子

一条天皇

*中宮…皇后、皇太后（天皇の母）、太皇太后（天皇の祖母）のこと。この場合は皇后のこと。

ウハハハ～

花山天皇を退位させたのは、わたしなのに道隆め！

藤原道長

藤原道兼

ところが、九九五年、道隆がなくなり――

藤原道兼が、一条天皇の関白となりました。

ええっ、伊周ではなく、わたしが関白をおおせつかったと!!

ガバッ

道兼さま、いけませぬ。お体にさわります。

病がなんだ。さっそく、みかどにごあいさつに行くのだ。

ゴロ
ゴロ
ご、ごあいさつを……。
ううむ、これからというに、残念。
こんどの流行病で、公卿があいついでなくなったが。
先日は、道兼どのがなくなられた。
こわいのう。
関白のお礼に*参内して七日あまりでおなくなり。
七日関白というわけですな。
そうすると、こんどは*内大臣伊周どのと、
権大納言道長どの、おいとおじの争いじゃな。
*内大臣…左右大臣の次の官職。
藤原詮子
*参内…宮中に上がること。
おお、これは母ぎみ。
一条天皇
あなたにおねがいがあります。
あなたのおじである道長を関白にするべきです。
ううむ、さて…、そればかりは……。
中宮がかわいいから、中宮の兄伊周を関白にしたいのですね。
いや、そういうわけでは…、しかし……。

では、わたくしのいうことを聞いてください。

…道長を*内覧としましょう。

内覧になったぞおっ!!

源雅信

ね、わたしの見こみどおりでしたわ。

倫子

彰子

妍子

頼通

うむ、道長は実力もあるが、じつに幸運な男じゃな。

よいか、そなた。

みかどのきさきになるのだぞ。

そして、おまえは次のみかどのきさきだよ。

二人とも、母上のように、かしこく美しくそだっておくれ。

まあ、あなたいやですわ。

それにしても、おいの伊周はうるさい存在だが…。

*内覧…政治上の重要な文書を天皇にわたす前に見る役職。摂政と同じくらいの実権があった。

九九六年

ピュー

花山法皇

何者だっ!!

花山法皇と仲の悪い伊周、隆家兄弟がやったことはほぼ、まちがいないことで…。

やつらめ、法皇にむかい矢をはなつとは、みずから墓穴をほったか…。

伊周、隆家の兄弟は、それぞれ大宰府と*出雲へながされました。

*出雲…島根県の東部

中宮定子の邸宅——

父ぎみはなくなり、兄ぎみは流罪…。

わたくしには、もうたよる人がいない……。

みかどを、ご信らいなさいませ。

中宮定子

清少納言

それから三年の月日がたち、内覧で左大臣の道長のむすめ彰子は、一条天皇のきさきとなります。

翌一〇〇〇年、藤原彰子は、一条天皇の中宮にたてられました。これまで中宮だった定子は、皇后となりました。

中宮彰子
一条天皇
皇后定子

グビ…

中宮と皇后は、どうちがうのかね。

どちらも、地位からいえば同じようなもの。

みかど一人に皇后二人か。みょうなことになったな。

まあいいからのめ、のめ。

とにかく、道長さまは自分のむすめを、どうしても中宮にしたかったのさ。

日の出の勢いの道長さまの強引なやり方に、反対できる者は一人もおらんし……。

この年のおわり、皇后定子は、さびしくこの世をさります。

*陣議…内裏の近衛陣という場所で行われる会議のこと。陣定、仗議ともいう。

ふむ、藤原公季どのは？

病気ということじゃ。

藤原顕光

で、源俊賢どのは？

*ものいみだとか、聞いております。

ほかのかたは、サボられたようです。

今日の会議は、わたしが召集したんじゃが……。どうもわたしは、あまく見られているようじゃ。

さて、今日の議題は、各国から……。

まず、*因幡国守から租税について…。

まず、わたくしから意見をのべさせていただきます。

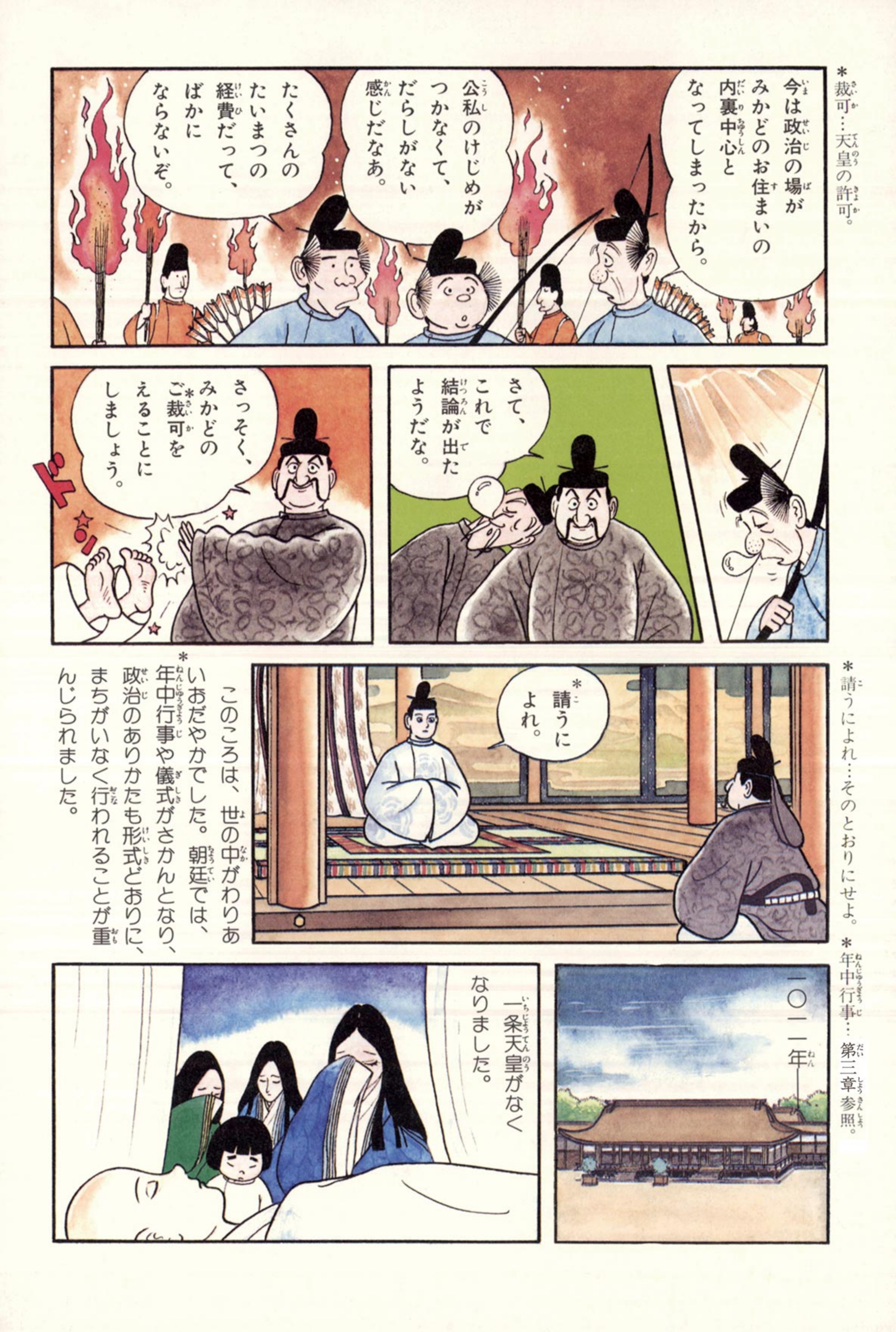
あの様子では、夜通しつづきそうだ。

昔は、朝早くから行われたそうだが…。

それで、朝廷とか朝堂とかいうんだな。

*ものいみ…悪いことをさけるため、何日間か外へ出ずに、行いをつつしんだりすること。

*因幡…鳥取県



*裁可…天皇の許可。

*請うによれ…そのとおりにせよ。

*年中行事…第三章参照。

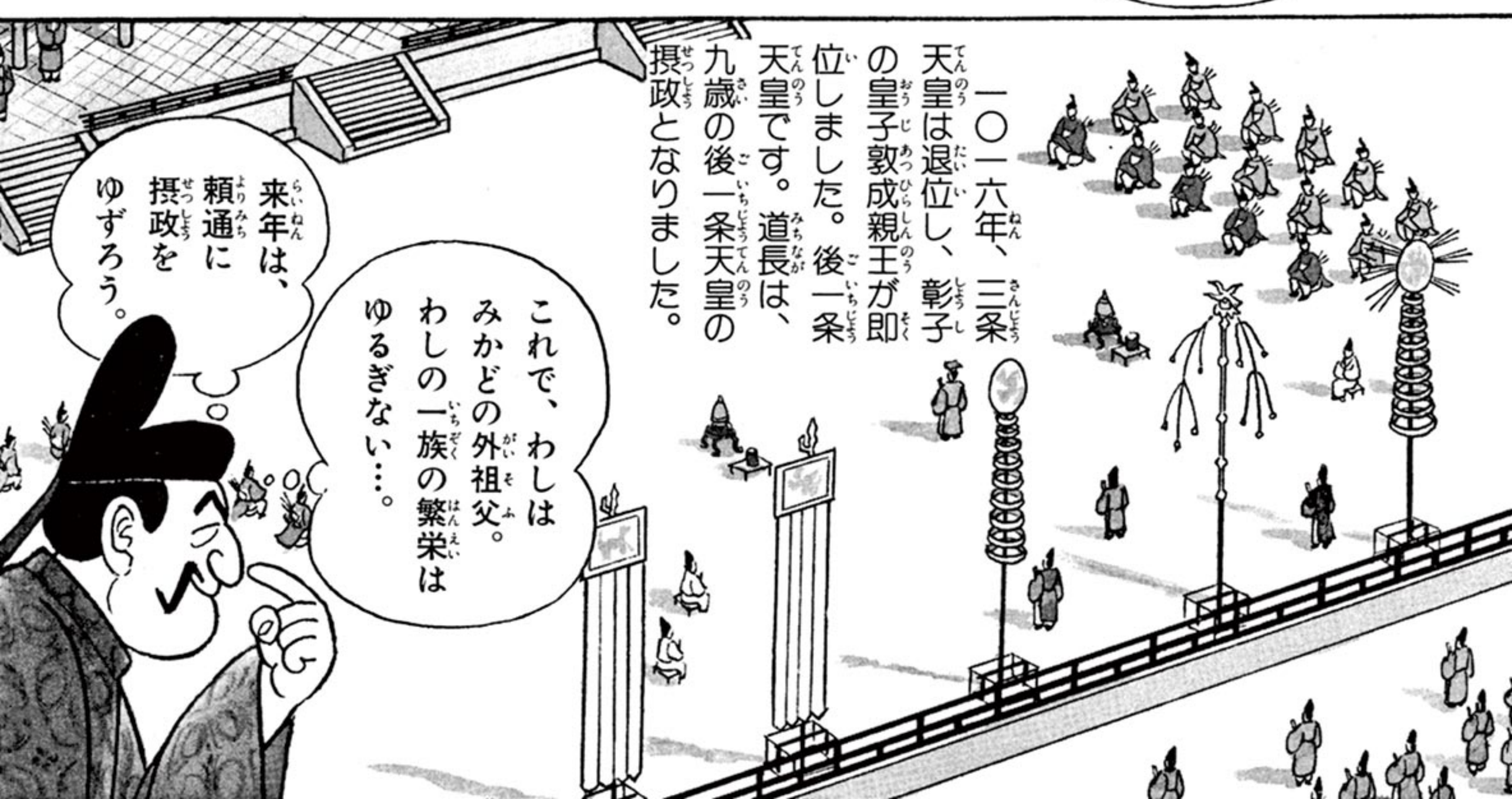
そのあとを三条天皇がつぎ、まもなく、道長のむすめ妍子が中宮にたてられました。

三条天皇

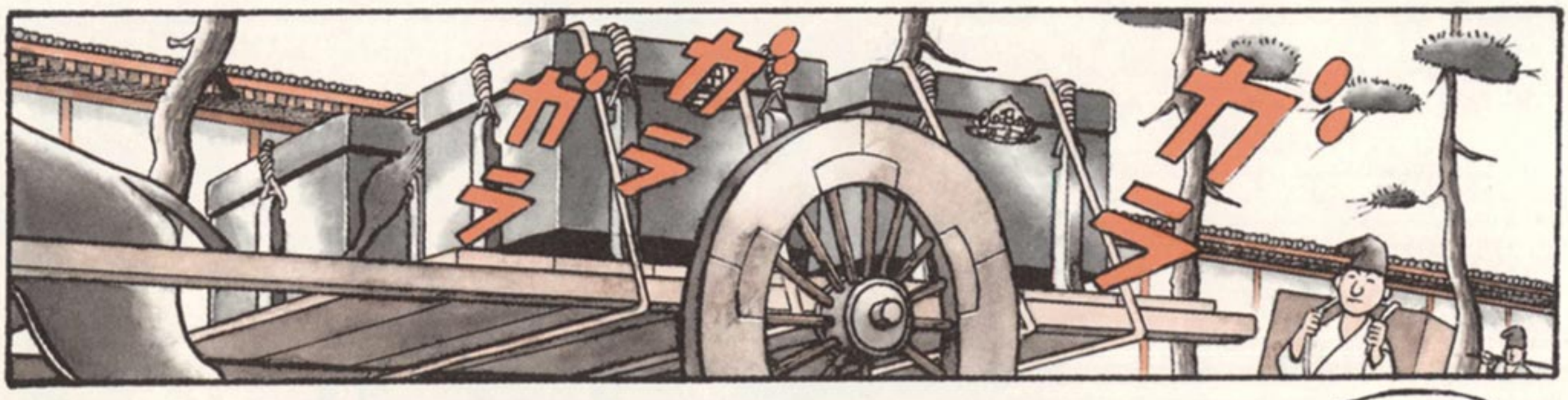
妍子

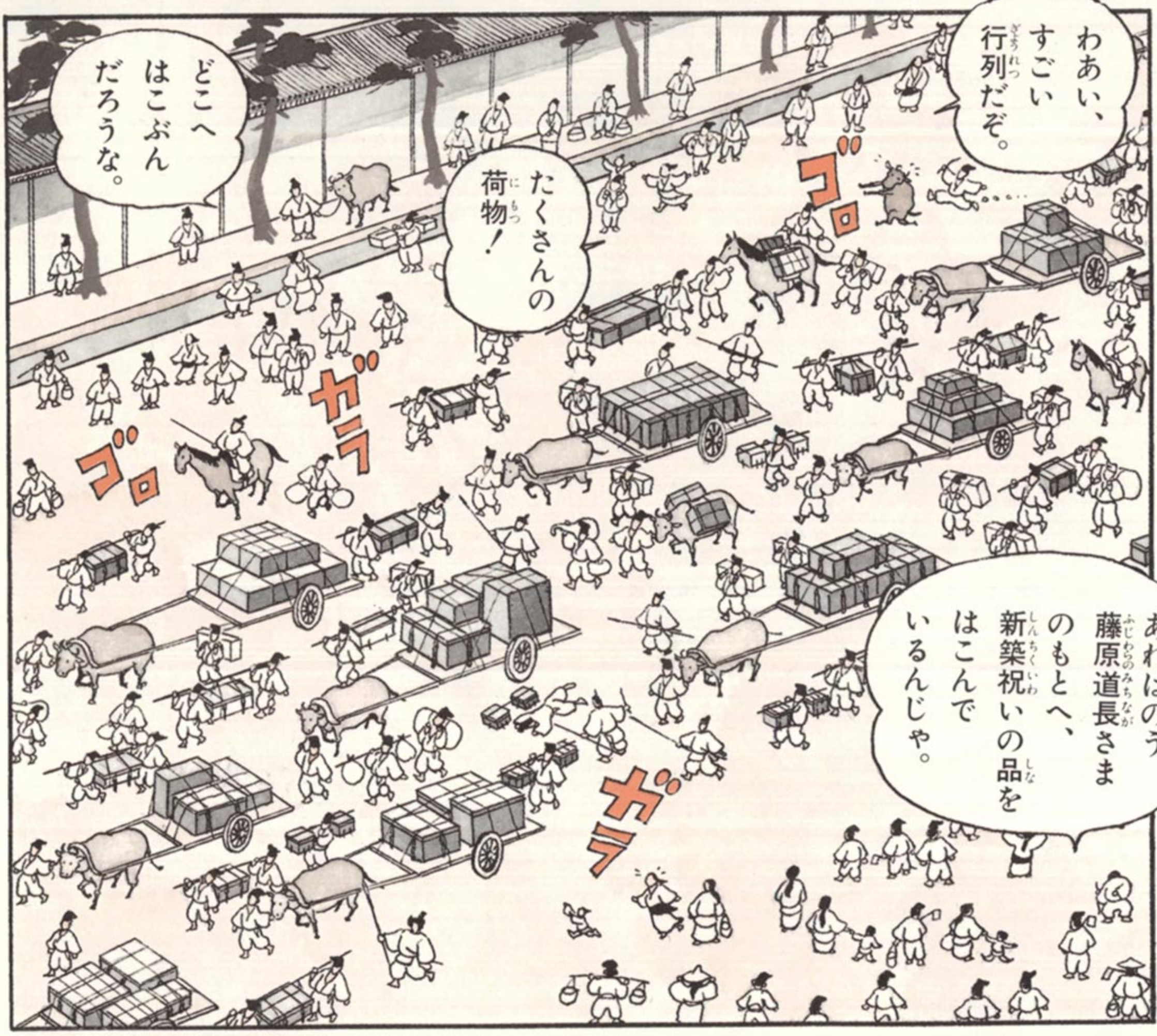
〔道長の子ども〕

道長＝倫子
- 彰子（一条天皇中宮）
- 頼通
- 妍子（三条天皇中宮）
- 教通
- 威子（後一条天皇中宮）



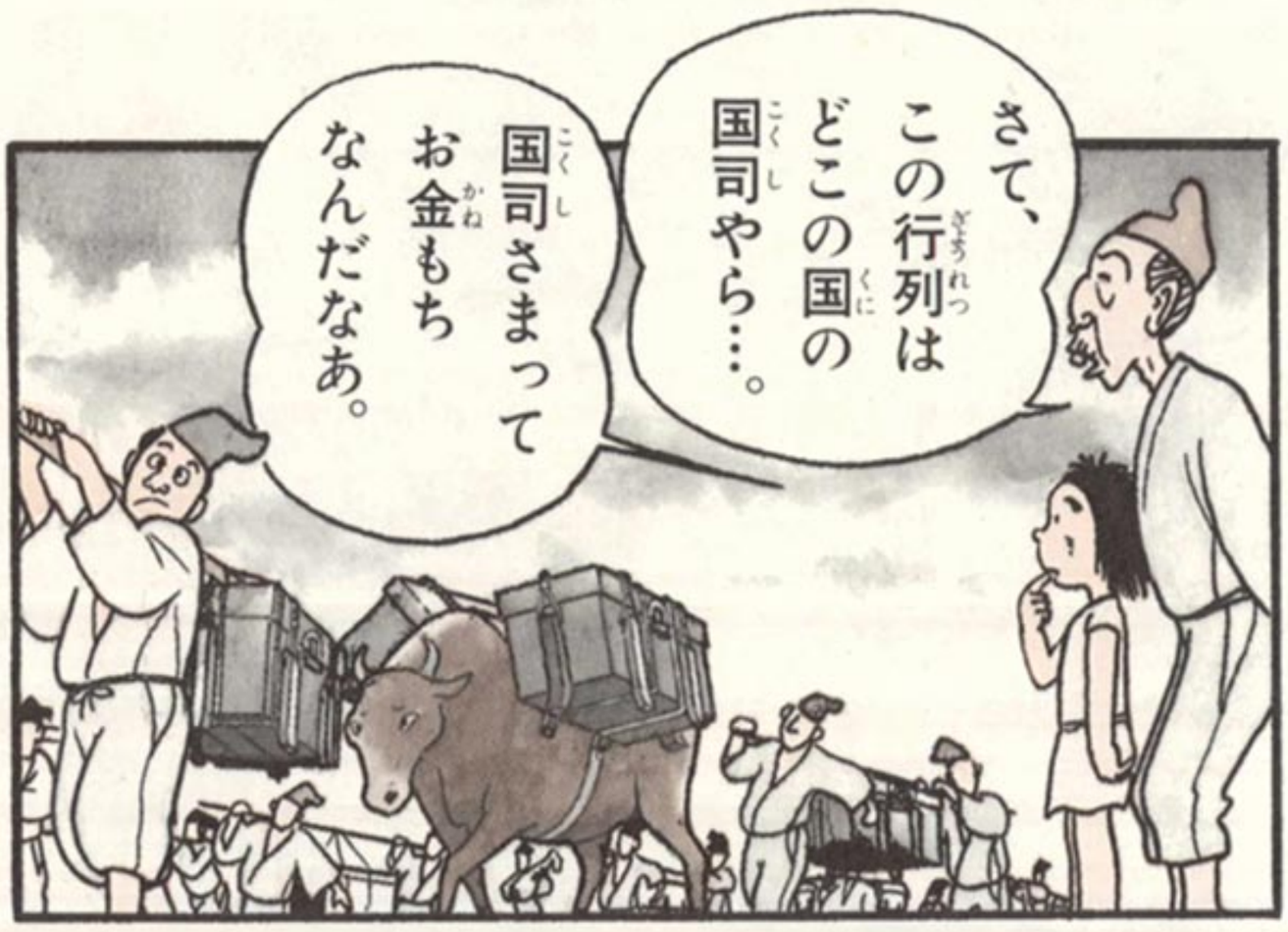
一〇一六年、三条天皇は退位し、彰子の皇子敦成親王が即位しました。後一条天皇です。道長は、九歳の後一条天皇の摂政となりました。

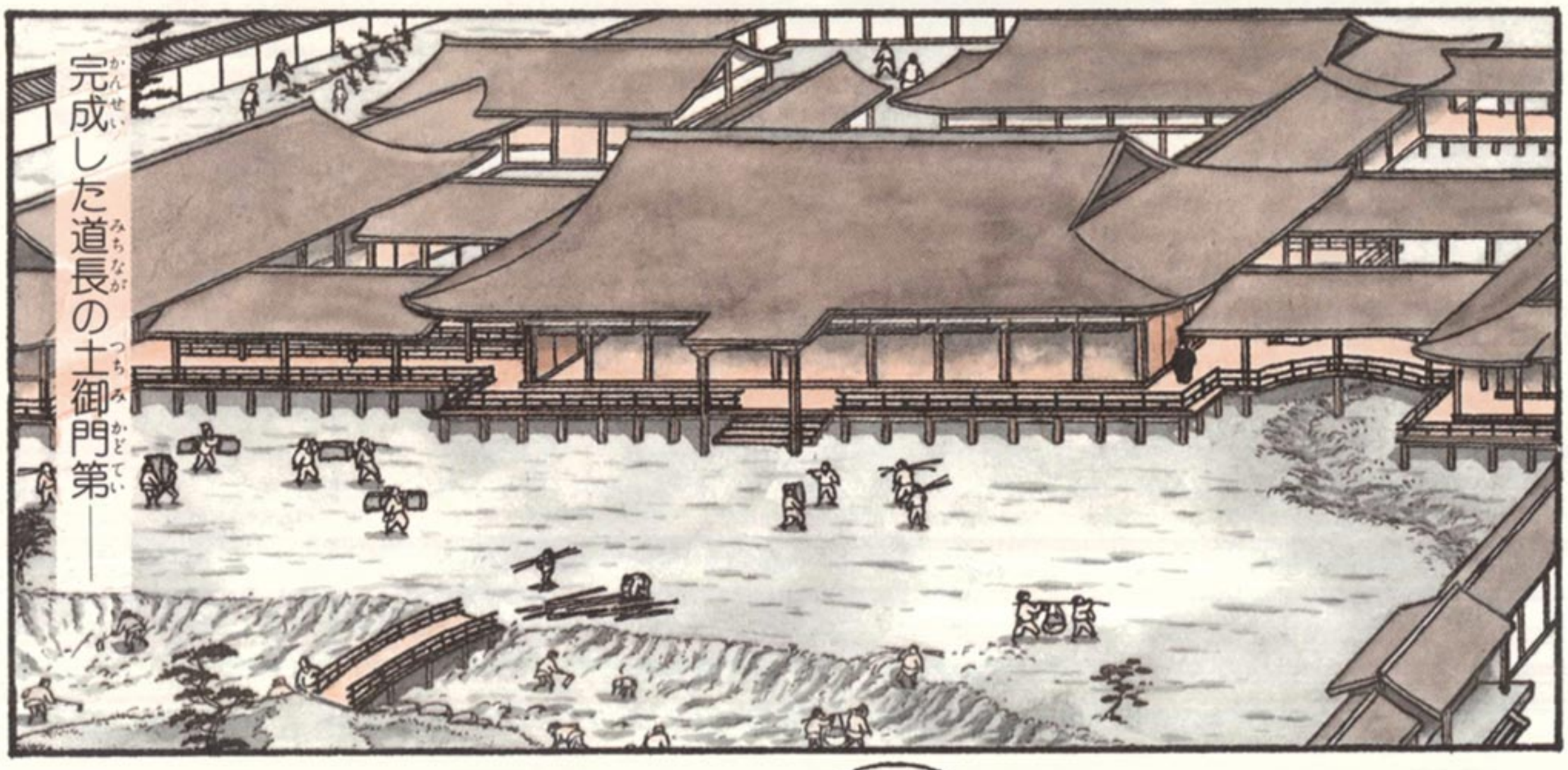

ガ
ラ
ガ
ラ
ガ
ラ


わあい、すごい行列だぞ。
どこへはこぶんだろうな。
たくさんの荷物！
ゴロ
ゴロ
ガラ
ガラ
あれはのう、藤原道長さまのもとへ、新築祝いの品をはこんでいるんじゃ。

道長さまのおやしきは、二年前にやけたんじゃが…。

当時は、諸国の国司があらそって火事見まいの品をとどけたものじゃ。





*伊予守…伊予（愛媛県）の国府の長官。

道長さまご夫妻や威子さまはじめ、みなさまのくらしに必要なものをすべてとりそろえてございます。

ほほう！

これは、これは！

まあきれい！

*尾張…愛知県

わっはっは、これだから、国司はやめられん。

父上、これは都のわが家へおくりましょう。

お屋敷にまた一つ、倉がふえますな。

尾張国守 藤原元命

わしの任期はあと一年。

がめつくかせぐぞ。

おい、どうする？

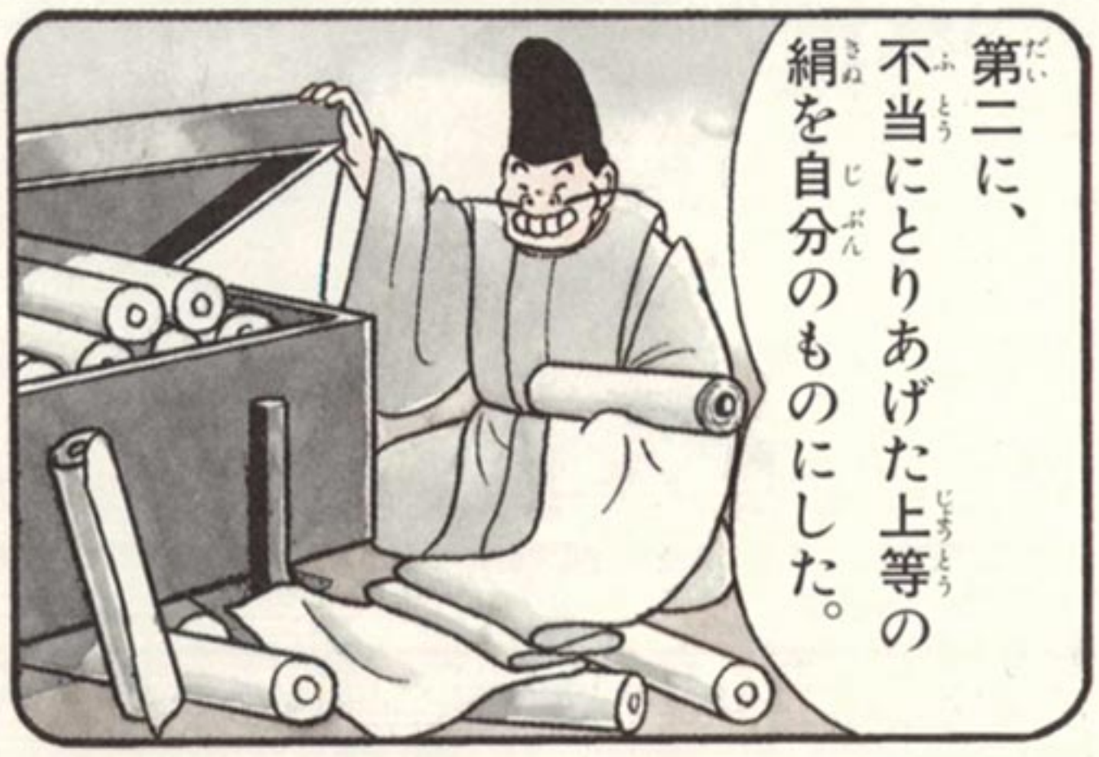
元命の悪政を朝廷にうったえよう！

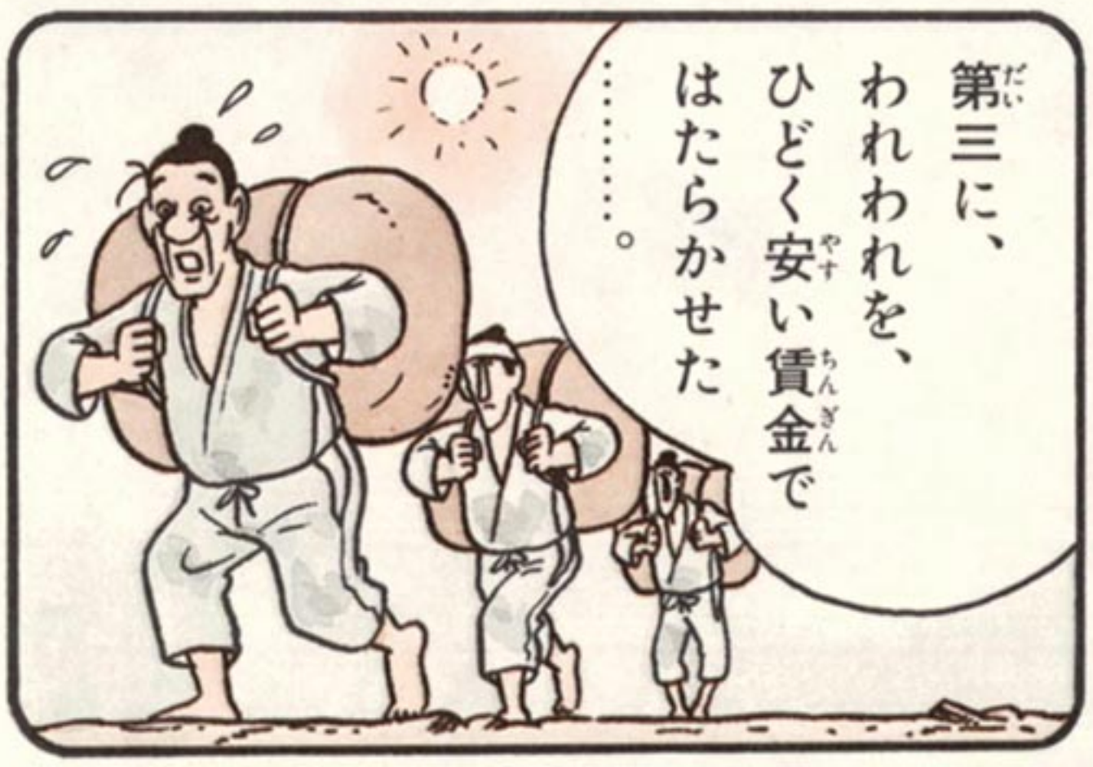
国司をやめさせるのだ！

よしっ、*解文を作るのだ。

第一に、元命は律令の税率より、はるかに多い租税をとりたてた……。

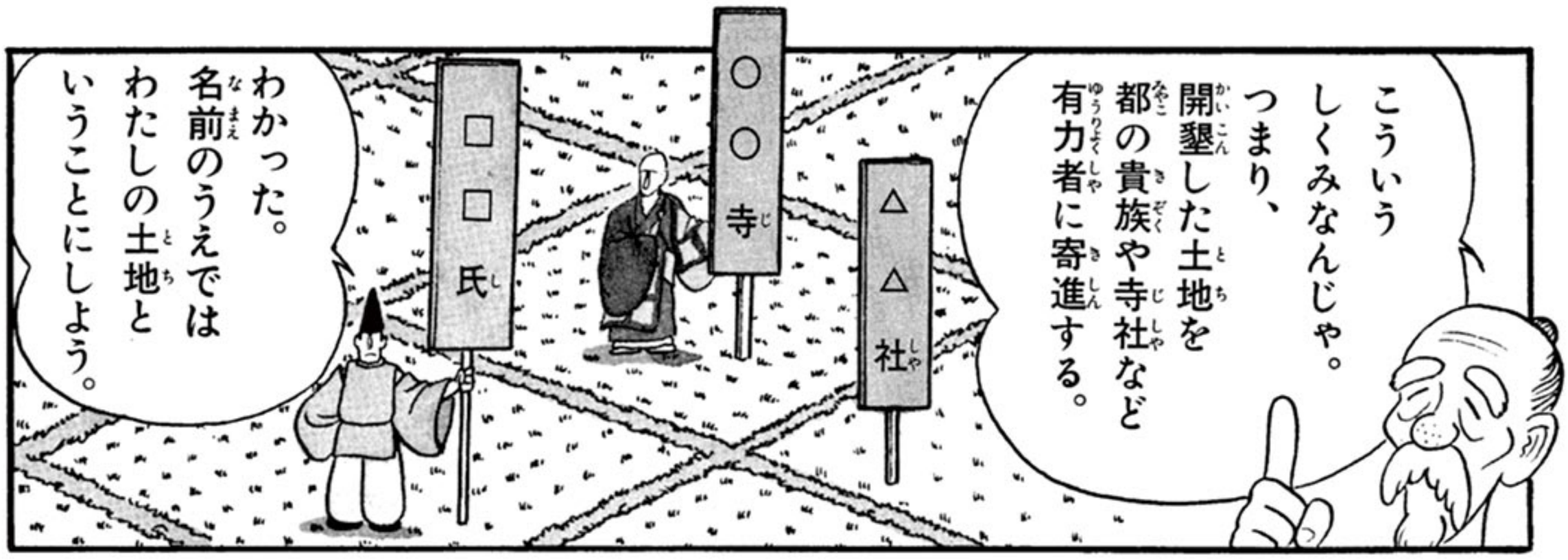
*解文…上官に意見をもうしあげる文書。上申書。

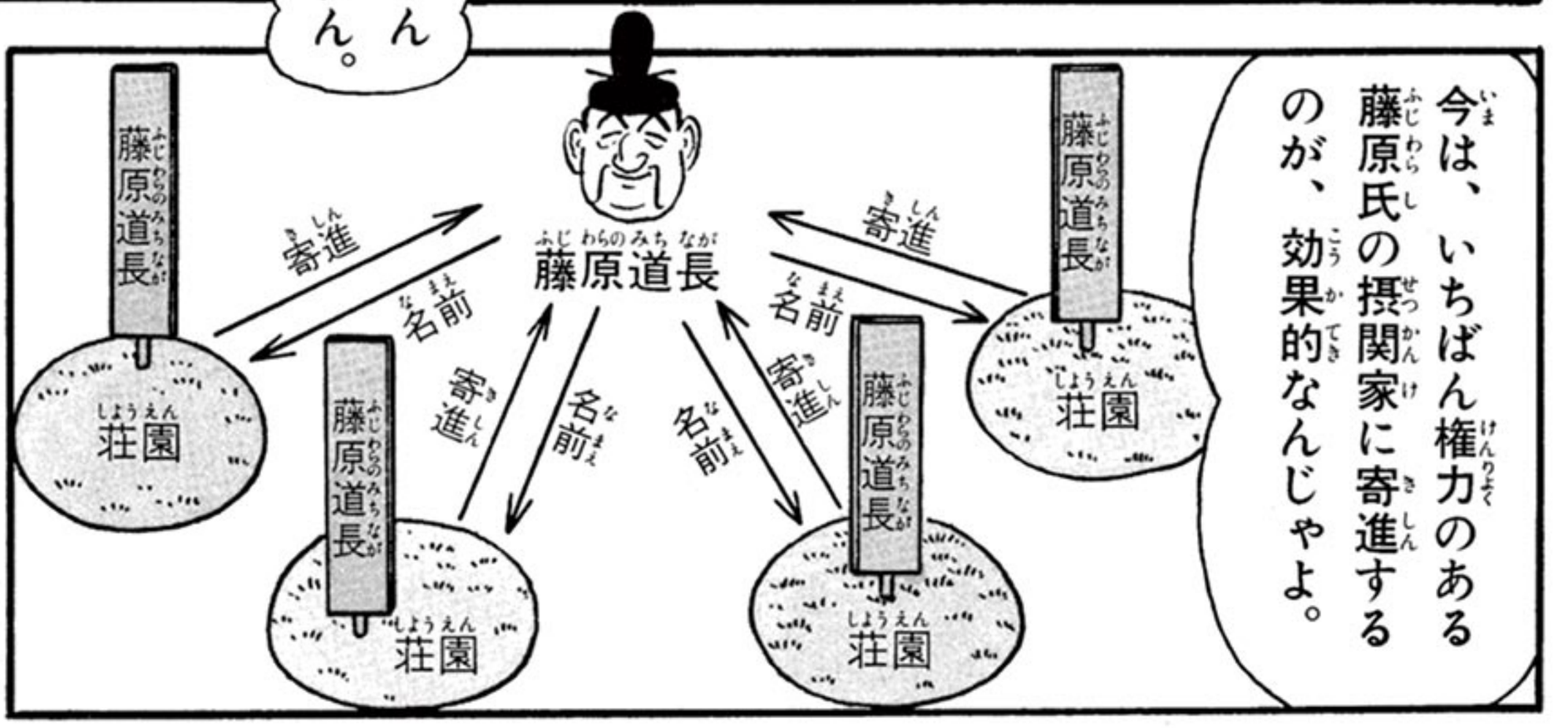




これほど悪どくはなくても、このころの国司たちは、税を不法にとりたてたり、自分の土地からの収入などで財産をきずきました。かれらを「受領」といいます。

*班田収授法…律令制で国の土地を、一定年令で人びとにあたえる制度。九〇二年以後廃止。



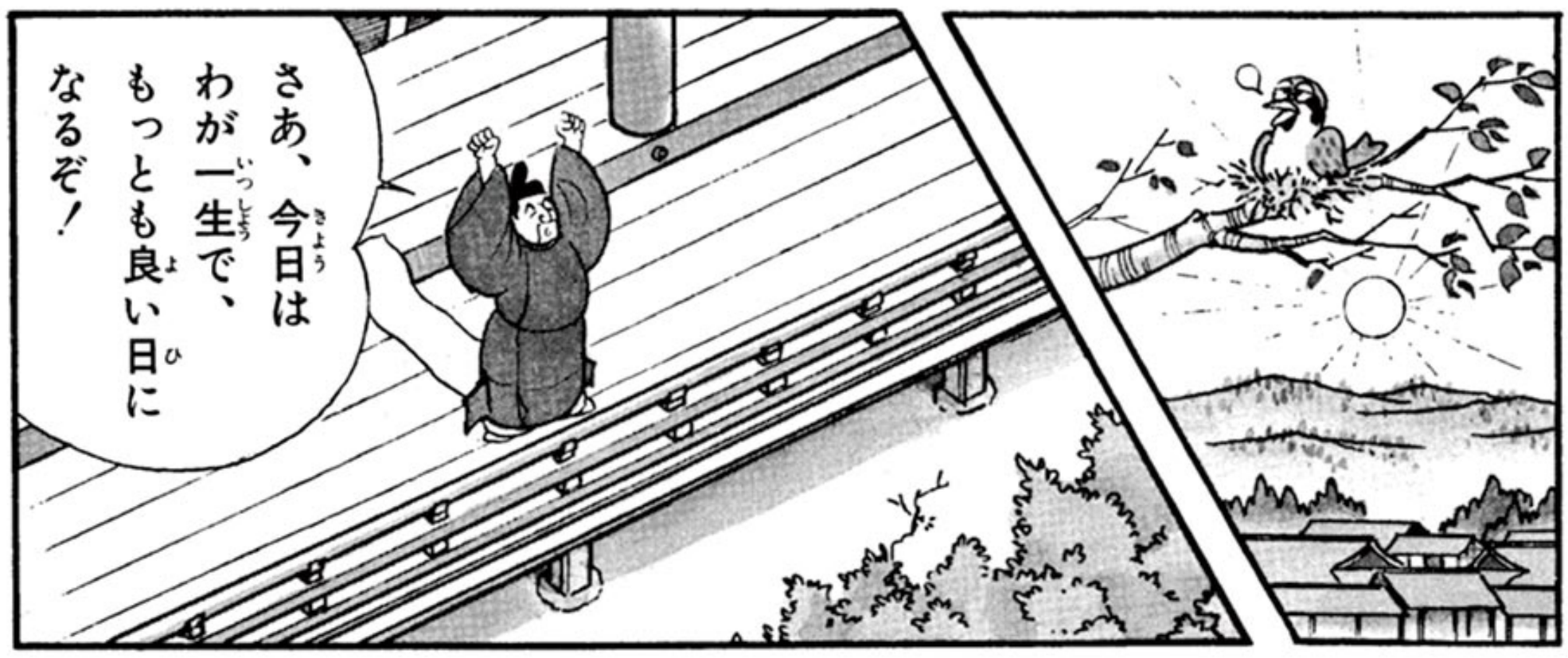


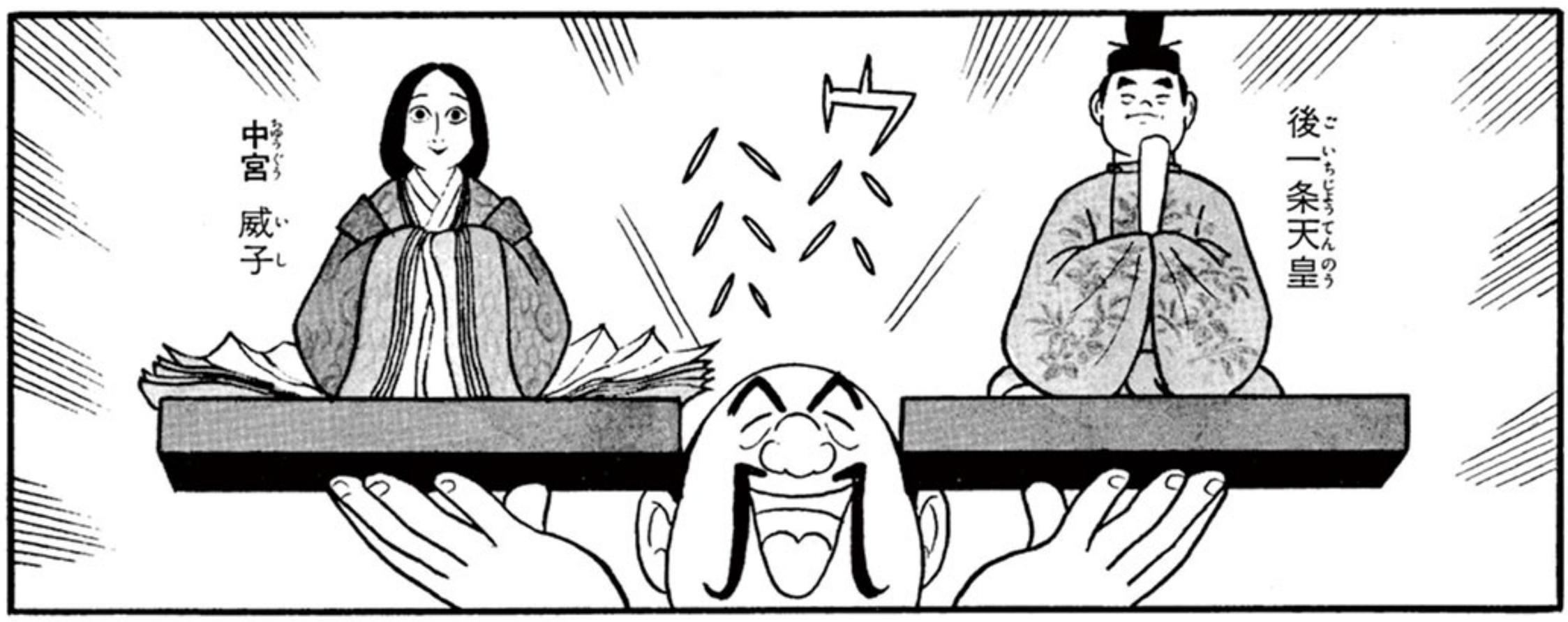
このような荘園を、「寄進地系荘園」といいます。藤原道長は多くの荘園を所有し、大きな財産をたくわえました。

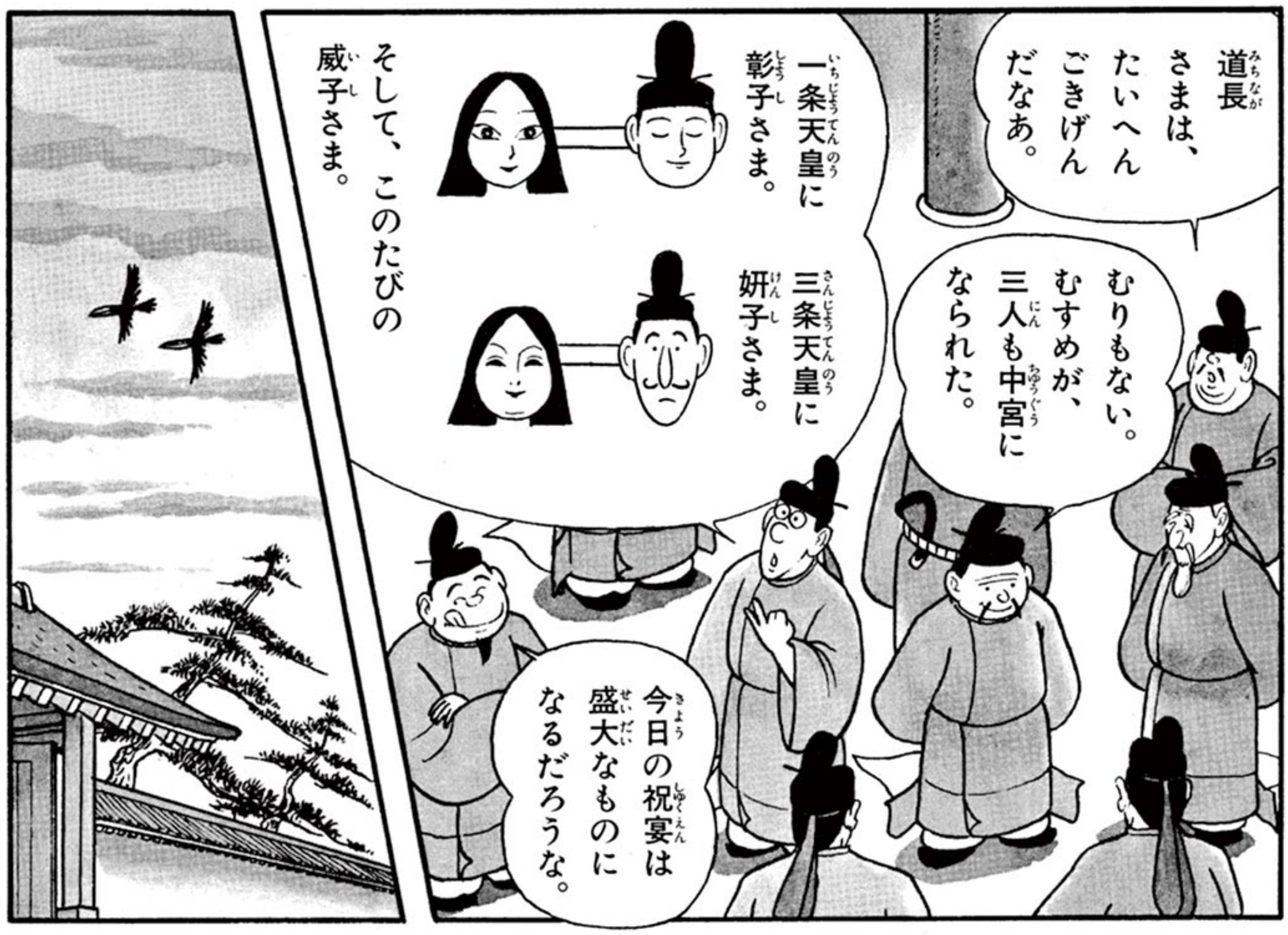
ところで、寄進地系荘園がふえると税がとりにくくなり国の財政が困難になります。

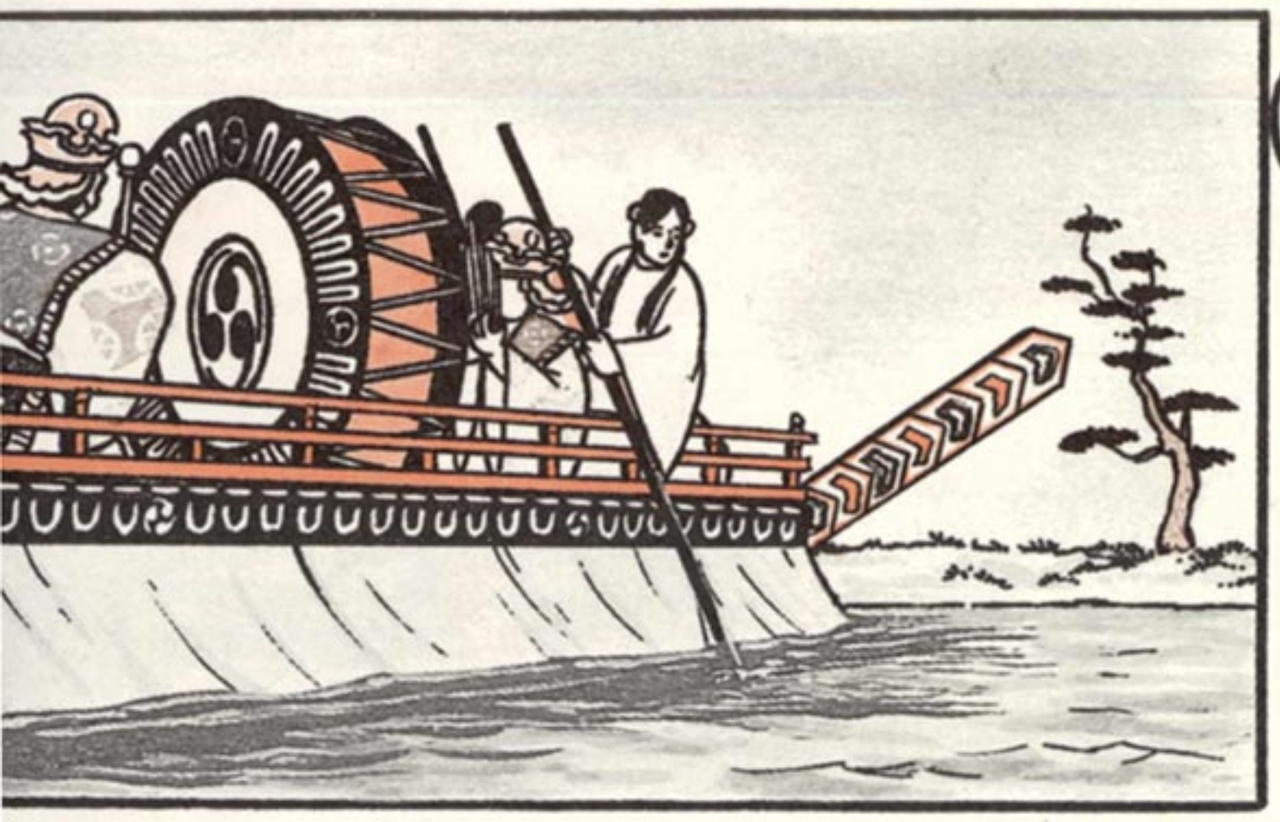
しかし、政治を行うのが藤原氏をはじめとする貴族なので、荘園増加をふせぐことはなかなかできませんでした。

一〇一八年十月十六日、この日、道長のむすめ威子が、後一条天皇の中宮となったのです。







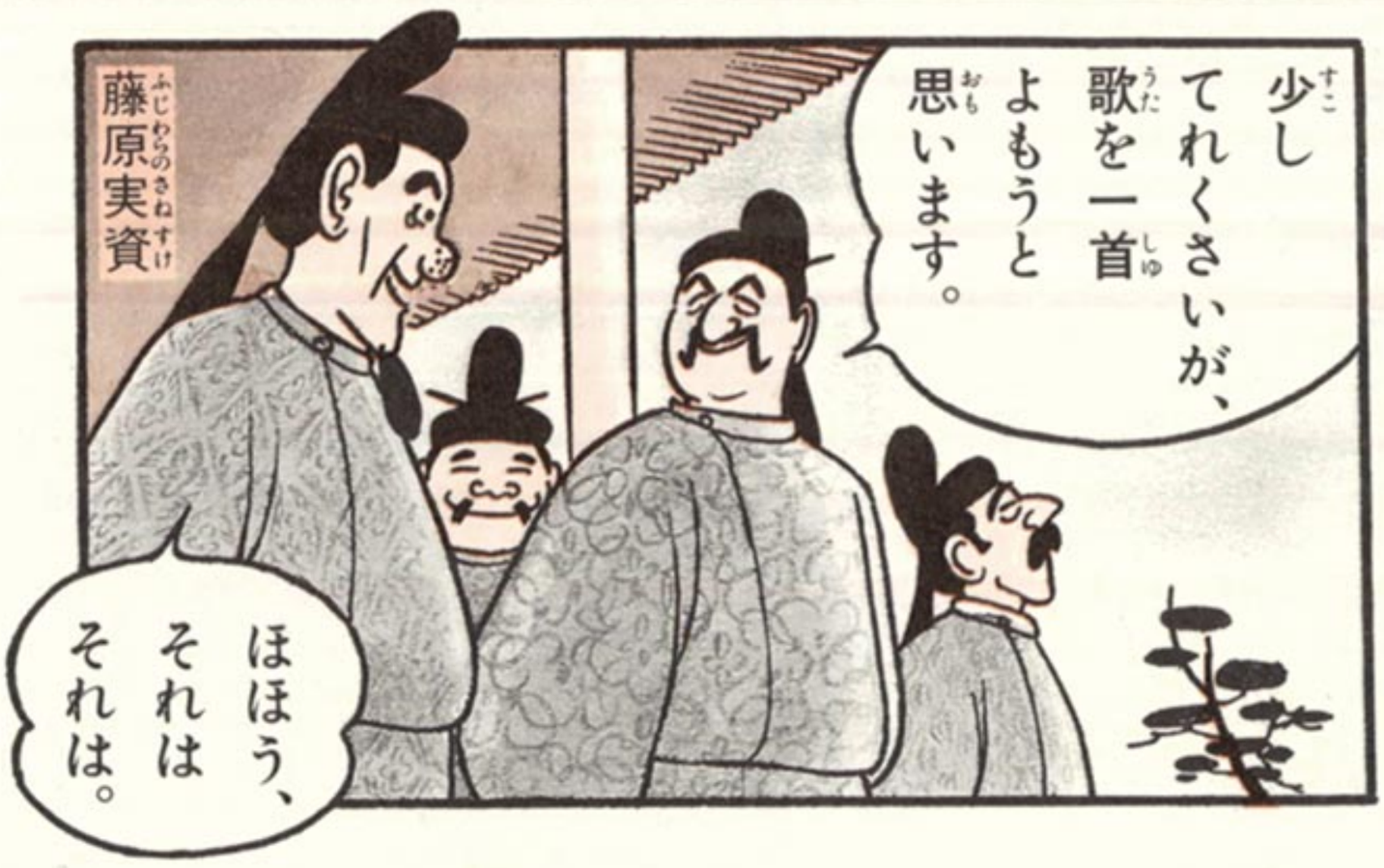


*管弦…音楽を演奏すること。

さあ、みなさん、大いにいわってください。

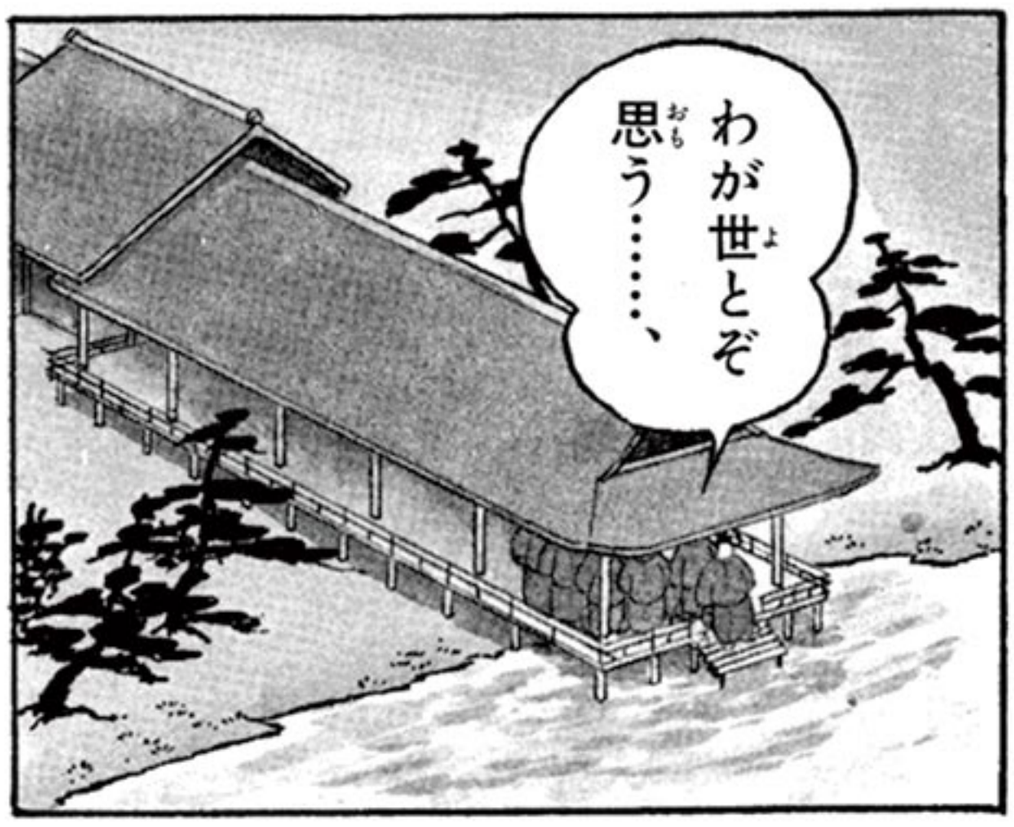
この夜、道長の屋敷土御門第で行われた祝宴は、道長にとってこの上もないものとなりました。

伊周などの有力な政治の競争相手もいなくなり、天皇の外祖父として朝廷で強い立場にあり、さらにむすめの威子を中宮とすることで、この先の安定をもたしかにした一日だったのです。



この世をば
わが世とぞ思ふ
望月の
かけたることも
なしと思へば

歌の意味――この世のすべてが、まるで自分のもののように思えます。かけたところのない満月のように、わたしの心は満足しています。



その後、政治の表面からしりぞいた道長は、寺院をたて、阿弥陀仏を信仰しました。なくなったのは一〇二七年です。

道長についで摂関の座についた頼通は、道長の別荘を寺院としました。それが平等院です。

ところで、道長のときに全盛だった摂関政治は、子どもの頼通や教通の時代になっておとろえてきます。

つまり、摂関家を外祖父としない天皇や上皇があらわれて政治の実権をにぎります。それとともに、下級貴族や武士などの新しい勢力が用いられ、台頭してくるのです。

小学館 eBooks

第三章

宮廷の女性たち

——平安時代中期——

九九四年四月、平安京――

わーい わーい

お祭りの行列だよ！

ザワ ザワ

ガヤ ガヤ

ワイ ワイ

ここじゃぜんぜん見えないわ。

むこうに行ってみようよ。

こらこら、あっちへ行け！

ここから先は*中宮の女房のかたたちが見物なさる場所だぞ。

女房って？

みかどのおきさきさまたちに、おつかえするかただ。

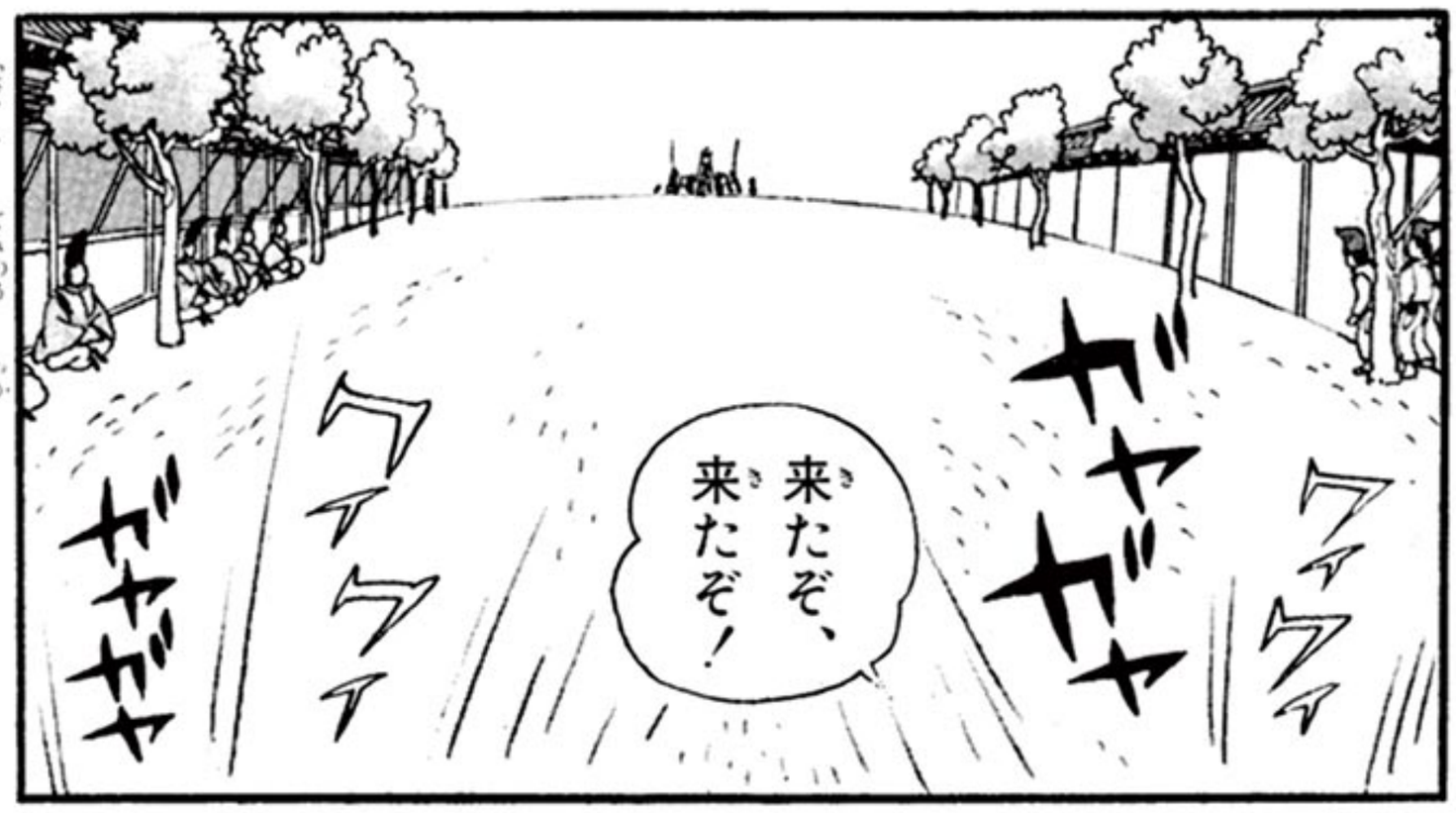
わたしもなりたいわ。

おきさきさまたちに、いろいろなことをお教えしなくてはならないんだよ。

そうそう、美しくて教養のある人でないと、なれないよ。

ガックリ

*中宮…この場合は、天皇のきさきのうち、皇后と同格のきさきをいう。



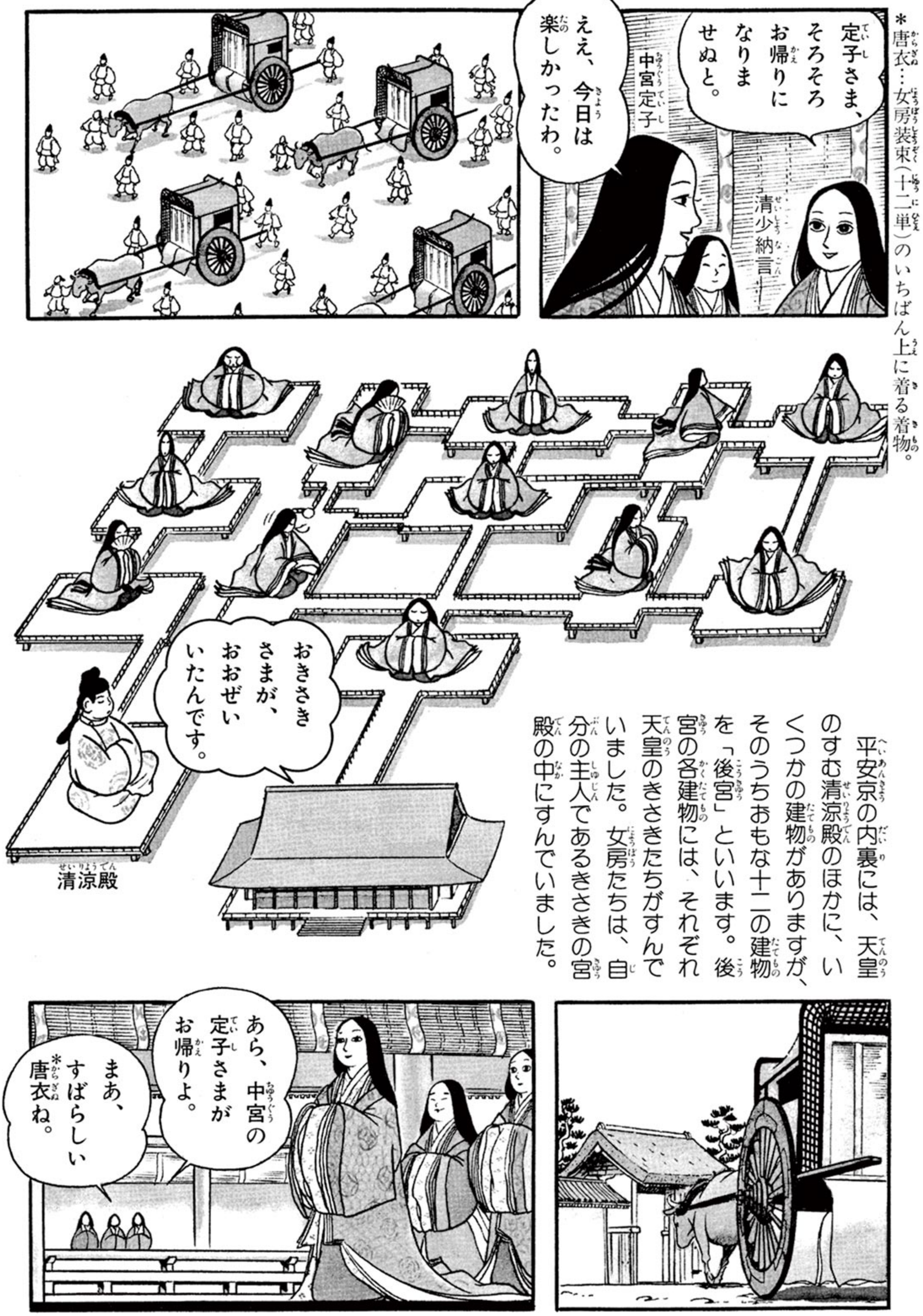
*桟敷…祭りなどの見物のためにつくられる臨時の建物。

*勅使…天皇の使い。

まあ、すばらしいこと！
これは何のお祭りなの？
賀茂祭といって、都をまもる賀茂神社のお祭りだよ。
ごらん、あのまるいのは、風流傘というかざり物だよ。

賀茂祭は古くからの祭りですが、九世紀のはじめごろから公式に行われるようになりました。祭りのときには、勅使や神官の一行が上賀茂(賀茂別雷)、下鴨(賀茂御祖)の二つの神社を回って儀式を行いました。

そのはなやかな行列を都の人びとがこぞって見物した様子は、当時の物語などにもえがかれています。



*唐衣…女房装束（十二単）のいちばん上に着る着物。

平安京の内裏には、天皇のすむ清涼殿のほかに、いくつかの建物がありますが、そのうちおもな十二の建物を「後宮」といいます。後宮の各建物には、それぞれ天皇のきさきたちがすんでいました。女房たちは、自分の主人であるきさきの宮殿の中にすんでいました。

*女御…天皇のきさき。皇后・中宮より格が低い。

このころ、上級貴族たちは、きそって自分のむすめを天皇のきさきにしようとしました。

こうして、清少納言も、中宮定子につかえることになったのです。

でも、宮仕えをはじめたころは、ずいぶんきんちょうしたわ。

モジ
モジ

清少納言です。

さあ、こちらへ。

少納言、こういう絵をごぞんじ？

いえ、あ、あの……。

もっと気楽になさい。

ただ今、道隆さまと伊周さまがお見えでございます。

まあ、父ぎみと兄ぎみが…。

中宮さま、ごきげんをうかがいにまいりましたぞ。

おや、また新しいかたが入られたのかな？

藤原道隆

藤原伊周

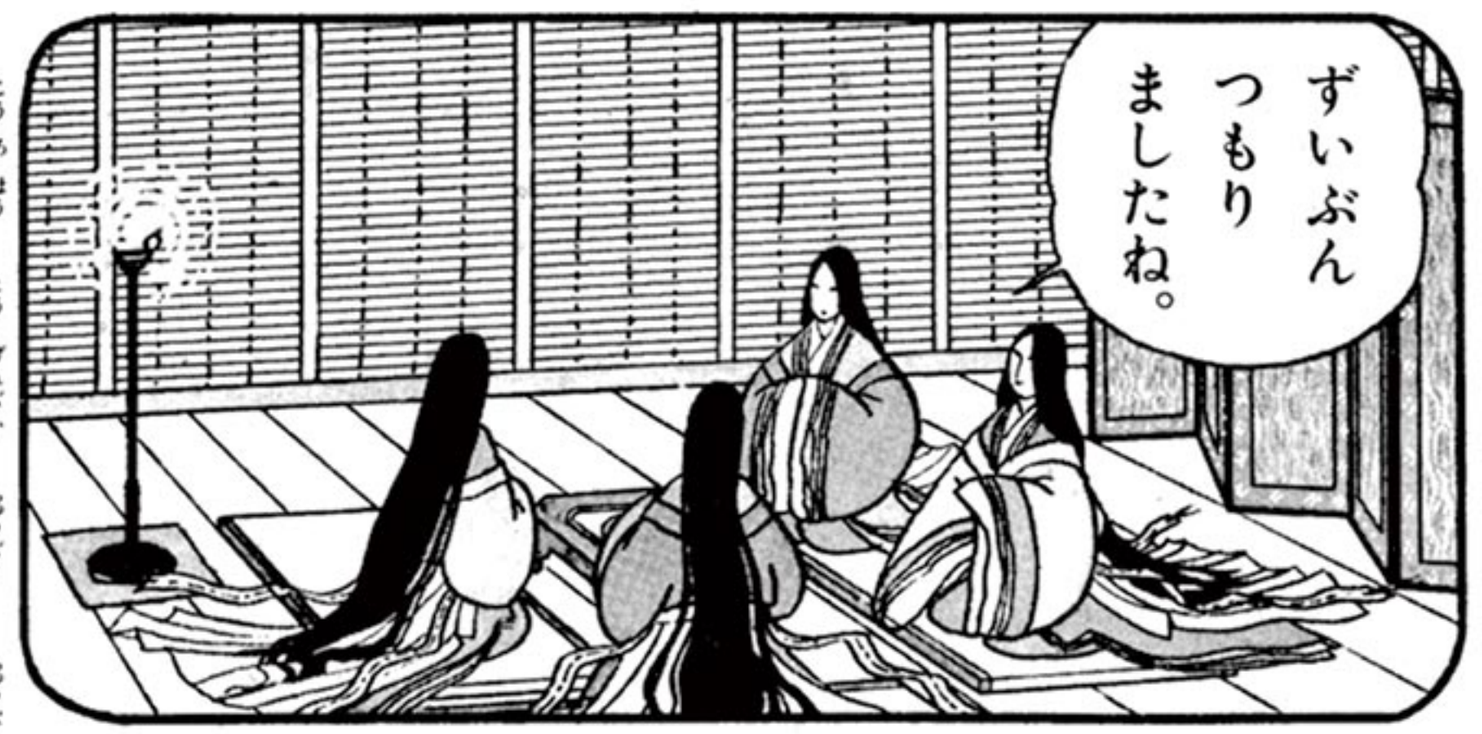
その人は、歌人の清原元輔どののむすめで、才女と評判の人じゃ。

ほう、それはすばらしい。中宮さまに、いろいろと手ほどきしてくださいよ。

い、いえ。

は…、はい。

兄ぎみ、少納言がはずかしがっているわよ。



*香炉峰…唐（現在の中国）の中南部にある山。

九世紀の唐の詩人、白楽天の漢詩に、「香炉峰の雪は*みすをかかげて見る」という一句があります。中宮はこの詩で、なぞをかけたのです。

*みす…寝殿造（貴族などの住まい）の間仕切りとしてつかわれたすだれ。

平安時代には、多くの年中行事や儀式が行われるようになりました。儀式をきまりどおり行うことは、公卿や役人のたいせつな仕事でした。

*白馬節会…次ページ参照。

*笏…正式な服そうのとき、威儀を正すために右手にもつ板。

一日　四方拝
天皇が清涼殿で神がみをおがむ儀式。

二日ごろ　朝覲行幸
天皇が上皇などのところに新年のあいさつに行く儀式。宴会。

五日　叙位
新しく五位以上になった者に位をさずける儀式。

七日　白馬節会
まよけに、天皇が白い馬を見る儀式。宴会。

八日から一週間　御斎会
国の平和と豊作をいのる仏教の儀式。

うう、寒い。

九日から十一日
県召除目
国司などの地方官を任命する儀式。

次のページを、ごらんください。

十六日
踏歌（女踏歌）
舞人たちが、紫宸殿の南庭で舞を行う儀式。宴会。唐の行事などをもとにしたもの。

十八日　賭弓
天皇の前で、弓の技をきそい合う儀式。宴会。

二十一日　内宴
宮中の宴会。詩がつくられたり、舞が行われたりする。

このほかに、臨時の儀式もありますし…

まったく、年じゅうやっているんですな。

おやおや、こうしてはいられない。

失礼。

一月の行事のうち、除目について、その少し前からちょっと見てみましょう。

申文だわ。

申文というのは、任官や昇進をねがう申しこみ書です。除目では、これを審査して任命しました。

官職につこうとする者は、女房などを通じて有力者に申文を提出したりしました。

今度の除目のことですが……、中宮さまによろしくおとりなしを……。

あのかた、去年も来たわよ。

去年はだめだったのね。

家のかたもご心配でしょうねえ。

ヒソ

ヒソ

あなた、今年こそ国司になれるでしょうね。

うむ…、申文はとどけたが……。

ご主人さま、今年はだいじょうぶだろうなあ。

うだつのあがらぬ人につかえるより、ほかの家につとめようかなあ……。

わはは！

発表の日――

*越後国守にきまったぞ!!

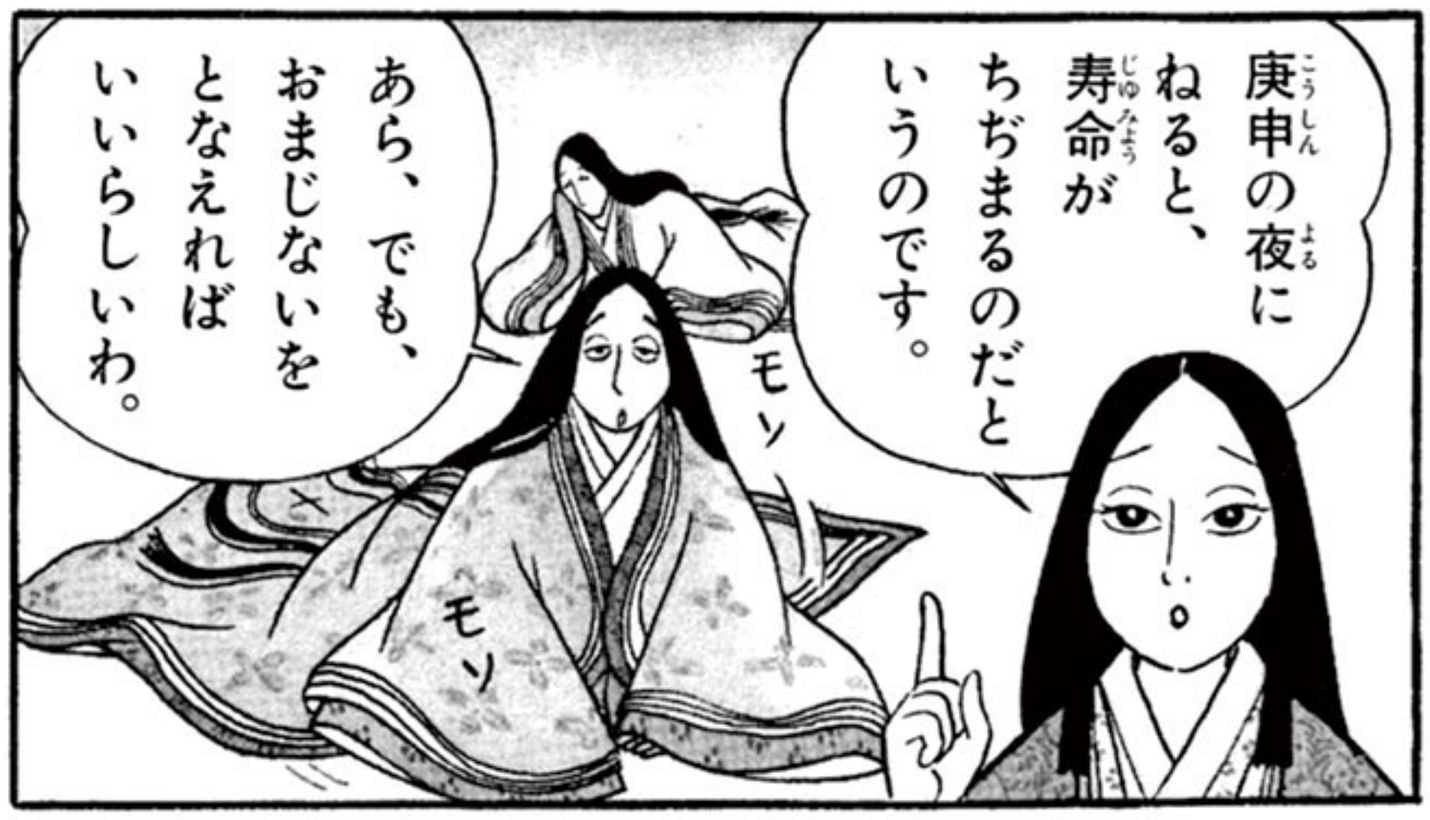
ご昇進、おめでとうございます。

*越後…新潟県

どこの国司にもなれなかった…。

あなた！申文の書き方をまちがえたんじゃないのですか!?

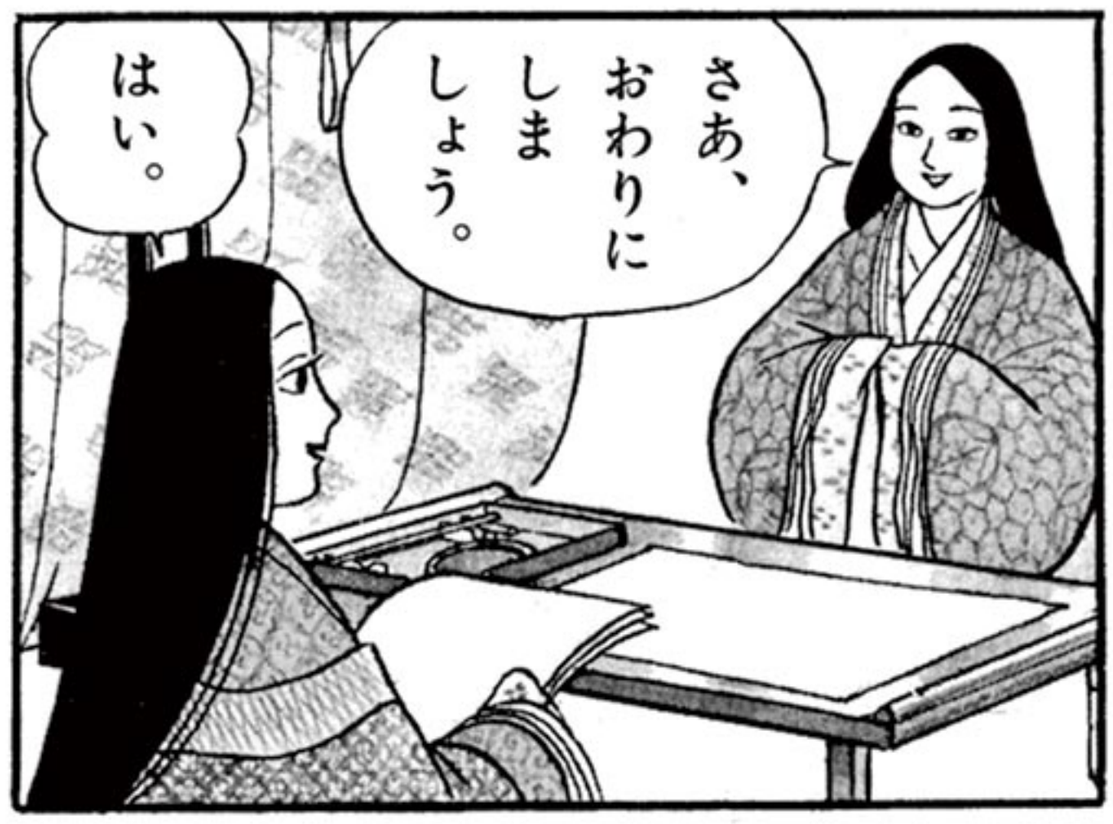
わたくしたち女房も、父や兄弟が官職につけるかどうか、除目の結果が気になるものなのです。

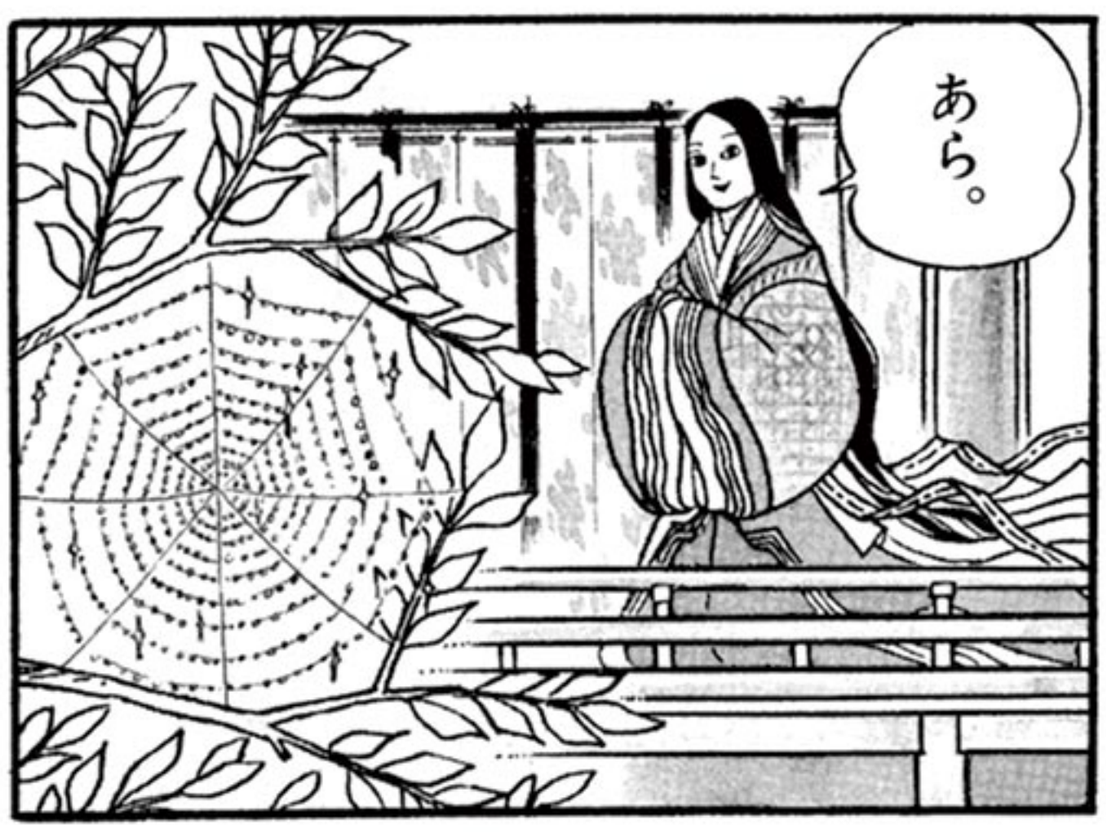


＊庚申の夜…中国から入ってきたいいつたえで、60日に一度の庚申という日の夜は、ねむらずに身をつつしむというもの。

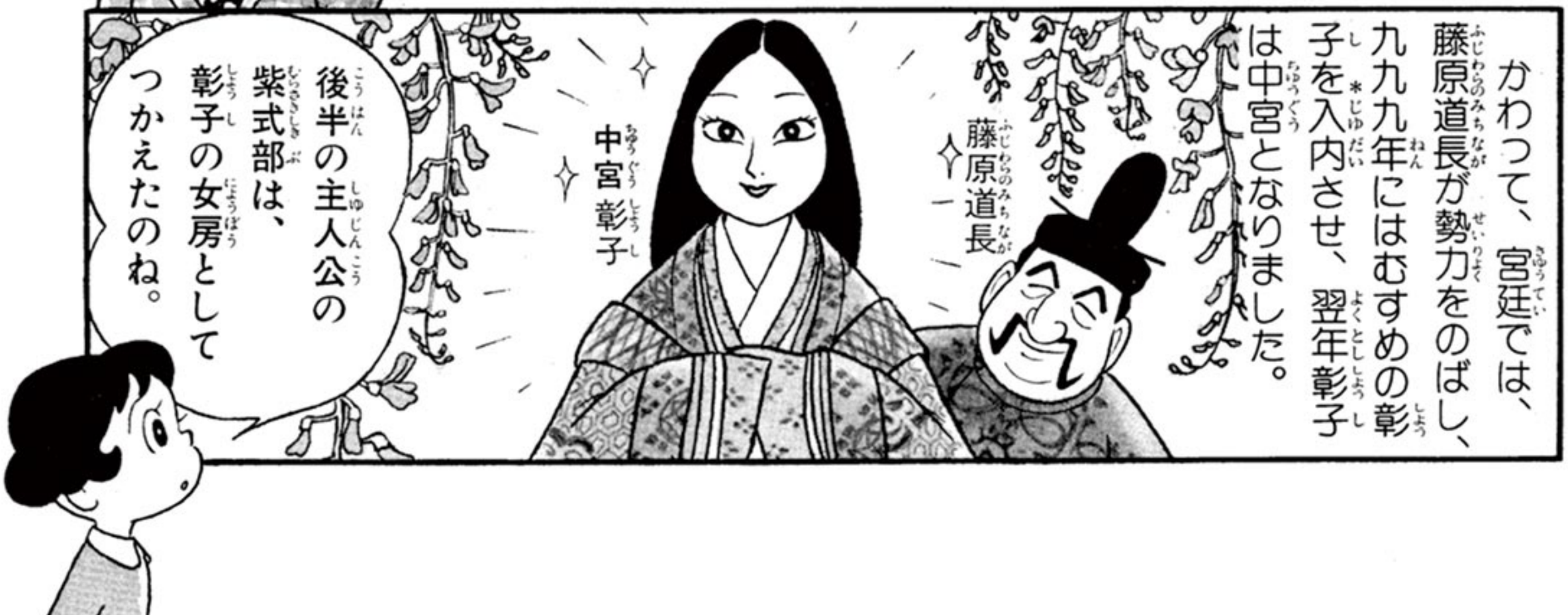
この物語をうつしたいのですが…。
ほほほほ、わたくしの勝ちのようね。

天皇のきさきにつかえる女房にも、男性の官人と同様に、出身や位の有無によって身分のちがいがありました。女房の仕事としては、裁ほうの係、食事の係、とりつぎの係、灯火の係などがありましたが、きさきを教育したり、その話し相手になったりすることも、たいせつな仕事でした。





清少納言は宮仕えのかたわら、「枕草子」という本を書きました。宮廷での生活や自然の様子を観察して書いた部分や、美しいもの、いやなものなどの項目で、いろいろな事物をえらび出している部分などからなっています。



*入内…中宮や皇后となる女性が正式に内裏に入ること。

一〇〇〇年春――

みかどが、彰子さまのところにおいでだ。

おわかい中宮さまがお気に入られたようだな。

彰子さまのところには、おつきのかたも多いらしいな。

立后の式には、四十人もの女房がたがおつきになったそうだ。

彰子、またあの絵を見せておくれ。

一条天皇

ほう、屏風もすっかり春らしいものを……。いつも、彰子の部屋はすばらしいな。

中宮彰子

はい、父ぎみがいろいろと用意をしてくださいました。

数年後――

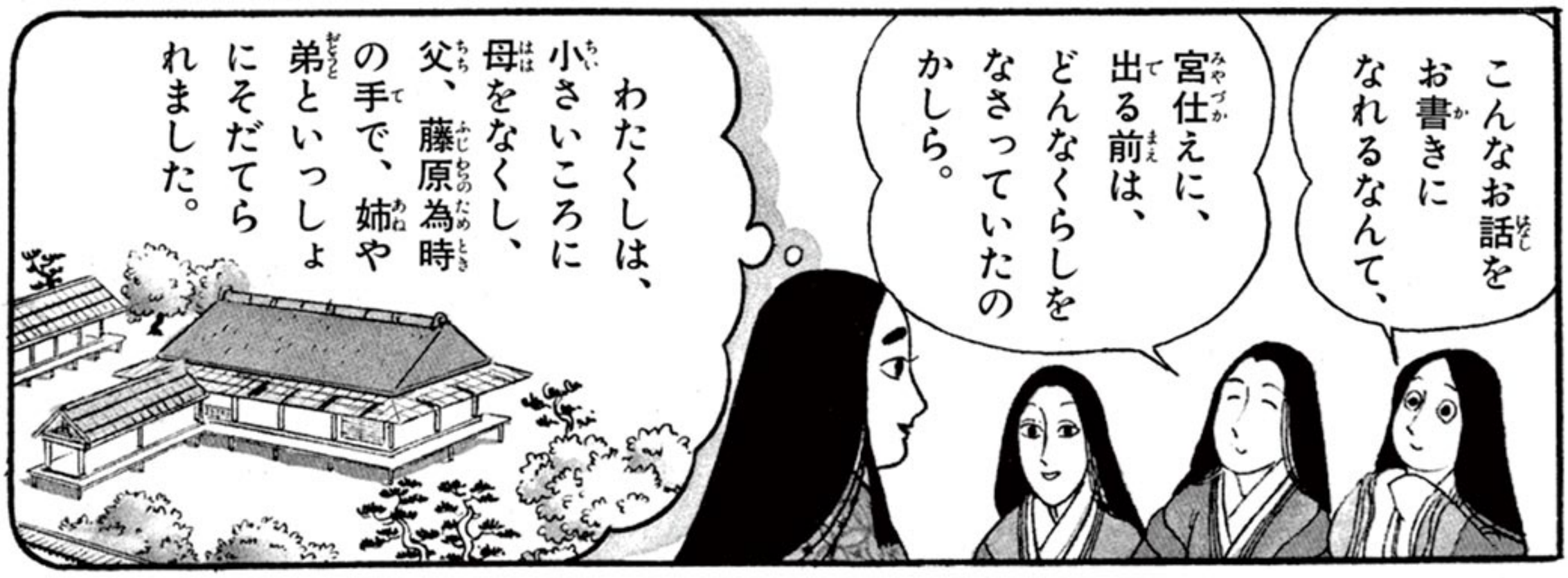
何をなさっているの？

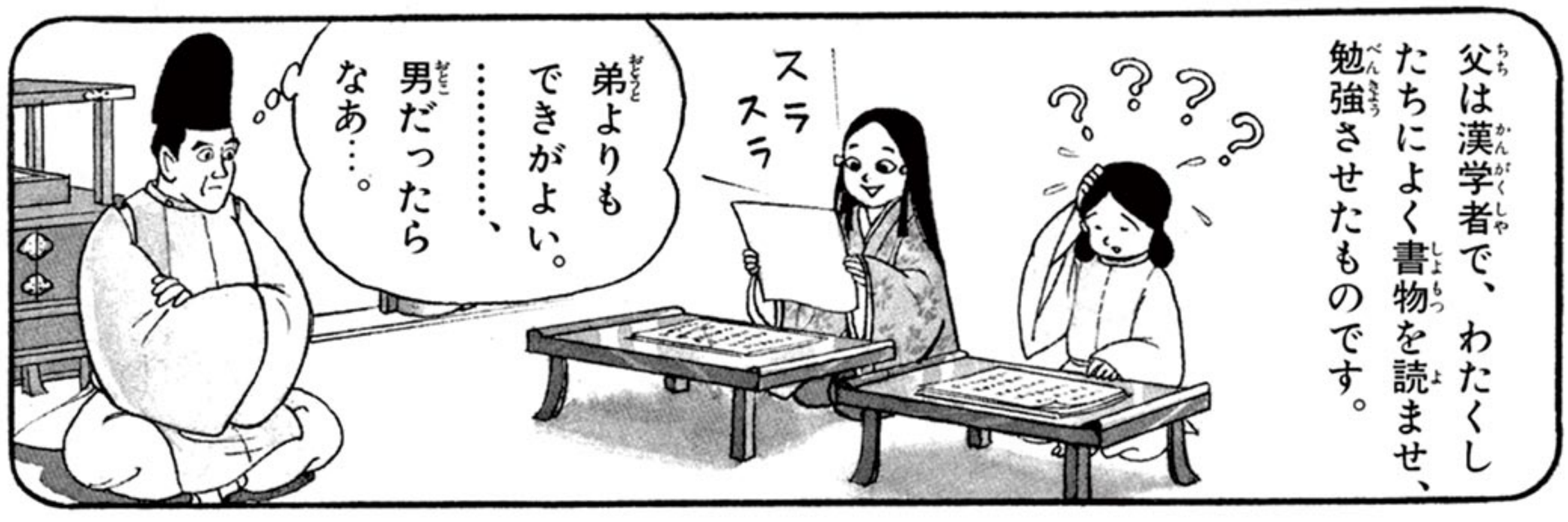
紫式部さまのお書きになっている源氏物語をうつしていますの。

まあ、すばらしい。

源氏さま…。

「源氏物語」は紫式部の書いた長編小説です。主人公の貴公子、光源氏は、多くの女性と恋愛をしながら高い位にすすみ、栄華をきわめますが、やがて不幸な晩年をむかえます。その子薫大将の半生にも、暗い運命がおとずれます。

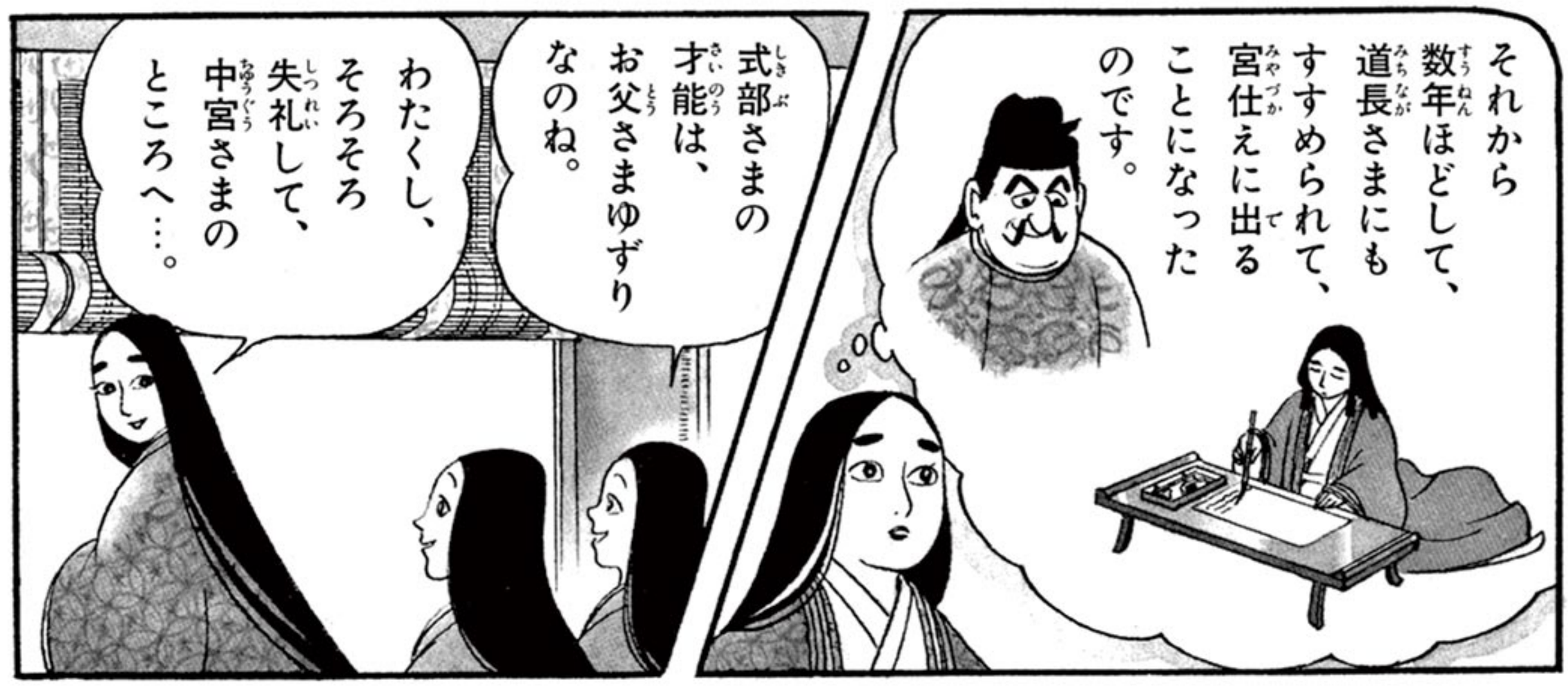

こんなお話をお書きになれるなんて、
宮仕えに、出る前は、どんなくらしをなさっていたのかしら。
わたくしは、小さいころに母をなくし、父、藤原為時の手で、姉や弟といっしょにそだてられました。


父は漢学者で、わたくしたちによく書物を読ませ、勉強させたものです。
？？？？
スラスラ
弟よりもできがよい。……、男だったらなあ…。

その後、道長さまのお力ぞえで、*越前国守となり、わたくしも、父とともに越前に行きました。

しばらく後、わたくしは都に帰り、結婚しましたが、まもなく夫がなくなり…。

*越前…福井県の一部


それから数年ほどして、道長さまにもすすめられて、宮仕えに出ることになったのです。
式部さまの才能は、お父さまゆずりなのね。
わたくし、そろそろ失礼して、中宮さまのところへ…。

今日は、漢詩を勉強いたしましょう。

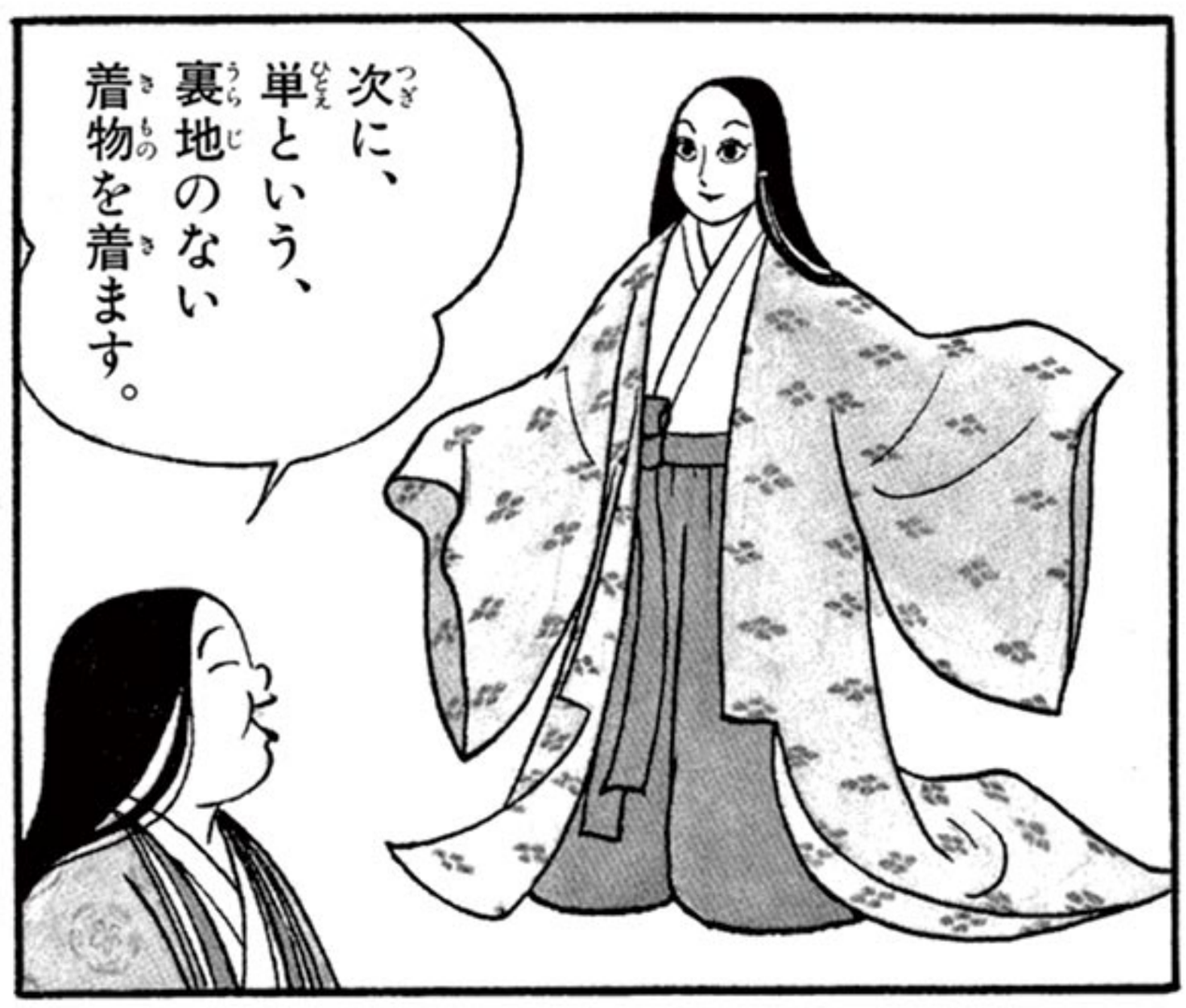
ああ、くたびれたわ。式部は、ほんとうに学問ができるのね。
いえ、まだまだ勉強不足でございます。

そういえば、定子さまのところにいた、清少納言も、漢詩にくわしかったらしいわね。
ええ。気のきいたやりとりがとくいだったと評判ですが、

学問は、人に見せるためのものではないと思います。
そうね。式部はじめのころ、漢詩が読めることをかくしていたくらいですものねえ。

あら、どうなさったの？
あ、式部さま、ひもがゆるんでしまったので、なおしていましたの。
着こんでいるとたいへんだなあ。毛皮一枚のほうが気楽じゃ。

当時の女房たちは、女房装束という服そうで宮仕えをしました。今日、一般に十二単とよばれている姿です。何枚もの衣(着物)を重ね着する、はなやかな服そうで、季節によって衣の枚数を調節したり、素材を区別したりします。

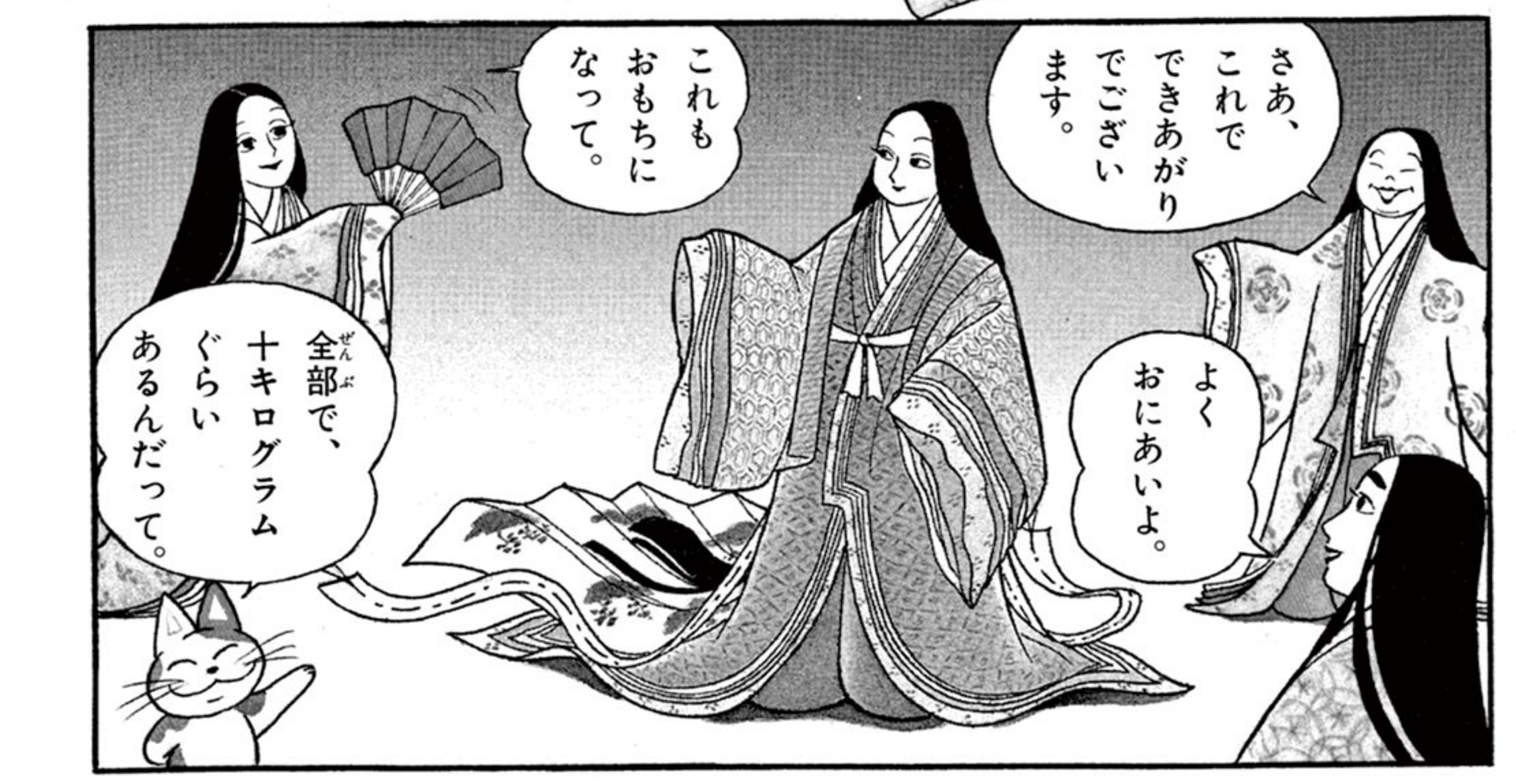


天皇や中宮など、身分の高い人の前に出るような場合には、この上に裳と唐衣をつけます。

裳は後ろ側だけにつけるスカートのようなもので、ひもでむすびます。

これは、かざりのひもです。

唐衣は、そでもたけも短く、りっぱな織物でできています。

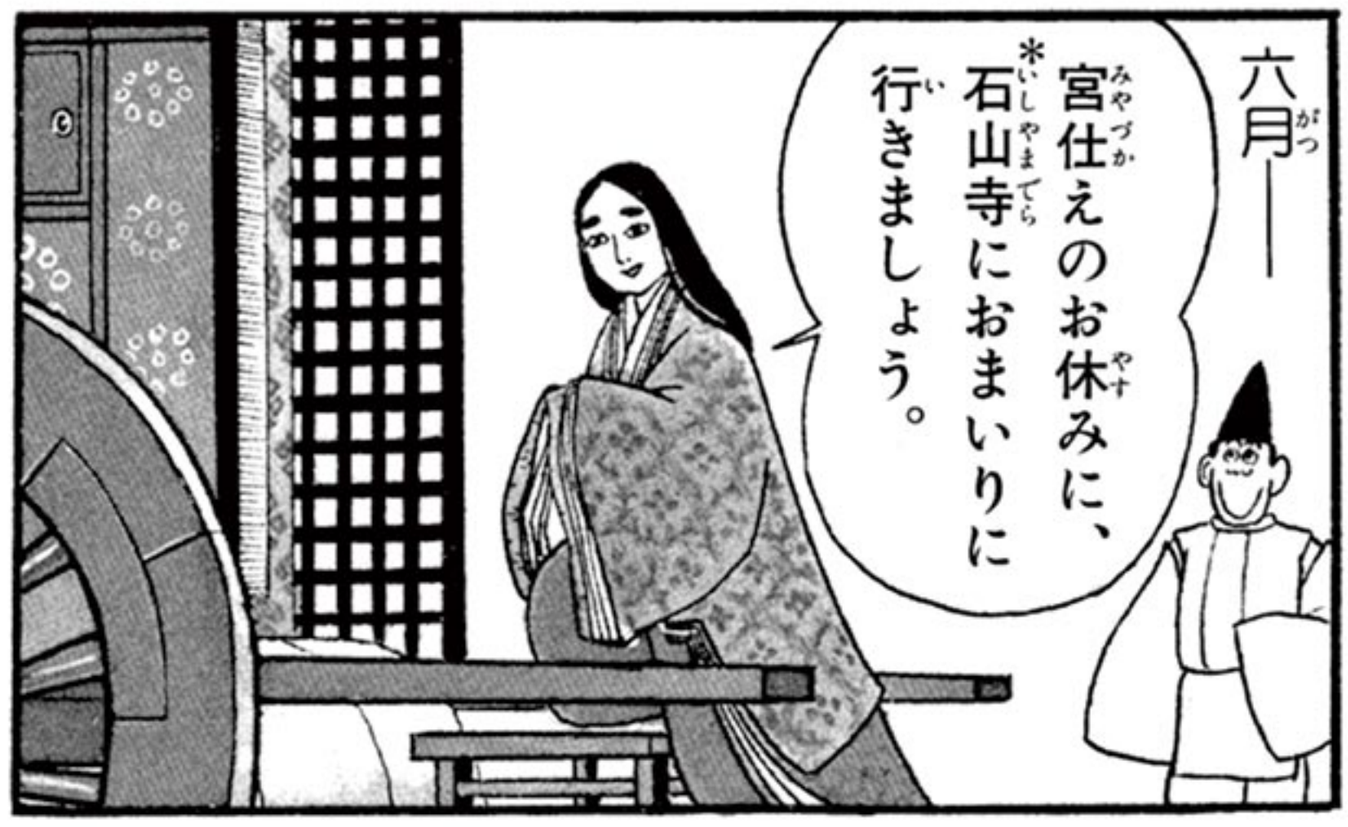


そでロや、すそにご注目ください。中の着物の色が、美しくかさなって見えております。

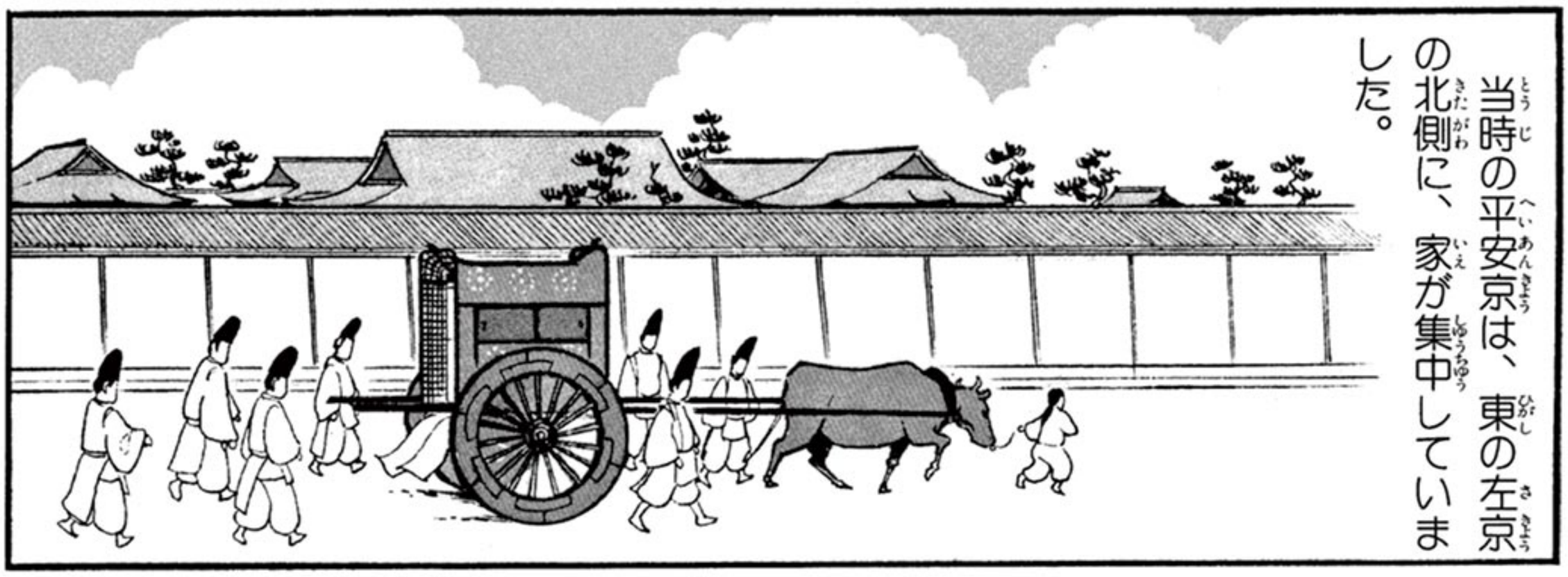
この、重なりなどの配色を重ね色目といい、色の組み合わせやかさねる順序にくふうをこらし、季節感などをあらわすのです。

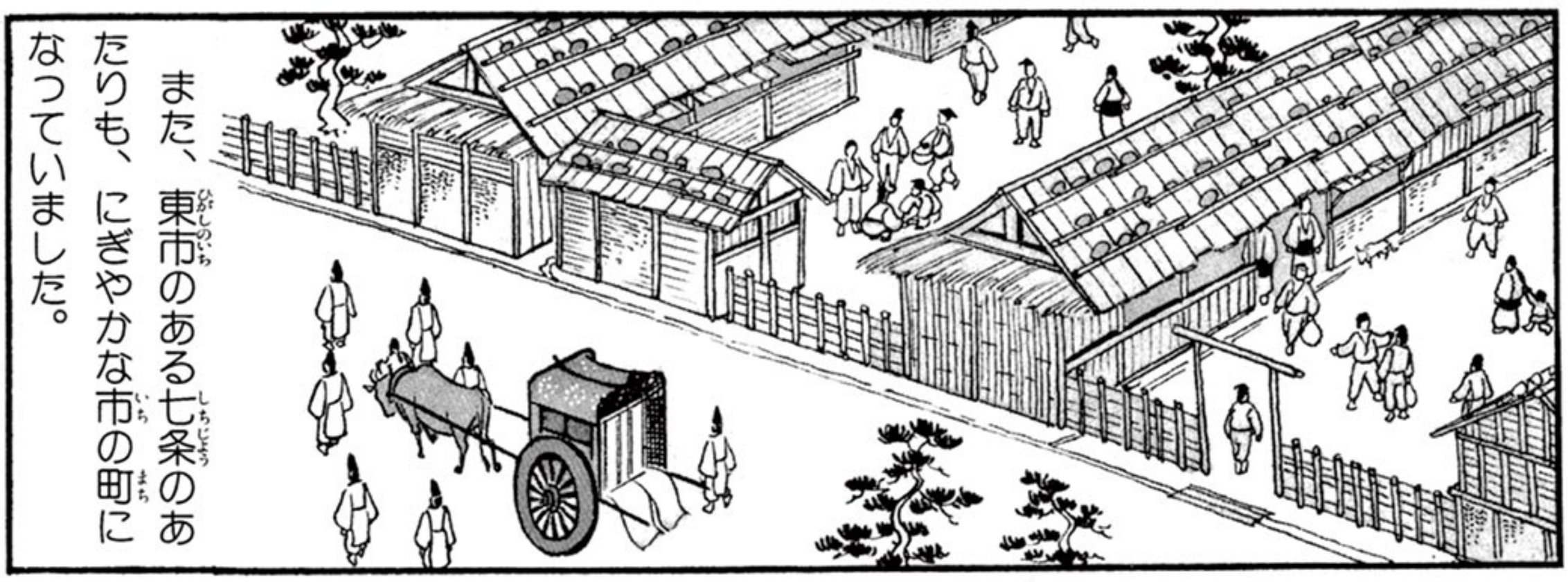
また、このような美しいそでロやすそを、部屋のみすや牛車からはみ出させることも、一種のかざりとして、よく行われました。

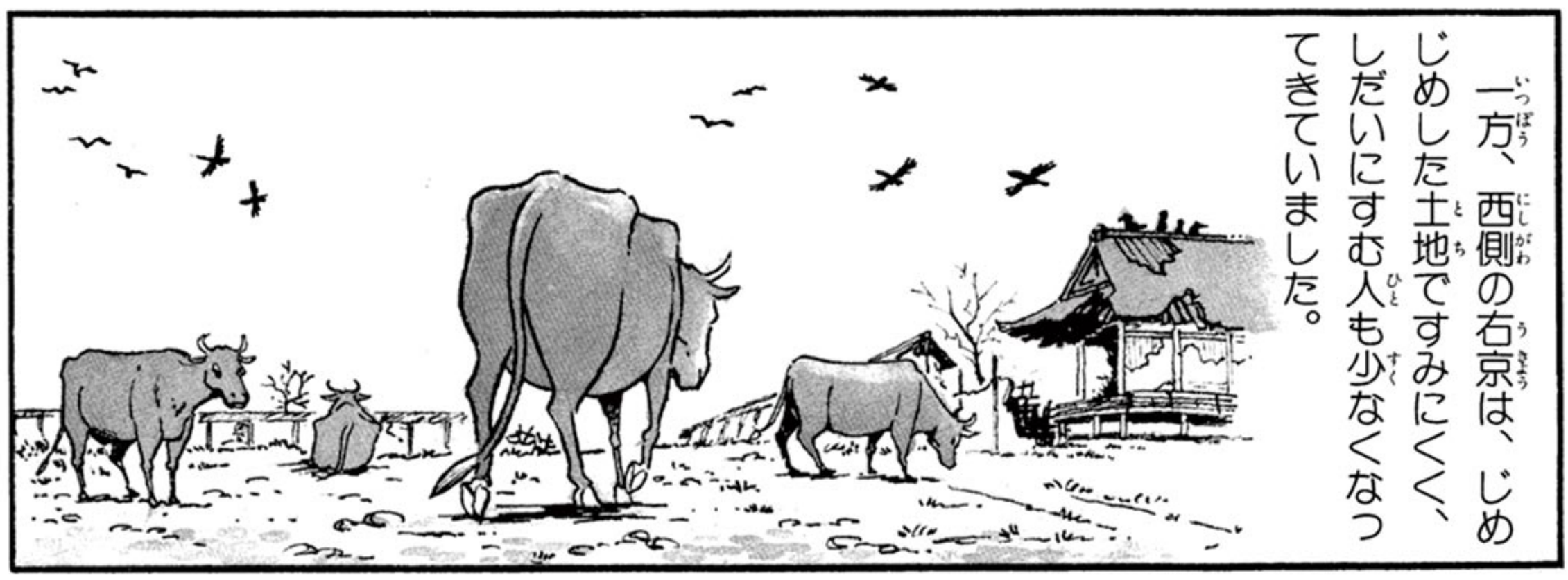
ついでに、お化しょうのこともお教えしましょうね。
顔にはまっ白なおしろいをぬります。自分のまゆ毛はぬいてしまい、まゆずみでまゆをかきます。おとなになると、歯を黒くそめて、口紅をぬります。
へえ〜〜
当時は、色が白く、ふっくらした顔に細い目、小さい鼻、小さい口が美人とされていたようです。
でも、何といってもたいせつなのはかみです。
かみの手入れには米のとぎじるなどをつかいました。
黒くて長いかみほど、美しいとされるのです。
わたくし、ちぢれっ毛だからしまつが悪いの。
かおりにも気をつかいます。この中で香をたき…、
着物をかぶせて、かおりをしみこませるのです。
すばらしいかおりね。
以上でございます。

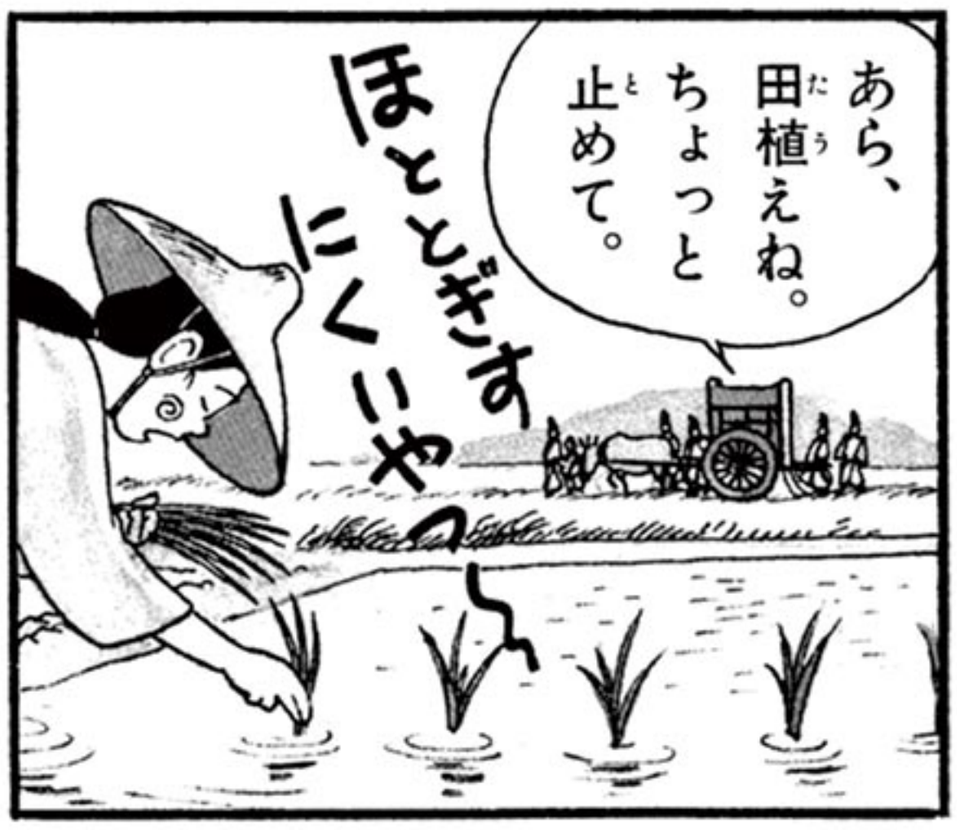


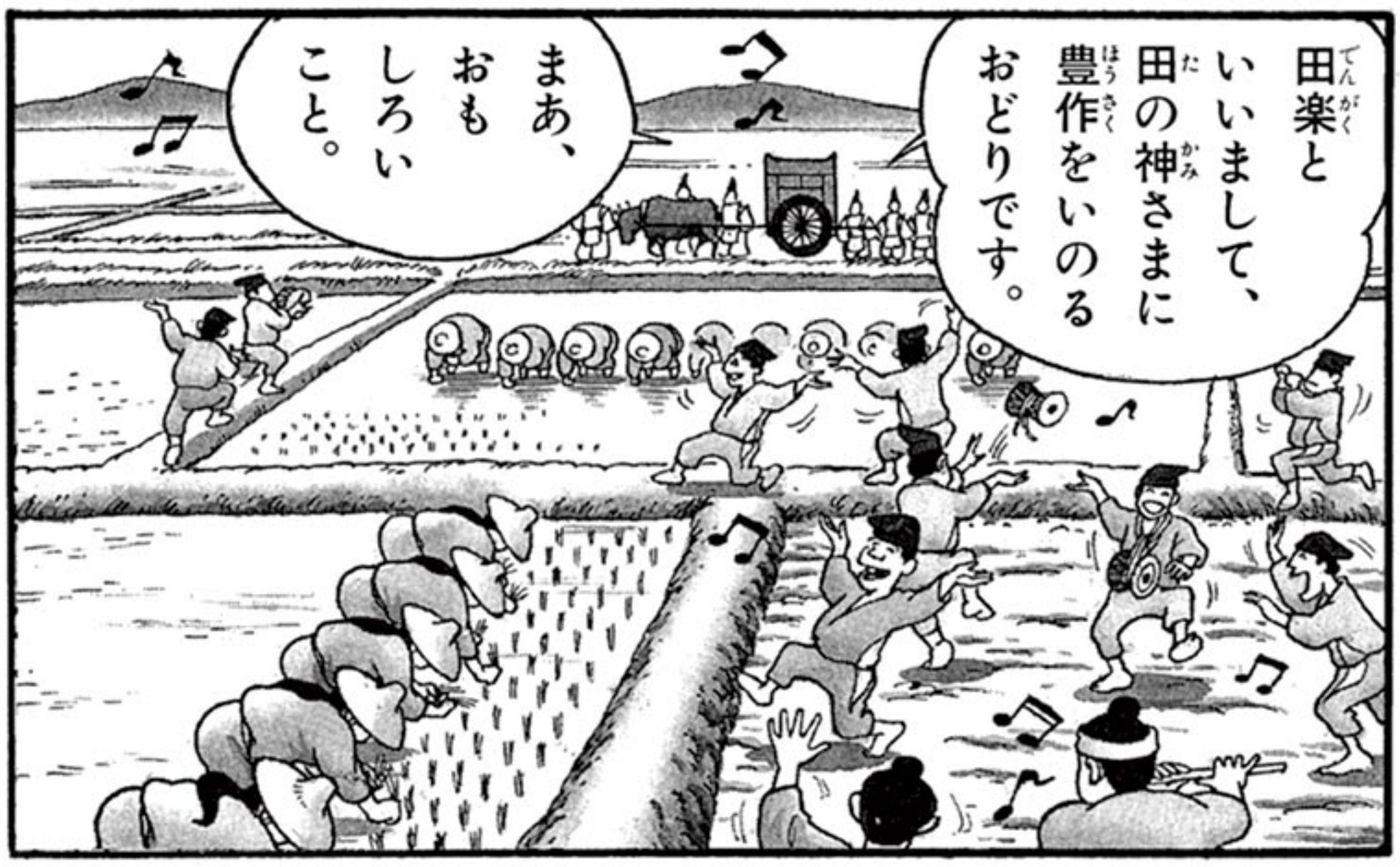
*石山寺…滋賀県大津市にある真言宗の寺。

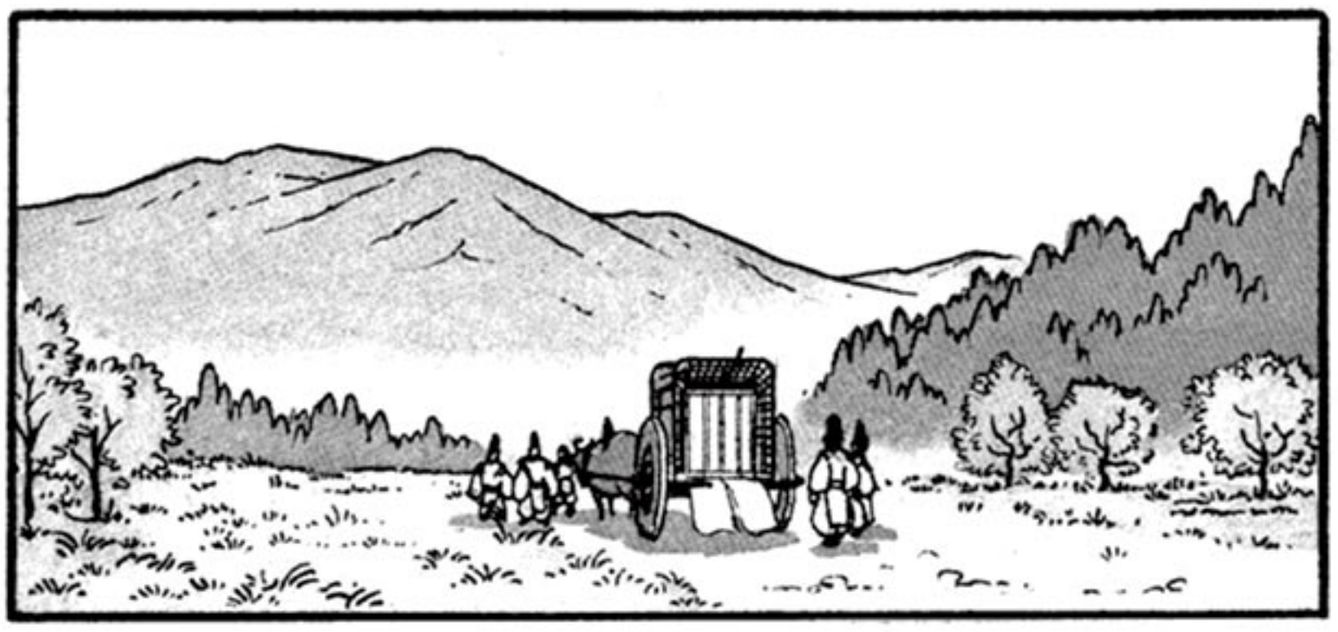


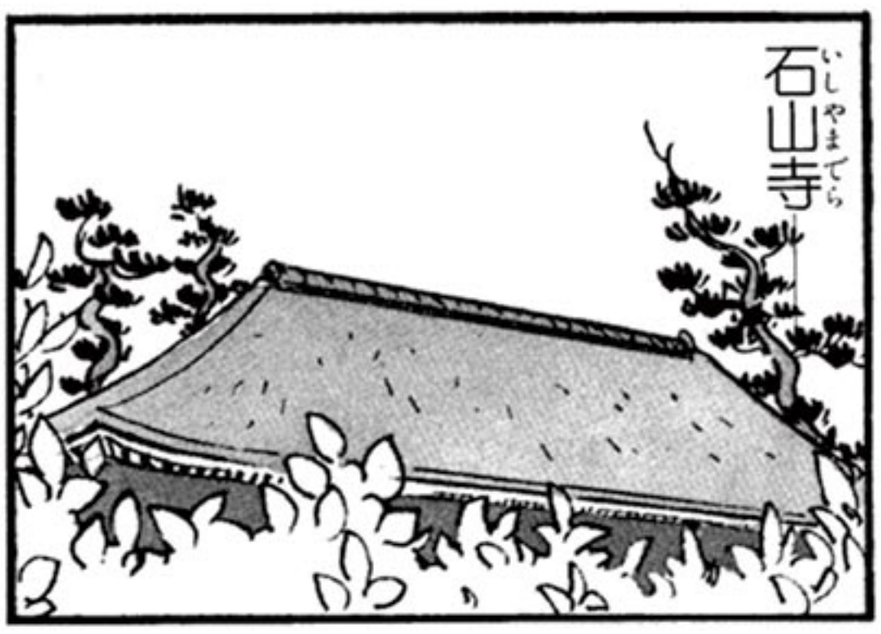












当時は、*末法の世がしんじられ、貴族たちは熱心に阿弥陀仏をおがみました。

また、寺や神社に参けいすることもさかんで、石山寺のほかに、*清水寺、*長谷寺、*熊野神社などが有名です。

*清水寺…京都府京都市

*長谷寺…奈良県桜井市

*熊野神社…和歌山県新宮市・東牟婁郡

*末法の世…第四章参照。

しばらく後——
あら、道長さま。
源氏物語は大好評ですよ。
おや、新しい物語ですかな？
いえ、これは、まとまったものではございません。
中宮彰子の女房がたは才女ぞろいで、わたしも心強いのう。
今度、みなさんおそろいで歌合を行いましょう。
まあ、楽しみですわ。
歌合は和歌の遊びです。あつまった歌人を二組に分け、じゅんに和歌をよんでは、どちらがすぐれているかをきそうもので、貴族の間でよく行われました。

十世紀の中期から十一世紀の中期にかけては藤原氏の摂関政治が全盛期だった時代です。

このころ、男性たちの権力をめぐる争いのなかで、多くの女性が宮中の女房として宮仕えをしました。

宮仕えの女性たちは、教養のある家庭でそだてられ、さらに、宮中でそれぞれの才能をみがきました。

そして、日本独特のかな文字をつかって、すぐれた女流文学を出現させました。

小学館 eBooks

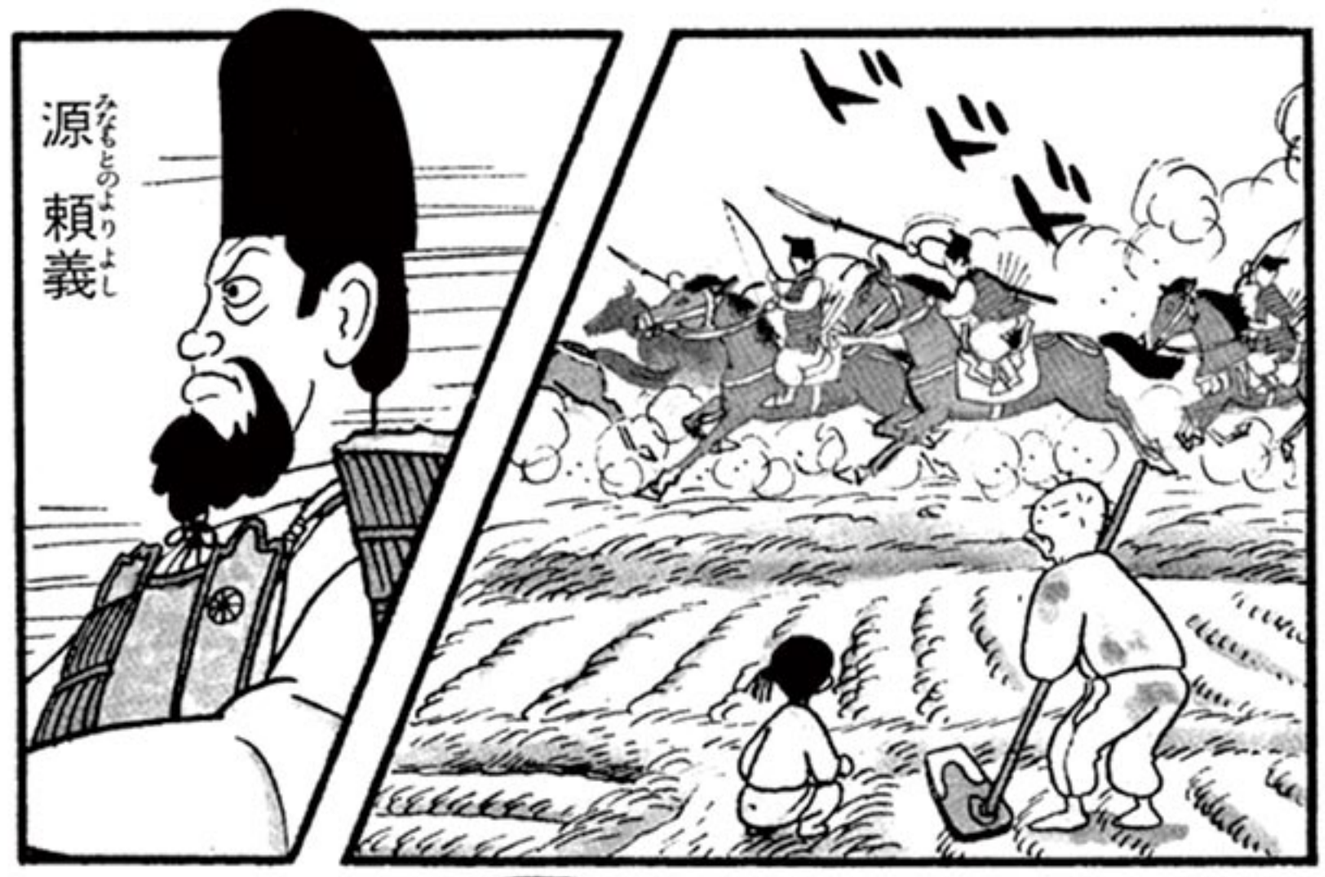
第四章

武士のおこりと院政

——平安時代後期——

一〇五一年、京の都――

ゴゴゴゴ



＊陸奥…青森県・岩手県

政治は
みだれ、
争いがつづき、
天災がたえぬ
世になるの
じゃ…。

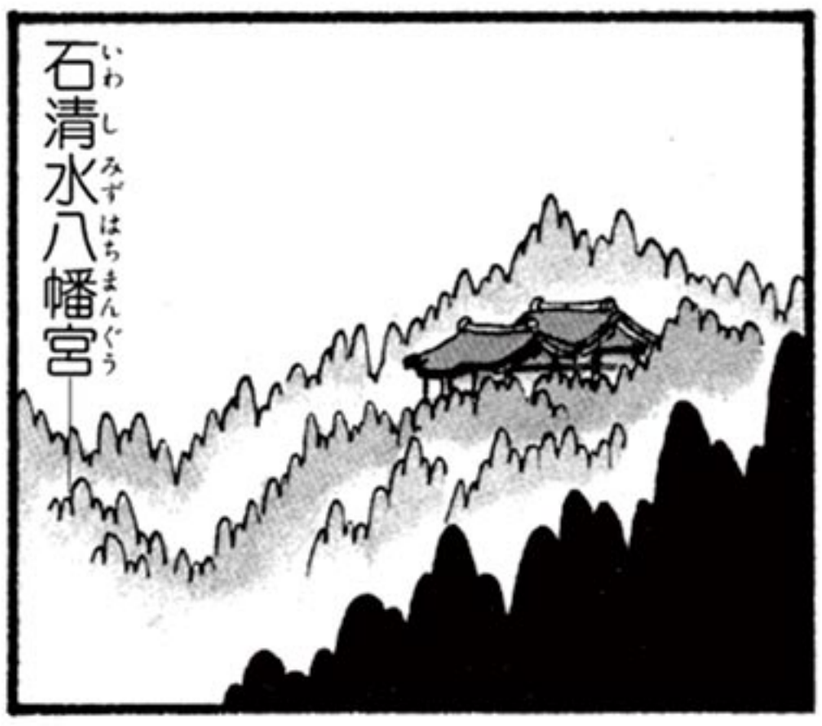
おそろしい。
ああ…。

お坊さま、
どうすれば
よいのです。

阿弥陀如来に
すがるのじゃ……。
さすれば極楽浄土に
行けようぞ。

なむ
あみ
だぶつ

なむ
あみ…!



東国の乱を
しずめるため、
このたび
陸奥守に
任命され
ました。

われらに、
勝利を
たまわらん
ことを…。

八幡さまは、
わが源氏の
氏神だ。

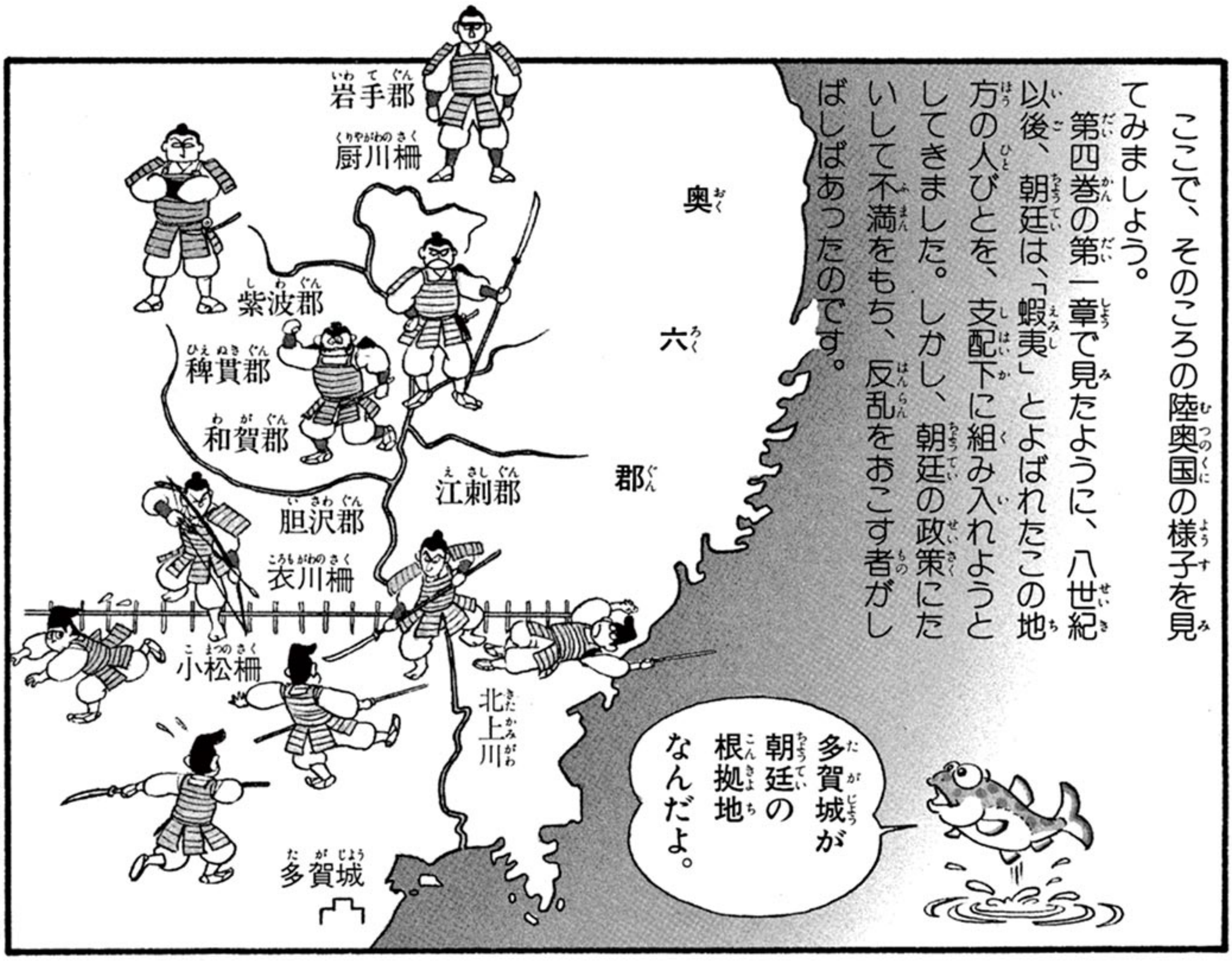
はい、
父上!

源義家

……。
ずいぶん兵が少ないな。
ははは
東国に行けば、源氏の息のかかった武者が、たくさんまっております。
〔源氏の系図〕
源経基
満仲
頼光
頼信
頼義
義家
おじいさまの源頼信さまは…、
坂東でおこった乱を、たたかわずしてしずめられたのですぞ。
その話は、わしがしてやろう。
はい。
藤原道長さまがなくなられた翌年のこと…。
平忠常が、東国で乱をおこした…。
朝廷の軍は苦戦し…、戦いは三年以上もつづいたが…。
父頼信の出陣がきまるや、さすがの忠常も……、
名だたる武者のあなたさまに手むかうなど、とてもできませぬ。
……、こうして源氏の一族は、力をのばすことができたのじゃ。

ここで、そのころの陸奥国の様子を見てみましょう。

第四巻の第一章で見たように、八世紀以後、朝廷は、「蝦夷」とよばれたこの地方の人びとを、支配下に組み入れようとしてきました。しかし、朝廷の政策にたいして不満をもち、反乱をおこす者がしばしばあったのです。



＊奥六郡…胆沢、江刺、和賀、稗貫、紫波、岩手の六つの郡。

十一世紀中ごろ、陸奥国の豪族で蝦夷の長だった安倍頼良（後の頼時）は＊奥六郡の郡司として勢力を広げていきました。

＊衣川柵…岩手県西磐井郡平泉町

＊鎮守府…蝦夷をおさえるために陸奥国におかれた役所。

そして、国府や＊鎮守府の命令にしたがわず、税もおさめようとせず、かえって奥六郡の南に進出しようとしました。

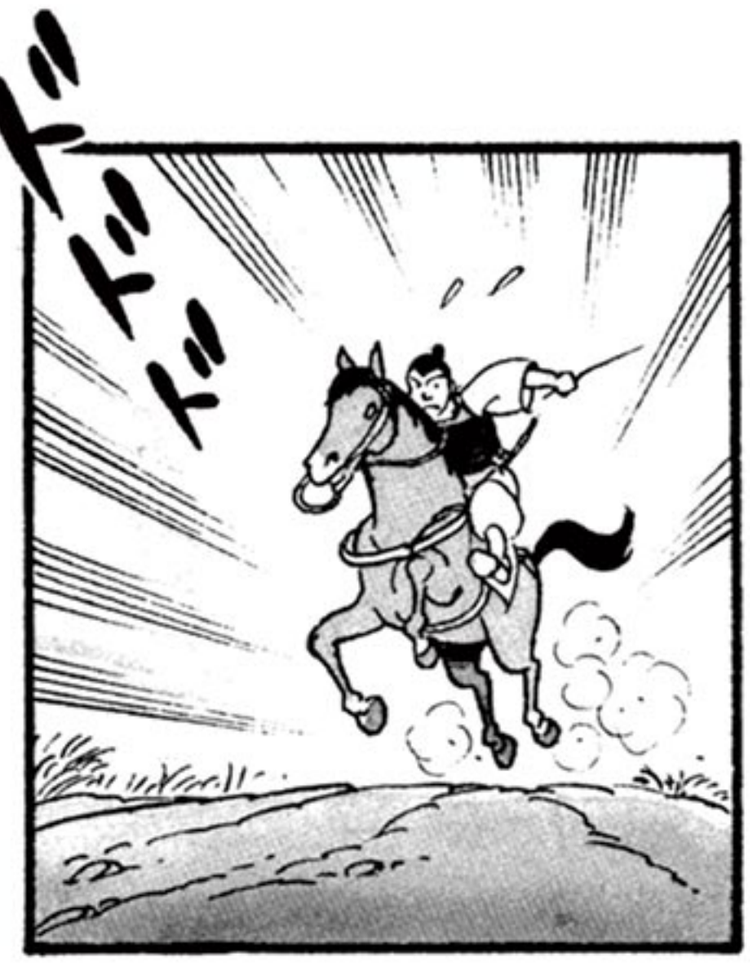
そこで、源頼義がそれをしずめるために陸奥へおもむいたのです。

おい、あれは都の軍隊じゃないか？

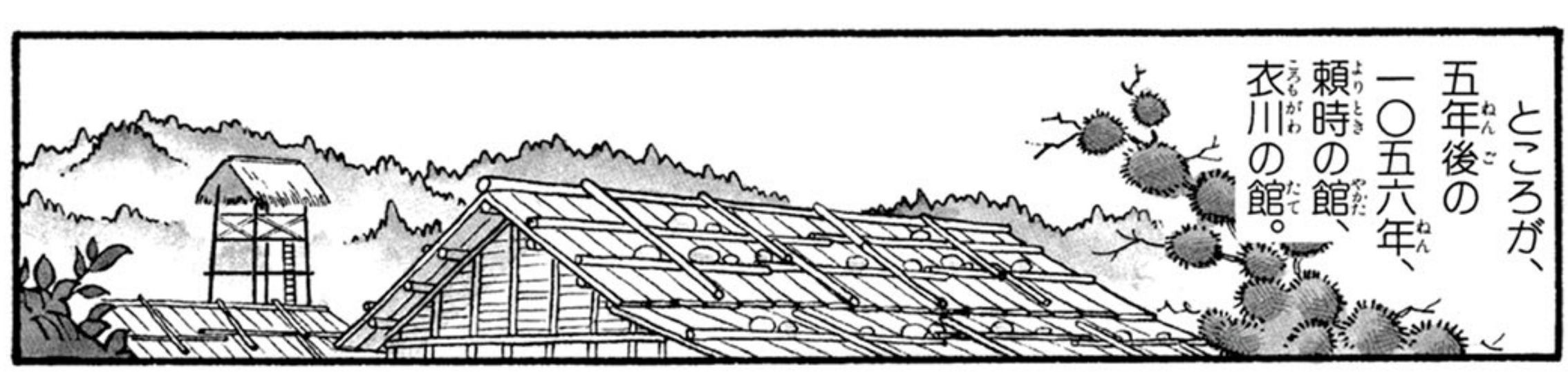
そうだ、兵がずいぶんいるなあ。

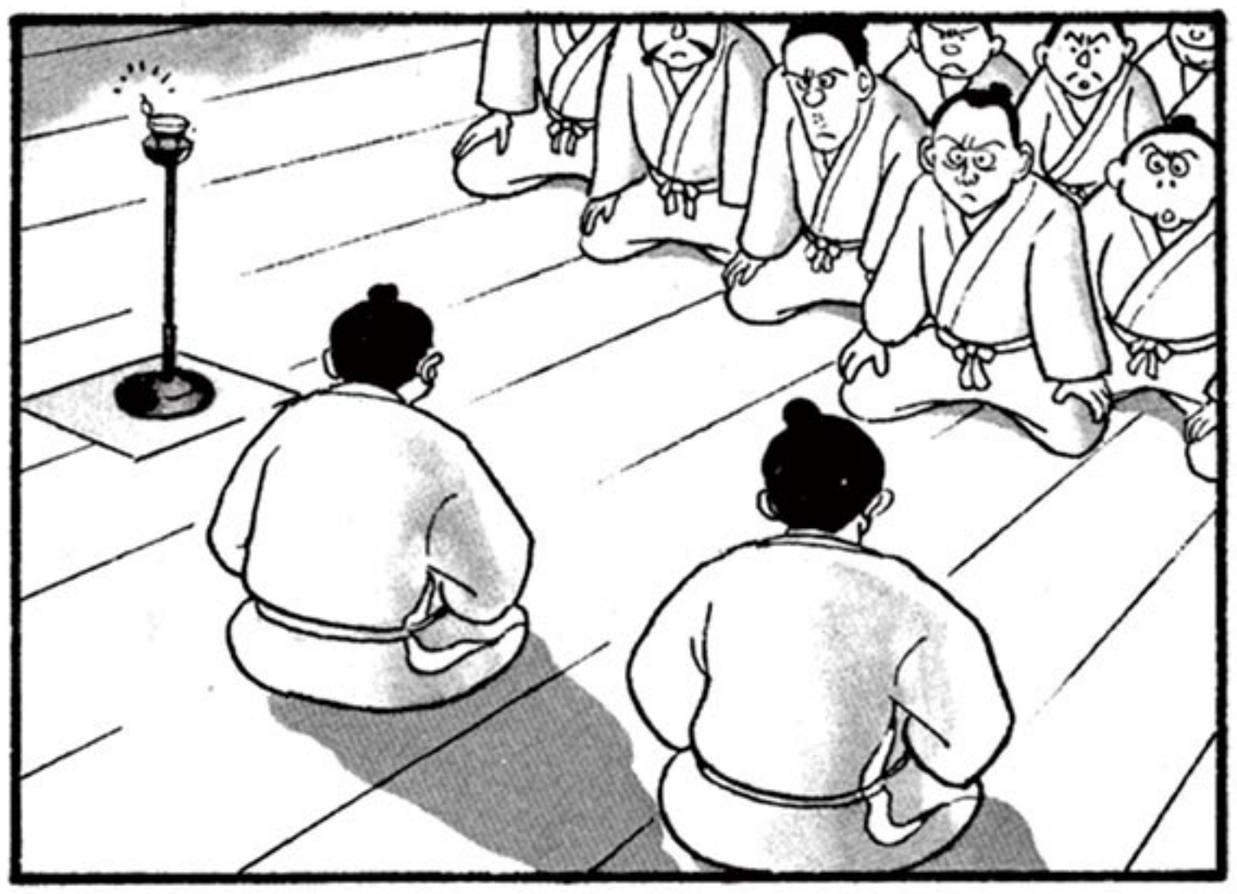
うわさでは、北の方の安倍氏が、国府の軍をやぶったということだから…。

国府の応援に行くのか。



*棟梁…武士団を統率する人。





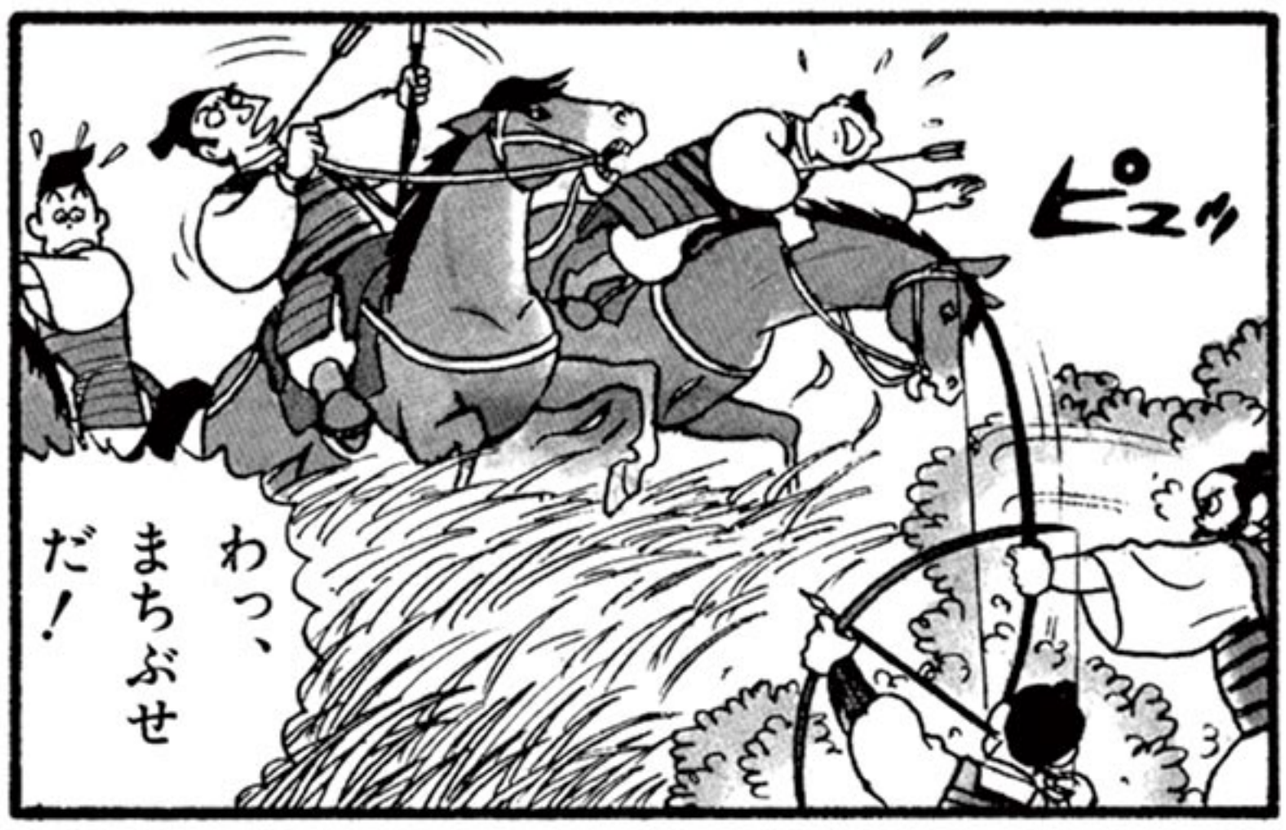
先日、源頼義どのの陣の兵馬が、何者かにあらされたという…。

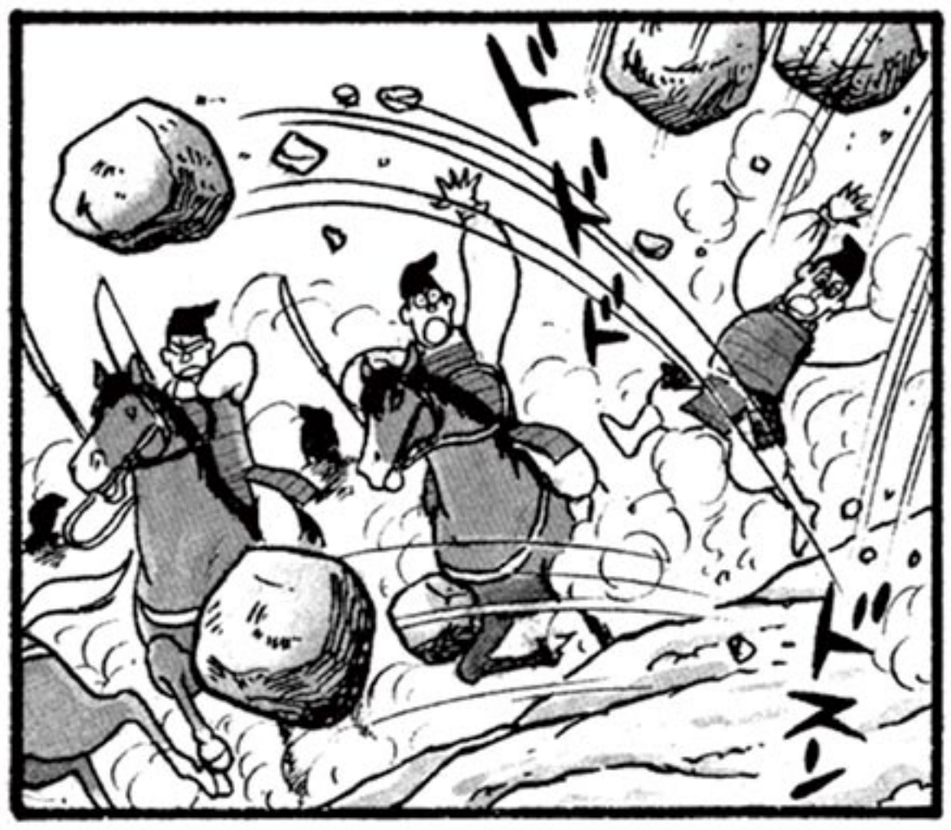
やったのは、せがれの貞任だというのだ。
安倍貞任
おれは、何もしらん。頼義は、奥六郡をほしくて、いいがかりをつけてきたのだ。

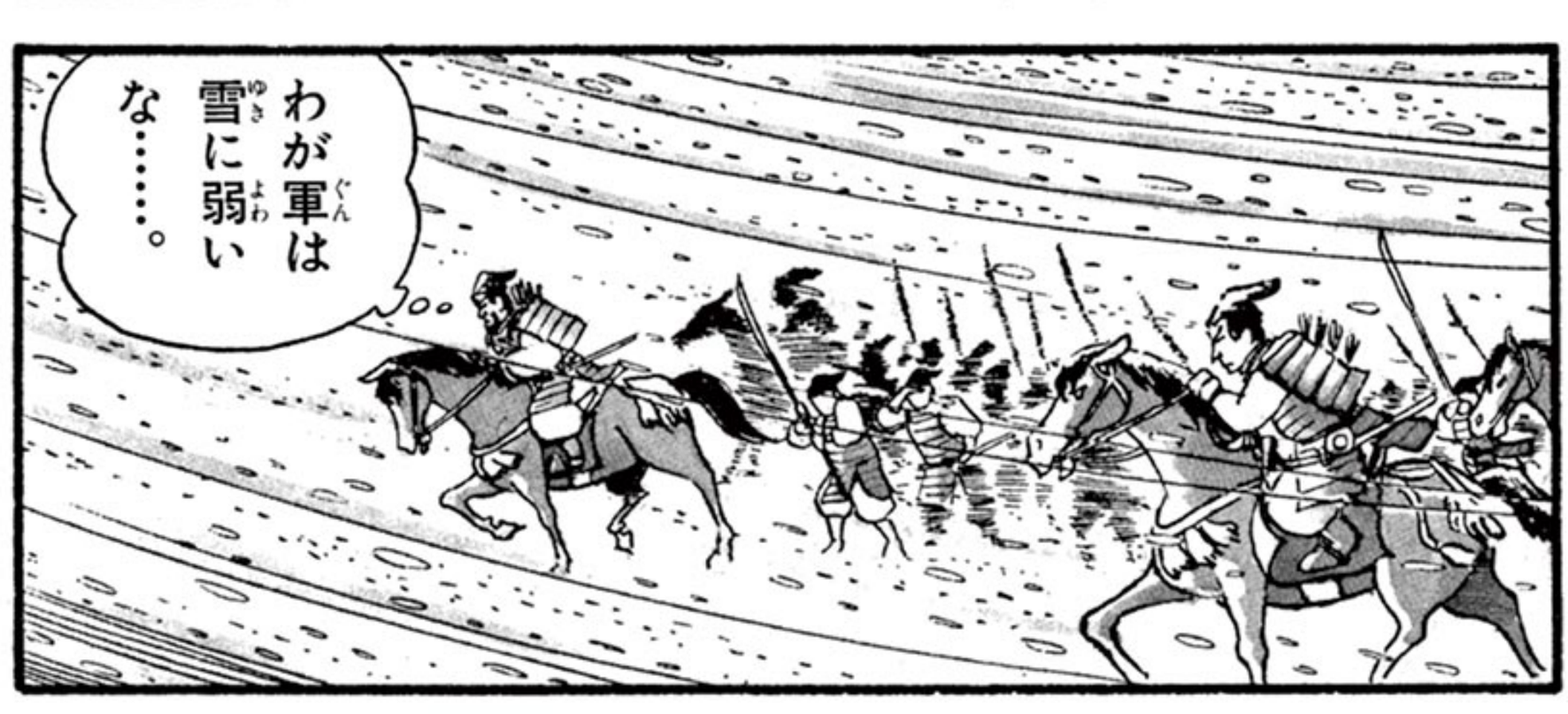
うむ……。

このうえは、もはやかれらの支配に、あまんじることはない。
オー
命をかけて、たたかおう!!
ウオッ!
オーオーッ!!

衣川の柵をとざすのだ!!







このときの傷がもとで、安倍頼時はなくなりました。けれども、その子貞任と安倍氏一族のはげしい反こうがつづきます。

今日こそ、父頼時のかたきをうつのだっ！

地形や気候になれないこともあり、頼義、義家の軍は、貞任の軍にやぶれることがしばしばでした。

大敗だ、早くにげのびよう。

こうして、国府の軍と安倍貞任一族の戦いは、数年間にわたってつづけられました。

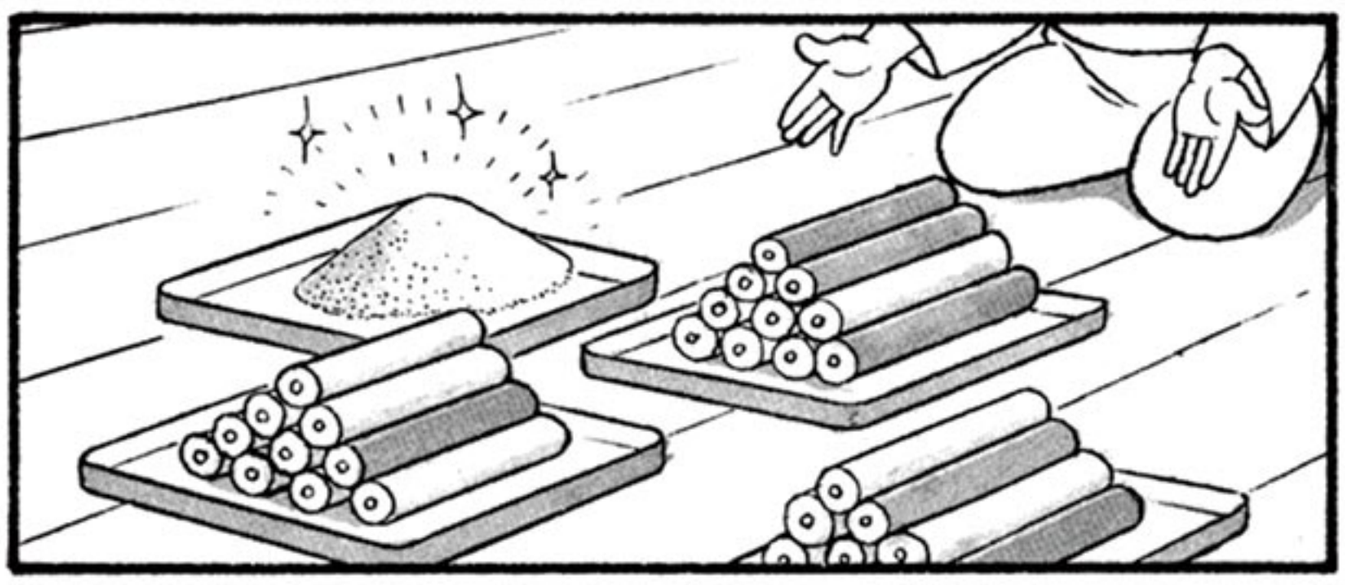
*出羽…山形県・秋田県

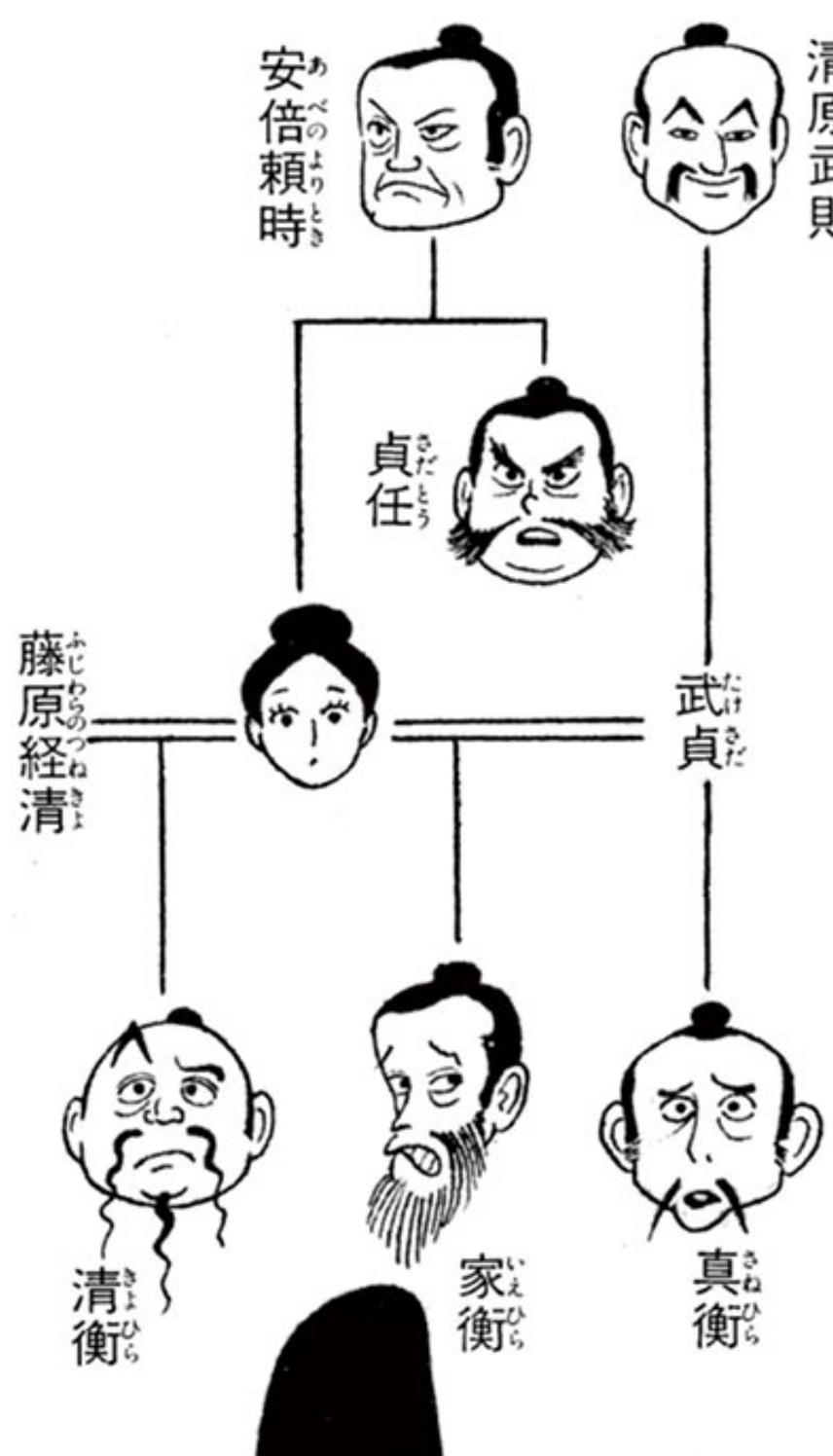
*厨川柵…岩手県盛岡市

ウオ
ううっ。
ドス
ドサ
こうして陸奥の豪族安倍氏はほろびました。この戦いを「前九年の役」といいます。
その後、陸奥で力をのばしたのは、この戦いで活やくした清原武則の一族でした。
一方、源氏の武名は都においてあがりました。
頼義の死後は、義家が源氏の棟梁となり、反乱者のとりしまりなどに活やくしました。
一〇八三年
なつかしい…、二十年ぶりの多賀城だ…。

源義家は、陸奥守として、ふたたびこの地にやってきました。

安倍氏・清原氏・藤原氏の関係図





*八幡太郎…源義家のおとなになったときの元服名。

このとき、出陣していた真衡は、戦場で病死してしまいました。

家衡め、なかなか手ごわいです。

ううむ、この雪では動きがとれぬ…。

寒さとうえで死ぬ者も出はじめた……。

いったん引きかえすか。

翌一〇八七年九月、義家は、ふたたび家衡の館*金沢柵をせめに出かけます。

おや？

*金沢柵…秋田県横手市

ガンの列がみだれた……。

そうか！あの草むらがあやしい、しらべよ！

おっ！いたぞ

敵のまちぶせだっ！

しまった、見つかったか！

うわっ！

やられた！

兵法の書に「兵が野にふしているとき、空をとぶガンは列をみだす。」という教えがあります。義家はそのことを知っていたので、危険をのがれることができたといわれています。

このころ、義家の弟の新羅三郎義光が、兄の苦戦を知って都からかけつけました。

これからの戦いには、毎日「剛臆の座」をもうけることにする。

その日の戦いで、勇かんだった者は、「剛の座」にすわらせ、臆病だった者は、「臆の座」にすわらせる。

剛の座

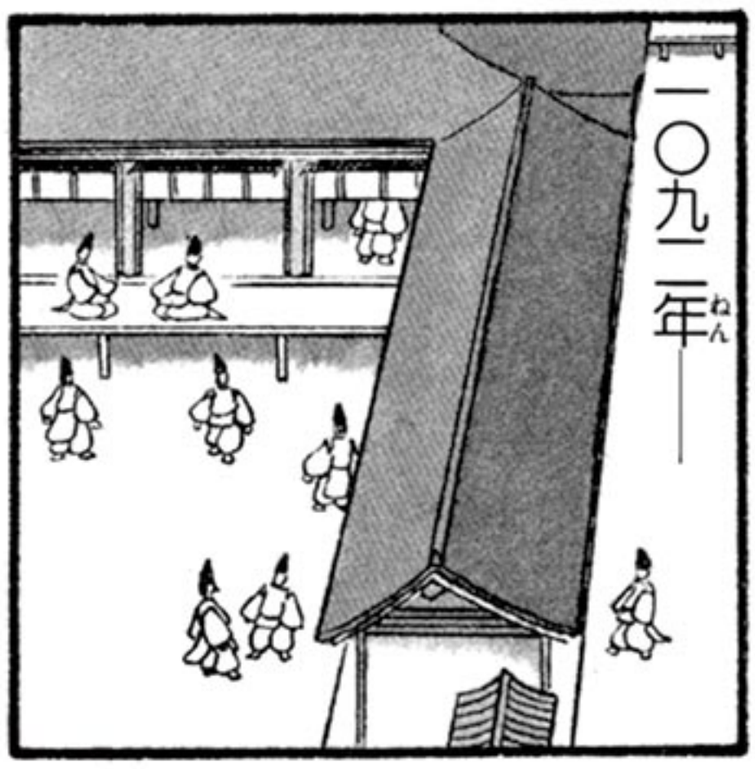
臆の座

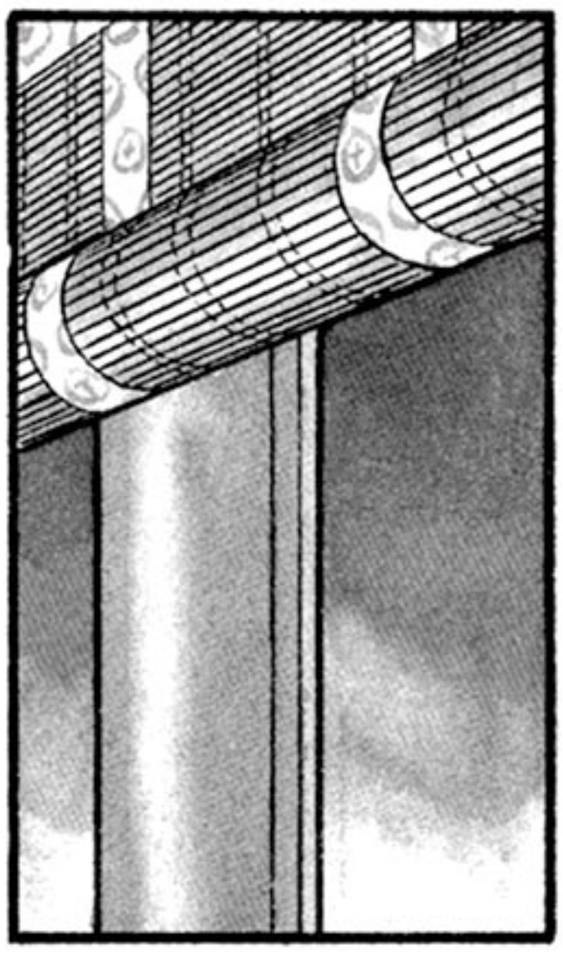
臆の座で、はじをかきたくなかったら……、

……命がけでたたかえ！
おう!!
オーオーオー
よしっ、これで士気がわくぞ。
ゴゴゴゴ
金沢柵
ウワー
ズザザ
こうして、金沢柵はせめおとされ、家衡はうたれました。
この戦いを「後三年の役」といいます。清原清衡はもとの藤原に姓をもどし、陸奥に勢力を広げ、後の奥州藤原氏の基盤をきずきました。

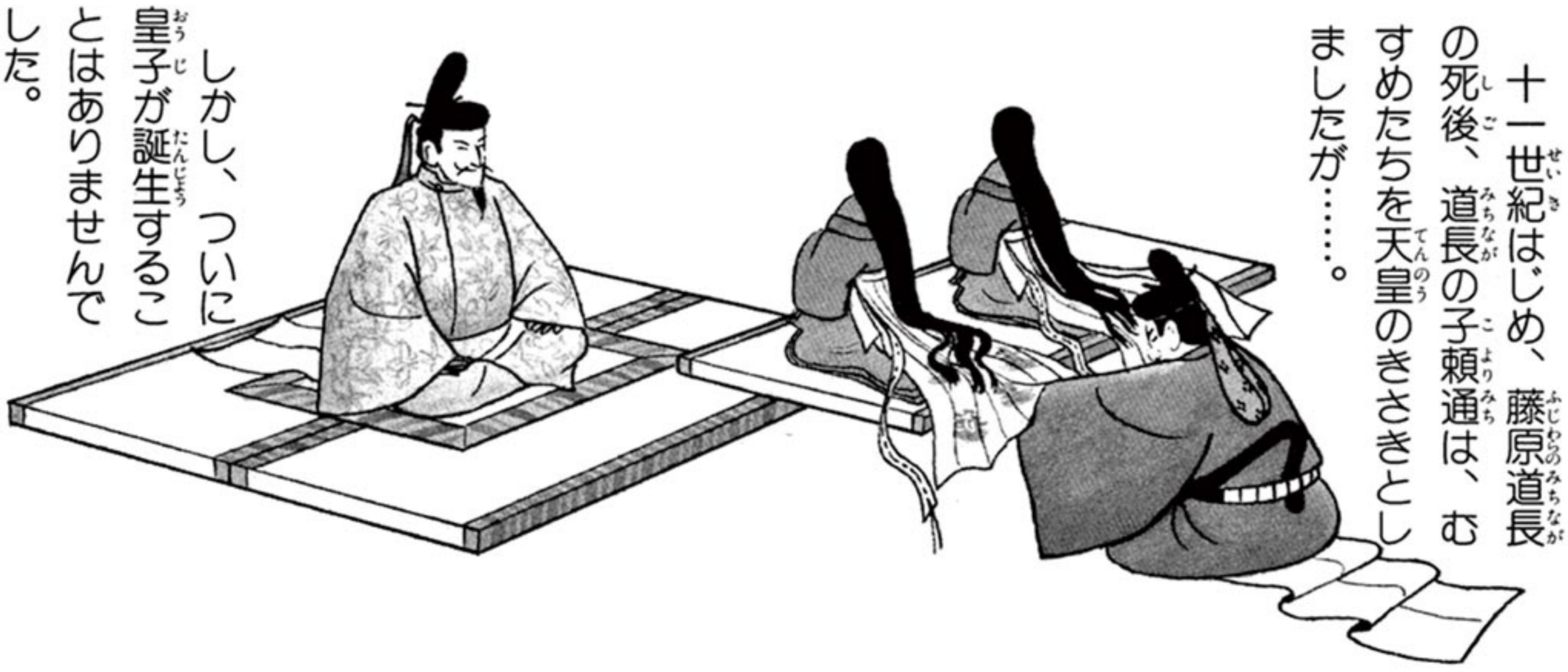
＊官符…朝廷の命令書。義家は清原家衡たちをうてという正式な官符をもとめた。

こうして、義家は東国の武士たちの信らいをえていきました。





さて、この白河上皇は、いったいどのような人だったのでしょうか。少し時間をさかのぼってみましょう。

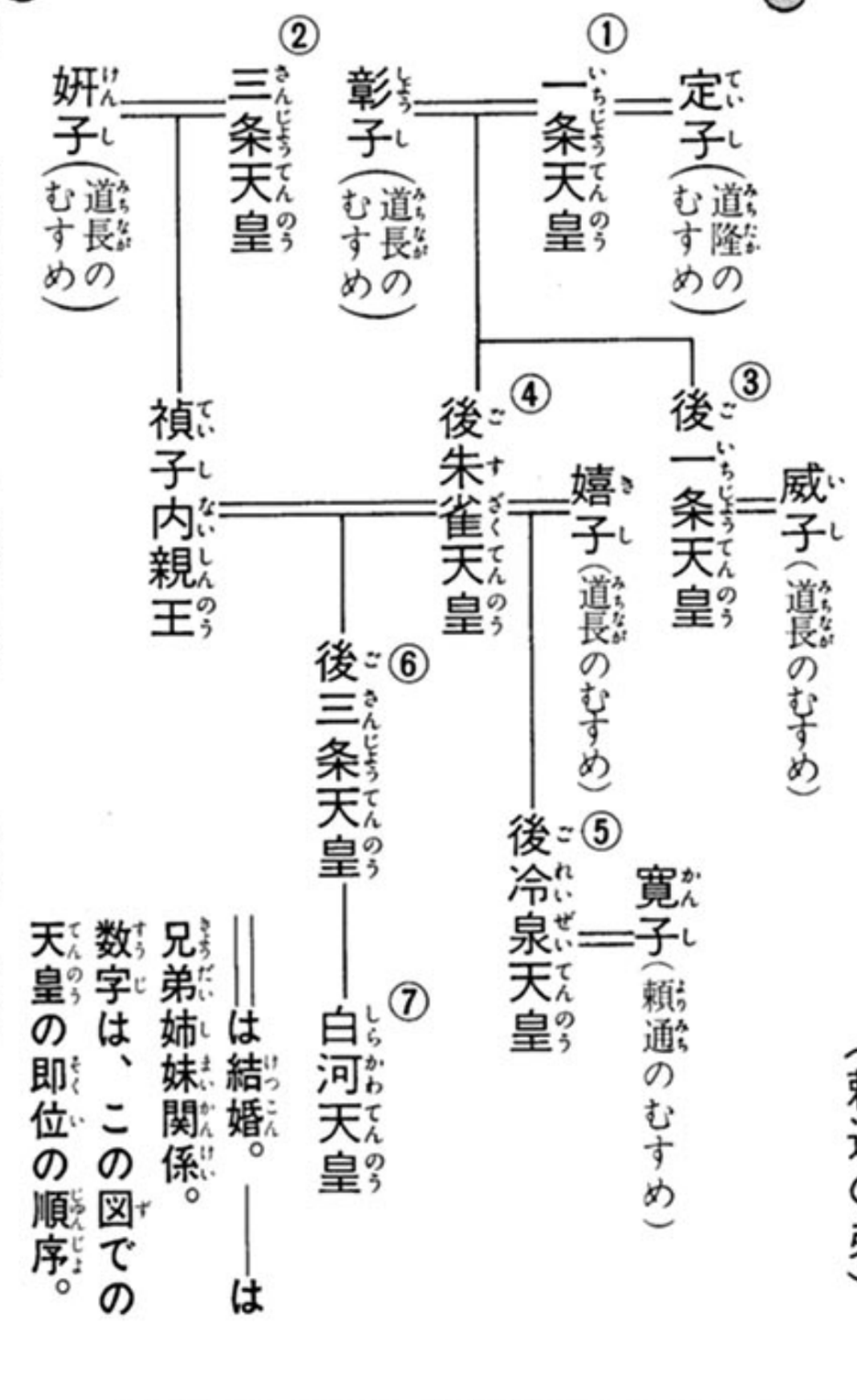


十一世紀はじめ、藤原道長の死後、道長の子頼通は、むすめたちを天皇のきさきとしましたが……。

しかし、ついに皇子が誕生することはありませんでした。

こうして、天皇との血のつながりがうすくなった藤原氏の摂関政治は、十一世紀の中ごろからおとろえていきます。

天皇家と摂関家の関係



※藤原頼通は、後一条天皇から後冷泉天皇まで、摂政・関白となった。

この荘園整理令（一〇六九年）で知られる後三条天皇のあと、皇子の白河天皇が即位しました。

*公田…国が管理し、人びとにかしあたえる田。

*受領…地方の国守。

一〇八六年、白河天皇はわが子に位をゆずり、上皇となりました。

白河上皇

堀河天皇

政治は、わたしがみることにしよう。

上皇の住まいを「院」といいます。院の仕事を行う役所を「院庁」といいます。上皇が、天皇にかわって院庁で政治をみることを「院政」といいます。

あの行列はなあに？

白河上皇さまが、*鳥羽の離宮へお出かけになられるのですって。

おともをしている兵たちが、北面の武士だ。

ワイワイ

ガヤガヤ

北面の武士は、上皇さまの御所をまもるためにあつめられたそうだ。

おともの中に、公卿が見あたらないが…。

上皇さまは、四、五位の中、下級貴族を近臣にしているんじゃ。

荘園を広げた藤原摂関家に反感をもつ受領たちが、上皇さまを支持しておるのじゃよ…。

*鳥羽の離宮…京都の南、鳥羽の地につくった宮殿。鳥羽殿ともいう。

上皇さまは、信心深いが、はでごのみじゃよ。

それに、ずいぶんわがままな政治をなさるということだ。

お気に入りは、どんどん出世させるそうじゃ。

上皇さまの出す命令書の「院宣」や「院庁下文」は、内裏での決定より力が強いそうじゃ。

こうして、白河上皇によってはじめられた院政は、天皇や摂関家をおさえ、以後約百年あまりの間つづけられます。

一〇九六年、白河上皇は、むすめの死をかなしんで出家し、法皇となりました。

父ぎみにならって、わたしもっと荘園整理をすすめよう。

もうしあげます…。

なに、また悪僧が内裏におしかけてくるとな。

このたびは、*延暦寺です。

ふうむ、北面の武士はたよりにならないなあ……。

*延暦寺…比叡山（滋賀県大津市）にある天台宗の寺。

*治天の君…国をおさめる君主。

*昇殿…内裏の清涼殿の殿上の間に上がるのを（この場合は院に上がること）ゆるされること。

天下第一の武勇といわれる義家さまじゃ。
ガヤ ガヤ ワイワイ
どこへ行かれるのじゃ？
また、僧兵をけちらすのじゃろう。
棟梁が昇殿をゆるされて、われわれも鼻が高い。
源氏にとって、まことに光栄なこと！
おぬしら、はやく寺へ帰れ！
うるさいぞ、侍どもめ！

武装した僧を「僧兵」とか「悪僧」といいます。僧兵は、寺院どうしの争いや、荘園をめぐる争いのときなどに、その解決をもとめ、このような暴力にうったえる行動をしばしばおこしました。これを「強訴」といいます。

*さぶらう…目上の人につかえること。

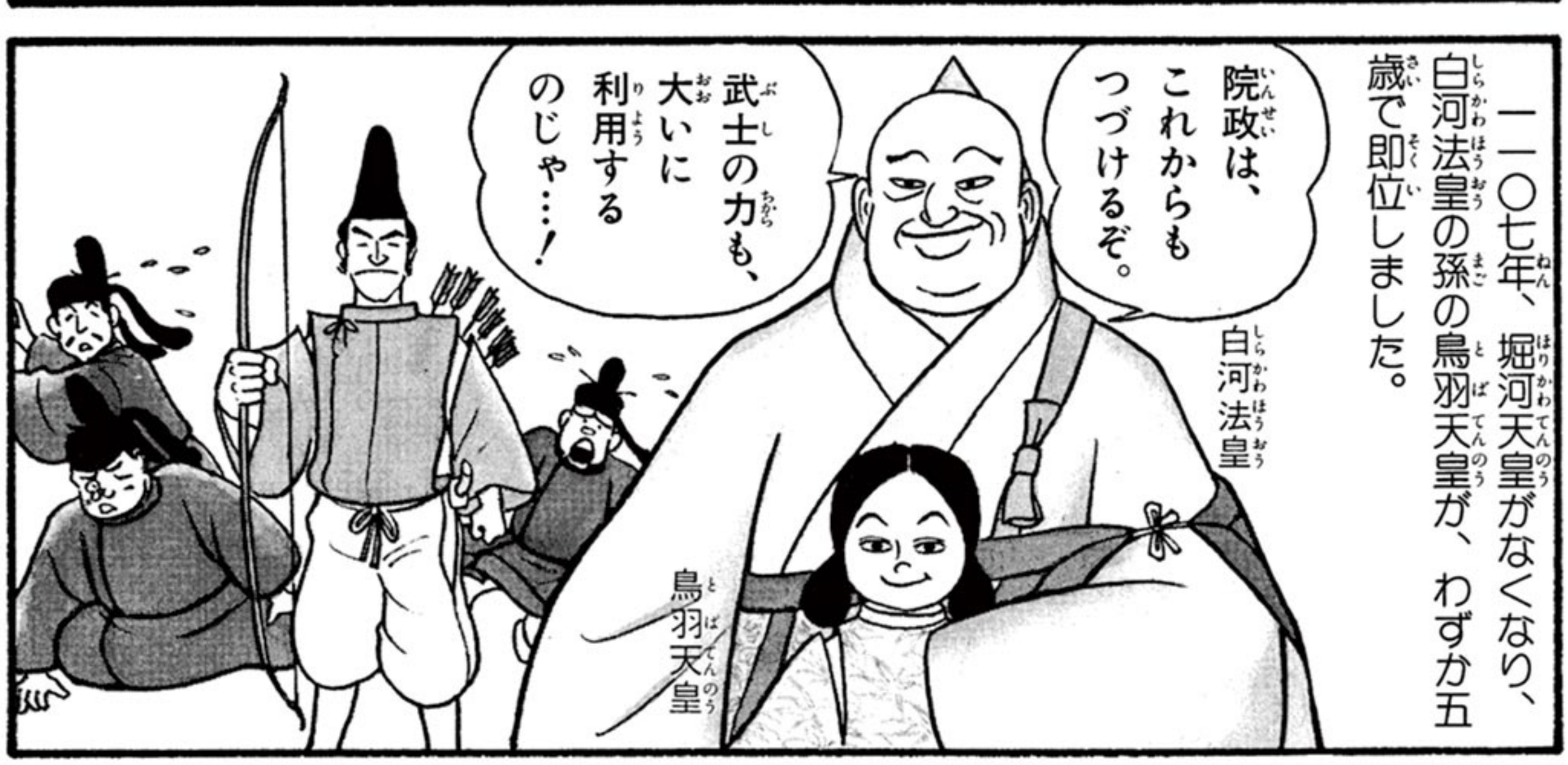
僧兵の強訴は、十世紀ごろにはじまり、十一世紀の後半、院政の時代にはげしくなりました。

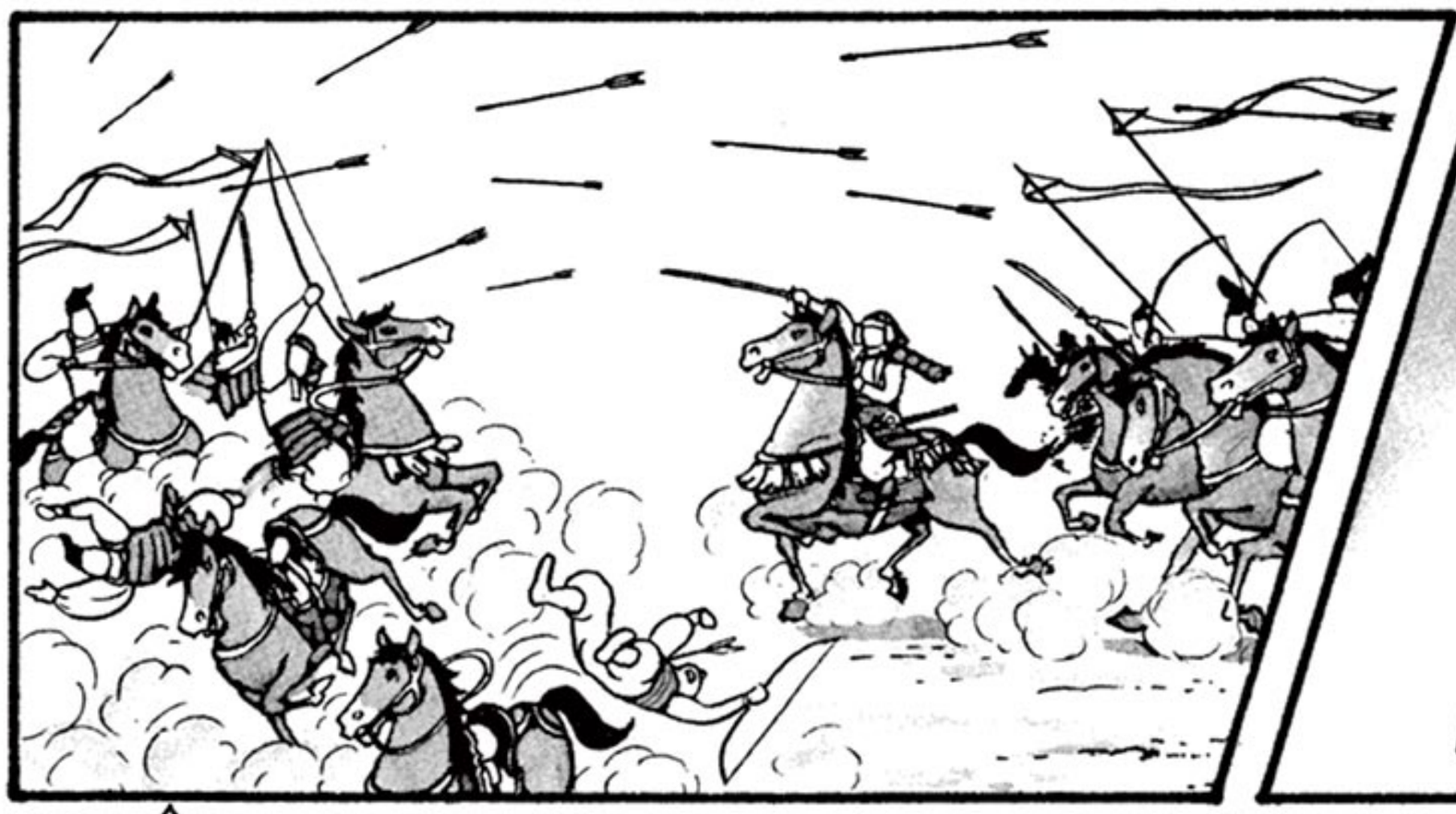
とくに、延暦寺や奈良の興福寺が有名でした。

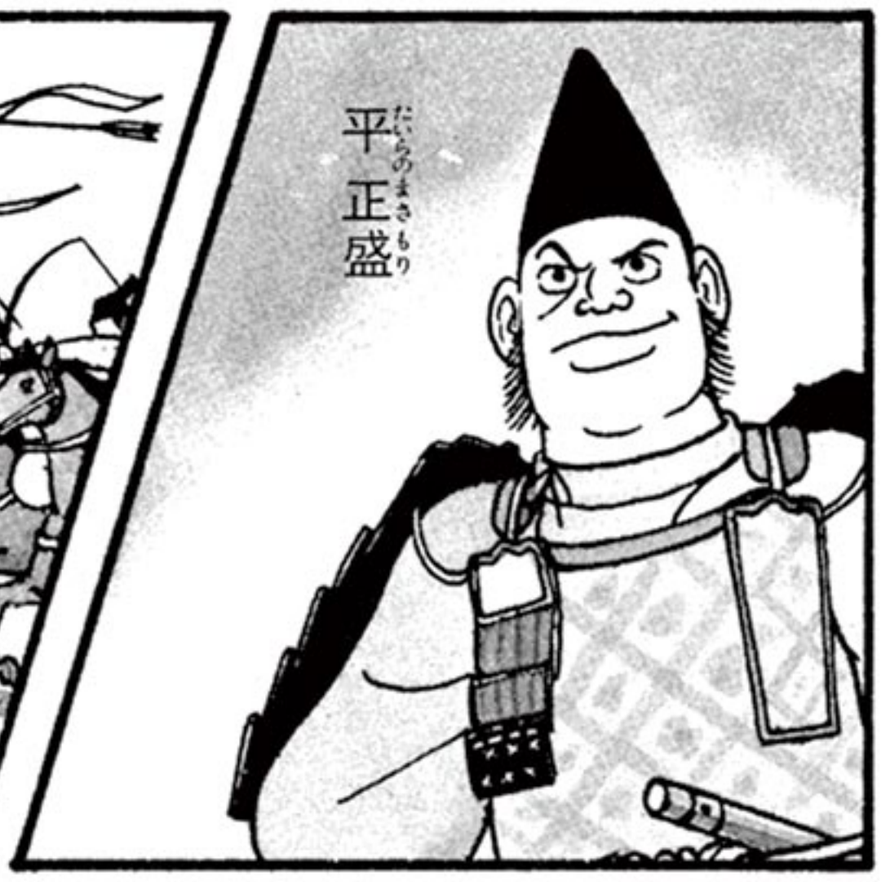
強訴をおさえるためには武士の力が必要で、武士の地位も少しずつ高まっていきました。

源義家は一一〇六年になくなりました。

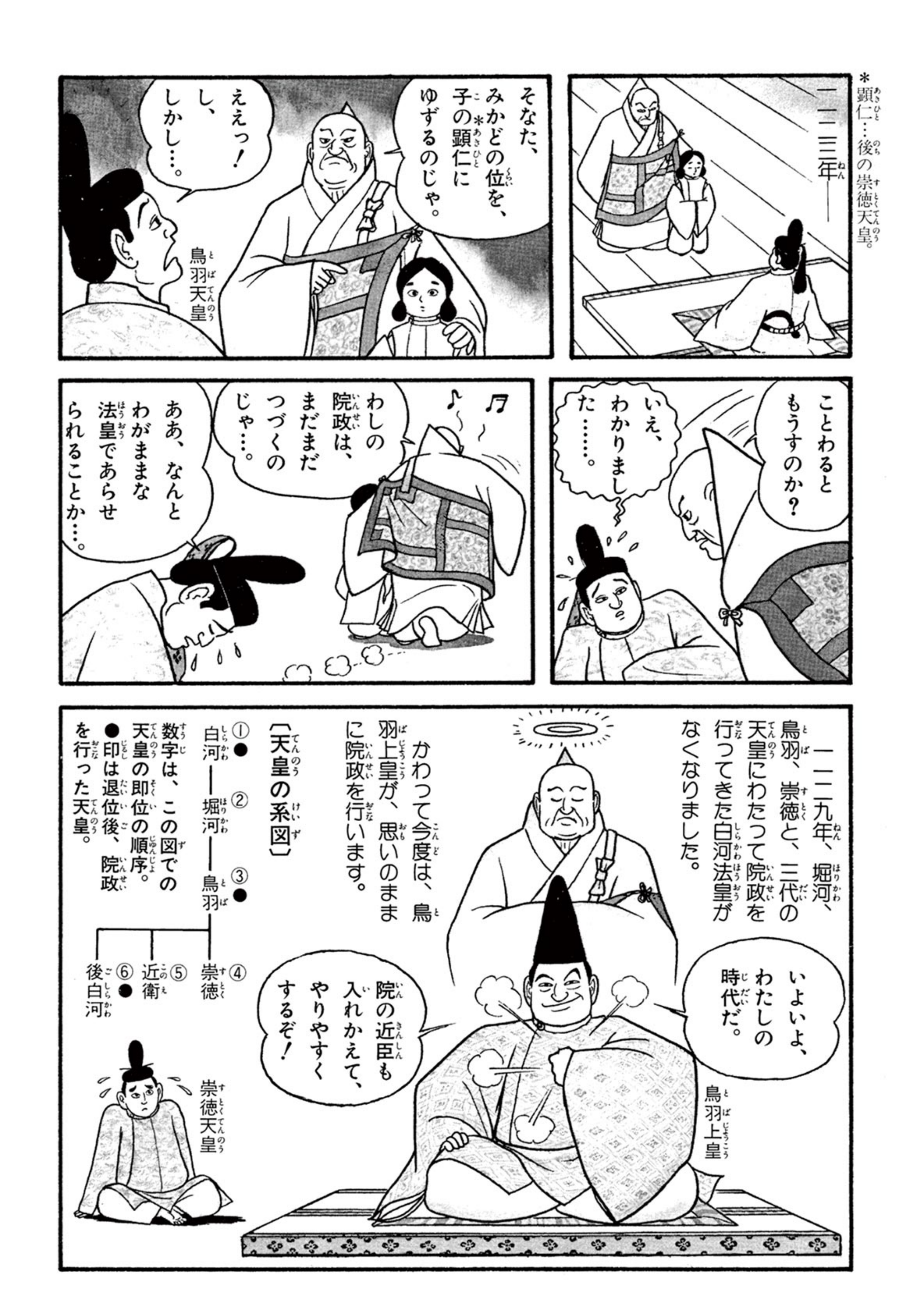
その後、一族内部の争いもあり、源氏の勢力は一時的に弱くなります。







その後、かれらの活やくによって、平氏の地位は高まり、やがて一一三一年には、忠盛が内裏の昇殿をゆるされることになり、源氏の地位をもしのぐほどになったのです。


一二二三年――
＊顕仁…後の崇徳天皇。
そなた、みかどの位を、子の＊顕仁にゆずるのじゃ。
ええっ！し、しかし…。
鳥羽天皇
ことわるともうすのか？
いえ、わかりました……。
♪～♪～
わしの院政は、まだまだつづくのじゃ…。
ああ、なんとわがままな法皇であらせられることか…。
一二二九年、堀河、鳥羽、崇徳と、三代の天皇にわたって院政を行ってきた白河法皇がなくなりました。
かわって今度は、鳥羽上皇が、思いのまま院政を行います。
〔天皇の系図〕
①● 白河
②● 堀河
③● 鳥羽
④ 崇徳
⑤ 近衛
⑥● 後白河
数字は、この図での天皇の即位の順序。
●印は退位後、院政を行った天皇。
いよいよ、わたしの時代だ。
院の近臣も入れかえて、やりやすくするぞ！
崇徳天皇
鳥羽上皇

一二四一年——

鳥羽法皇

そなた、弟に位をゆずったらどうかな？

崇徳天皇

は、はい。

わたしも院政を…、

近衛天皇

ずっとつづけるのだ。

崇徳上皇

ううう…、かってな父ぎみ。しかし…、次のみかどはわたしの子にちがいない…。

それまでのしんぼうだ。

鳥羽法皇は、崇徳上皇をきらっていました。一一五五年、近衛天皇がなくなると——

新しいみかどは、そなたのもう一人の弟にきめたぞ。

ええっ！わたしの子ではないのか……。

次のみかどは、わたしの皇子ですね。

後白河天皇

うむ、そのようにきめた。

こ、こんなことが、あってよいのか!!

ドドド

小学館 eBooks

おうちの方へ

貴族のさかえ

京都教育大学名誉教授　高山博之

平安時代というと、優雅な貴族の生活、十二単の女性などを思い浮かべると思いますが、この巻は平安中期・後期（西暦九三〇年ころから一一五〇年ころまで）の約200年間にわたる、華やかな王朝時代の様子を描いています。

この時期は、藤原氏を中心とする貴族が荘園を経済の基盤として宮廷生活をくりひろげ、優美な日本風の文化（国風文化）が生まれました。

しかし、社会の矛盾も大きく、地方では武士団が現われ、やがて実力を貯え、中央に進出します。この貴族中心の社会のありさまや武士の出現による時代の変化をとらえさせましょう。

●第1章「平将門の乱」

都で貴族が華やかに宮廷生活を送っていた10世紀初め、地方では大きな変化が起こりつつありました。私有地を広げた豪族や名主が一族や従者を武装させ、実力を貯えてきたのです。

国司などの役人として地方に赴任し、そのまま土着して豪族化する中小貴族も多く、原野の多い関東ではたくさんの武士団が現われました。

平将門の乱、藤原純友の乱は、地方の状況を無視した貴族政治への反抗でもあり、武士の乱としては初めての大規模なもので、中央の貴族に大きな衝撃を与えました。民衆の人気を物語る将門伝説なども調べ、初期の武士の様子や彼らの願いなどをつかまかせてください。

●第2章「藤原氏の摂関政治」

藤原氏は、娘を天皇の中宮や女御として宮中に入れ、生まれた子を天皇の位につけて、外祖父（母方の祖父）の立場から摂政・関白の地位を得、政治の実権をにぎりました。

これが摂関政治で、11世紀中頃の藤原道長・

頼通のころ全盛期となり、国風の貴族文化も絶頂期をむかえます。しかし、地方の政治は混乱し、武士団も大きく成長していきました。

摂関政治のしくみとともに、貴族の生活や権力争いなどをとらえさせてください。それと対比して、この間の地方政治の混乱、とくに受領（国司）の横暴な政治や荘園の広がりなどに注目させましょう。

●第3章「宮廷の女性たち」

摂関政治の時代に、今も人気が高い清少納言や紫式部ら多くの女性が、文化の面で大いに活やくしました。この章は、女性が主役です。

藤原氏は、宮中に入れる娘を教育するために教養の高い女性を求めました。このころ、国風文化が発達してきましたが、仮名文字を自由に使える女性たちは、国文学の面で競ってすぐれた作品をうみだしました（男性は真名、すなわち漢字を使うとされていました）。「枕草子」や「源氏物語」はその最高峰をゆくものです。

女性たちが活躍する背景となった宮廷生活の特色をとらえさせ、発展して彼女らの伝記などを読ませるといいでしょう。

●第4章「武士のおこりと院政」

11世紀中ごろから12世紀中ごろまでの地方の武士の争乱と中央の政治の大きな変化、武士勢力が強大化するさまを描いています。武士が主役になる時代はもう目の前です。この時代の変化をしっかりつかませましょう。

東北地方の争乱をおさえた源氏は、東国に勢力を張るとともに、中央にも大きく進出していきます。

一方、白河上皇が院政を開始し、摂関政治は衰えていきますが、やがて、院と天皇の対立、摂関家の内部抗争など、さまざまな矛盾が噴出してきました。寺社は僧兵を養い、源氏とならんで平氏の勢力も台頭してきて、12世紀後半の大乱の要因が醸成されていくのです。この過程をしっかりと学ぶことが大切です。

児玉幸多
Kouta Kodama

歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の鋳造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks
学習まんが　少年少女 日本の歴史　第５巻　貴族のさかえ

2015 年 3 月 27 日　電子書籍版発行
監　修　児玉幸多
まんが　あおむら 純
発行人　伊藤 護
発行所　株式会社　小学館
〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
s-ebook@shogakukan.co.jp

底　本　2014 年 12 月 23 日　増補版第 25 刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298105-8

※ご注意
本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および
有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。
個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと
著作権法、その他関連法によって処罰されます。